

自立した女と男を
人間らしい生活を
差別のない社会を
育み 創り出す

新しい家庭科

We

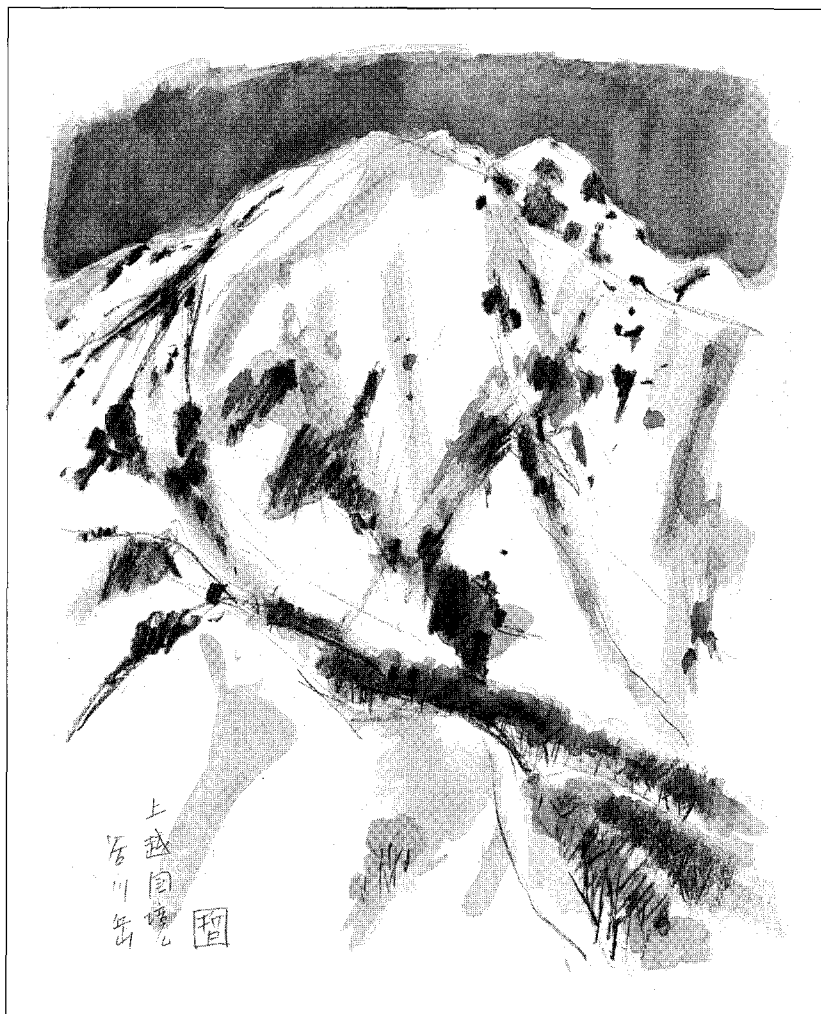
ウイ



2.3

1990

特集 教育の中の性差別



待春

風の地図

佐藤哲生

空の砂粒

もぐらがはたけの土の下を走りまわっている この辺は宅地化がすすんで家が建って とうとう今年はここだけにはたけがぼつつんと残ったから その辺のもぐらが寄ってきたのかもしれない この掘り返しはどうだ 野菜があちちでもこっちでもぐらぐらだ

もう前 台風で雨風がはげしくなりかかった夜 雨戸をトントんとたたく音が風にまぎれながらした まさかと思うけどトントンときこえるから外見まわったけど たれもない 夜中に台風は荒れ晴れた朝 起きてみたら雨戸の外のぬれ縁に びしよぬれのもぐらが一匹死んでいた もぐらが「あけてください」って雨戸をたたくなんて思わなかったから かわいそうだった

もぐらは土をもこもこに持ち上げている ところどころ穴がぽっかりあいている もぐらが土の上に出るのは夜だ あーよく働いたもぐらがそんなこと言って ピンクのもみじみたいな手のひらでつるりと顔の泥はらって背のびする うしろから子どももぐらも出てきて あのキラキラする砂粒はなんなの？ ときいている あれはお星さ あそこまで掘りには行けないんだよ と言っている 穴の奥から 風が冷たくなりましたよーって声がきこえて みんなまた土の中へ帰ったんだ

わたしだってお星は掘れないんだ もぐらと 地下と地上掘りわけて わたしもはたけに立って上向いて 「空の砂粒」と思ってみる

We

ウイ 1990.2.3月号

【特集】 教育の中の性差別

- インタビュー 三井マリ子さん(インタビュアー 半田たつ子) 4
—私が学んできた歴史とは、全く違う歴史があるということ……
- ✓■性アイデンティティを教育によって ・宮 淑子 12
- ✓■性差別を見抜く教育を ・三壁真司 16
- ✓■性教育が性差別を生む?
—フェミニズム的視点からの検討— ・寺島紘子 20
- ✓■都立高校男女格差募集について ・石川邦子 24

【学習の主人公たち】

「女のくせに」「男のくせに」と言われた時 28

東京都江東区東雲小学校六年二組／岩手県花巻市矢沢中学校三年／
福岡県立福岡農業高校二年

【発言】

学校の中の性差別 ・坂本ななえ 37

「家庭科教師をめざしています」 ・江口凡太郎 39

調査から—中学生の「男らしさ・女らしさ」観 ・山田和子 41

●新しい家庭科を創るために

小学校では／原子力発電所について考えよう ・坂本喜美子 46

中学校では／男女共にひきつける「住居」学習 ・吉川裕子 51

高等学校では／「住生活」をどう教えるか ・田村より子 56

＜情報1＞ 新教育課程実施を前に家庭科の条件整備は？（東京都の場合） 62

＜情報2＞ また新しい難問、高校新教育課程の移行措置 87

目 次

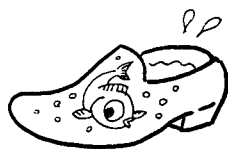
風の地図／待春	佐藤哲生	
巻頭詩／空の砂粒	羽生楨子	1
家族と家庭科／高校教科書『家族』と近代家族の提示	酒井はるみ	66
親子論と心理学／暮らしの視点からの再出発を	小沢牧子	68
海の輝く日／中間ということ	佐藤通雅	70
広がるネットワーク／「こんなネットワークが 広がるネットワークなのです」	平井雷太	72
あっちゃ、こっちゃ、フフフ／(10)線路は続くよ どこまでも？	田中正彦	75
筐／“Power to the Imagination”	村田直文	76
幼児クラブやってみる？／⑤「大きな集団・小さな集団」	佐多和子	77
KNOW HOW共学家庭科／出る釘は打たれる	湯沢静江	78
私の朝鮮史／ <small>チョンクサン</small> 丁茶山	岡百合子	79
食べもの文化史／酒	石川尚子	80
よそおい	内山裕子	81
コンピューターと暮らし／その10	碧海酉癸	82
石けんコンサート通信／これからも「好きです石 けん」と口ずさみながら	よしだあきひろ	83
波／学校の中の性差別	半田たつ子	84

●ひと 平井雷太さん 60 ●こだま これからの消費者教育 61

○Weになんでも言おう なんでも聞こう 86 ○Weの読者会だより 88

○Weの会通信 89 ○イキイキぐるうぶ 90 ○泉 91 ○十字路 92

○アンテナ 94 ○編集室からあなたに 45 ○WE EDITOR'S NOTE 96



Interview • 三井マリ子 さん

私が学んできた歴史とは、

全く違う歴史があるということ……………



「女たちのマリ子、男たちもマリ子」これが都議に躍り出ようとする時の三井さんのキャッチフレーズだった。教育の中の性差別を潰すわれらの旗手は、若く美しい。政治屋のオジサンたちが、正論を述べ立てる彼女に浴びせかける野次の醜さ。その光景を『見たせばあらツ男ばかり』（日本実業出版社）に。ニューヨークで見つけた『Oの物語—組織の中で他と違っている場合—』を訳そう！ と超多忙の中で決意した三井さん。'89年四月『Oの物語』は、レターボックス社から、味わい深い大人の絵本として世に送られた。マリ子色の赤でよそおって。

インタビュー

半田 たつ子

お茶の水女子大学（英文科）卒業。フルブライト留学生として、コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ修了。（財）国際文化会館勤務後、私立桐朋女子中・高校、都立野津田高校、駒場高校教諭。そのかたわら「行動する女たちの会」をはじめ、数々の女性団体に属し、男女平等のために働く。

'87年東京都議会議員補欠選挙に立候補、デッドヒートの末、当選。'89年の都議戦では、群を抜いてトップ当選。ゴミ清掃車に乗り込むなど、既成政治家にはないセンスとパワーが、広く都民の支持を得ている。

●中・高校生のころ

——マリ子さんの御出身は秋田県でしたね。どんな高校生だったのでしょうか。

三井 高校生時代はあんまりお話できることなくって、すごい受験少女だったんです。田舎なのに、今考えると、うちの父親はどうしてあんなところを受けさせたのだろうというような難しい東京の高校を受験して、落ちちゃったんです。中学校の時、私は、演劇部で、弁論部で、コーラス部で、生徒会の副会長だったんです。いつ勉強したんだろう、つてものでした。でも成績もトップでしたから、私なりに、世の中変えようなんて思っていたんです。課外活動を派手にカッコよくやっているタイプでした。

それが、試験に落ちてしまったので、ショックでした。都会の人は何てよく勉強するんだろうって。受験勉強は、今までやっていたようなものとは全然違うということが分かって、高校ではよく勉強をしました。中学の時、足を怪我して、冬になるとこんなに腫れて、水を注射器で吸いとらなければならぬ、ということから、体育がほとんどできなかったんです。そんなこともあって、本を読むことと勉強すること以外には、自分の個性の出しようがない。そんな高校生活でした。

一つだけ思い出すのは、井上清の『日本女性史』を夢中に

なって読んだことですね。確か高一の時でしたが、自分がこれまで勉強してきた歴史とは、ぜんぜん違うことに驚いたんです。そういえば、私の父は、大変私に入れこんでいて、何でもさせるっていうか、わがまま一杯に育ったんですけれど、母に対しては違うんですね。病気で入院していた母が帰って来ると、直ぐ仕事をさせるとか。しょっちゅう東京出張していたんですけど、自分の下着がどこにあるのかも分からない。だから、退院したばかりの母を、直ぐ使って準備をさせる、という具合だったんです。

井上清の『日本女性史』を読んだ時、父の母への仕打ちや身近の女の人の暮らしを重ね合わせて、私が学んで来た歴史とは全く違う歴史があり、私は、そちら側の人間なのだ、ということが分かったんです。しかも、本の最後に、井上清のプロフィールが書いてあるんですが、彼の学者としての生活を支えたのが、看護婦をしているお姉さんだった……。

私は、それを読んでまた愕然としました。井上清の研究は素晴らしいものだけれど、彼でさえ、研究に打ち込み、学問の世界で業績を挙げられたのは、彼が男だったからだ。しかも、その研究は、看護婦をしていた姉が学資を出して支えたという、男と女の役割分担によっていた、ということに……。このことに強烈な印象を受けましたが、あとは、よく勉強するごく当たり前の高校生だったんです。

●ハンディを持つ人の側に

——お父さまが、マリ子さんは大事になさったのに、お母さまに対しては違ったということね。私の場合も同じでした。

三井 よくあるみたいですね。

——マリ子さんを見てみると、のびのびと大事にされて育っていらつしやった、ということが分かるのね。

三井 そうですかあ、わがままだっていることでしょう？ 私のはあまのじゃくなんです。世の中全体が、こうすべきだって思っているようなことを、アラッて、ひっくり返しておもしろがるようなところがあるんです。

——うーん、マリ子さんは、確かに豊かに花開いて、何の陰りもないように思うけれど、同時に弱いもの、傷ついたものに寄せる繊細な感受性を持っていらつしやるのね。この資質は、政治家としては、とても大事なのだけれど、実は政治家で持つていらつしやる方は、余りにも少ないのではないでしようか。私の偏見かもしれないですけど。

マリ子さんの優しさは、どこに秘密があるのでしょうか？

三井 私の母の下に、二人妹がいたんですけど、二人とも耳が不自由だったの。田舎では、そのことが原因で、婚期が遅れるとか、つらい思いをしたと思います。二人は、私の家で家事を手伝っていたことがあり、私をとても可愛がってくれました。私は、彼女たちと小さい時から筆談とジュエチャー

みたいなものでコミュニケーションしていたんです。

N 高校にいた時、手話クラブをつくったんですけど、隣にろう学校があるのに、なんの交流もないんです。それはおかしい。もっと交流できるような方法があるんじゃないか、と思ったんです。そんな考え方の根っこに、叔母たちのことがあったかもしれません。外国に行くと、日本人に珍しく表情が豊かだといわれるのですが、これも小さい時から、表情の力を借りて、叔母たちと話してきたからかもしれません。

二人ともガンで今年亡くなったんです。耳が遠いと、通訳してくれるお医者さんっていませんでしょ。自分の体のことって、たとえ家族でも代弁してもらいたくないプライバシーってありますでしょ。だから最終的に、苦しくてどうにもならなくなるまで言わなかったんじゃないかと思うんです。今年、パタパタって二人とも亡くなりました。

母の実家は、大きな農家で、庄家でしたから、のびのび育って性格もいいし、でも体が不自由なこととぶつかる矛盾を、小さい時から見ていたっていうことはありますね。

——私が四つの時、亡くなった兄が、筋ジストロフィーだったんです。兄について覚えていることは、物心ついた時の原記憶そのもので、だからくつきりあざやかです。断片的な記憶なんですけど、母が兄を自転車に跨がせて、学校への送り迎えをしていたこと、運動会も遠足も参加できなくて、色が

真白が目が大きくて、とてもきれいな少年だったこと、小四で亡くなりましたが、この年齢で活動が制限されていることは、兄にも父母にも辛いことだったと思います。私にあやとりなどを教えてくれました。未だに、兄が心に焼きついているということは、口幅つたい言い方ですが、私を必然的に弱い立場の人の側に立たせました。

三井 そう、そういうことですね。私も、叔母たちが耳が聞こえないって知った時の驚き、覚えています。エエッ！ そんなことって！ ってね。信じられなかったですね。

今、政治家になって、社会党都民会議に属していますから、要望や陳情に來られる団体の方は、手厚い福祉を必要とされる方が多くて、社会には、政治で解決すべき問題がこんなにあるのかってことを、つくづく考えさせられています。

——その方たちにとってマリ子さんは、希望の星だから、がんばっていたかなければ、ね。

●青春のころ

——マリ子さんのお茶の水時代のお友達には、今Weにとって、私にとっても、大切な方たちが大勢いらっしやいます。が、その頃のマリ子さんは？

三井 いやあ、その頃の私は、週刊誌にあるように、受験の疲れで遊んだんです（大笑い）。私のクラスメートたちはヘルメットを被り、黙々とビラを渡したりしていたんです。私

はビラをもらいながら「うーん、でも明日はデートだ」とかね。（大笑い）。

もちろん、友達が大学紛争の結果、留置所に入れられたりすれば差入れに行ったりはしていましたけれど……。複数の男の友達と、青春していましたね。

——それは一生懸命勉強なされた反動としても、無理ないですよ。卒業後、就職して、がぜん気付かれたんですよね。

三井 国際文化会館の企画部員という形で入ったのですけれど、仕事としては秘書でした。

——そのお仕事から学校の先生になろうとされたのは、どういうきっかけからですか？

三井 国際文化会館には組合がなかったのです。お茶汲みの問題など、つきつめて話しあいたかった……。けれども女の人でも問題にもしない人が多かったですね。ちょうど国際文化会館が拡張する時期にかかっていましたので、三年で辞めたんです。私には英語の教員資格があったので、公立の方は、もう試験が終わっていましたから、私立校に片っ端から電話をかけました。本当は共学校に行きたかったのですが、数が少ない上に、空気がなくて、T校に電話したら、「うちは男子校だから女教師はいらない」って言われ、ムカムカしていました。でも、その時、「女子校の方で募集していますよ」と教えてくれたので、試験を受けて採用されました。

——私の下の娘も、T女子校に行っていました。小学校は男女共学で、納得できる教育だったのですが、どうして中学、高校が別学になってしまうのか、とても疑問でした。PTAの席で、「先生方は、不思議に思われないのか、今までに共学校にしようという論議はなかったのか」、質問もしました。お答えは、「そんな論議をしたこともあるし、今も出ない訳ではない。ただ今更、変えるほどの動きにはなっていない」というものでした。当時の校長は、教育界で結構羽振りがい人でしたが、PTAの場で、「卒業生の中には、医者や弁護士になったものもある。だが大部分は、あなた方と同様、主婦になるんだ」と平気で話す人でもありました。

「もういやっ！ 許せない」と思っていたら、娘も女子だけが固まっているのはおかしい、って思いはじめ、男女共学の都立高校に替わったのです。

三井 片方の性のみ集めて教育するって絶対に変ですよ。

お嬢さんは珍しい例でしょうが、よく飛びだされましたね。

——皆さんが「どうして？」って、お尋ねになりました。その度に娘は「女だけで過ごす生活はイヤなの」って、一つ覚えのように繰返していました。そして共学校に移ったことは正解だったと言っていました。

三井さんは、T校にいらっちゃった時、「ロシナンテ」という文集を出されましたね。かなりレベルの高い内容だった

と思うし、「ロシナンテ」の命名に、志を感じました。

三井 そうでしたねえ、女教師問題とか、女子教育を考えるとかね。学校でやっていて見とがめられてはいけないと、メンバーの家を回ったりして……。大したことでもないけど楽しかった。T校に三年いて、卒業生を出したところで、共学の都立N高校にかわりました。

先日、T校の卒業生にパーティするから遊びに来て！って言われて行って来たんです。そしたらある教え子が「皆さん、女子ばかり教えたくない、私は共学校に行きま〜すって、私たちの前で言って、さっさとやめちゃった人です」と、私を紹介したんです。そんなこと覚えていないんですけど……。

N校に八年いて、K高校に転勤し、一年で都議会議員になったのです。

●運動によって目覚める

——三井さんが、「ロシナンテ」を発刊して、女教師問題や女子教育問題を提起していらしたことが、「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会」の活動に発展して行くのですね。

三井 そうですね。でも私は、その前に半田さんにお目にかかっているんですよ。私が初めて女性解放運動らしきものに入ったのは、市川房枝さんの婦選会館だったのですよ。要す

るに、頭の中で女性史とか、女性解放だとか考えているんじゃない、ということは分かっていたが、それをどうやって運動に結びつけていったらいいのかわからなかったんです。そんな時、「家庭科の男女共修をすすめる会」の集会に行きました。婦選会館の地下にあった事務所を訪ねたこともあり、確か梶谷典子さんが名簿の整理をやっていたら、しやったのを手伝ったりしたんです。数回行ったんですけど、へーこれが運動なのか！ と思ってたんです。ずっと後で、市川さんの伝記を読んで「運動とは事務の集積なり」ってね。ああ、本当だなあと思っていました。本格的に運動にかかわったのは「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす私たちの会」ですけれど。

その頃、T校に移ったのですが、面接で色々聞かれたんです。「結婚は？」、私はもう結婚していましたが、「お子さんは？」とか。そういう問いに「タコソ」としていたんですが、国際文化会館でのお茶汲みの問題とか、もやもやしていたものの正体が見えてきたんです。

「行動を起こす会」のことは、新聞で知ったんです。それで出掛けて行って、「私に何ができますか？」って聞いたんです。そしてたまたま、駒野陽子さんだったと思うんですが、こういう集会を開くには……って、準備段階からの手順等を教えて下さったのです。そこで教育分科会に入ったのが、そもそ

もの始まりなんです。

——そうでしたか。私は、三井さんは、「行動を起こす会」の発起人だと思っていましたが……。教科書を問い直す会等に参加した時、中心になって生き生きと発言していらしたから。

三井　そうですね。今思えば、教育分科会で最初にやったのが、高校入試に於ける女性差別で、教科書はその次だったんです。盛生高子さんが「こんなことがあるのよ」って話しながら、関東の北部から、東北では、有名校やナンバーズは、男女別学だと言ったんです。そういえば私が通った秋田の高校も男子系で、女子は私のクラスに三人しかいなかった。それから全国を調べて、一問一答集を出しました。表紙の絵は、私が描いたんです。

——あらっ、あの男の子と女の子の絵ね、覚えていますよ。

三井　そうですね！ 私は絵が好きだったんで、初期の頃のビラなんかは、だいたい私が描いているんですよ。

これが一九七五年ですから、十四年前ね。それが今ようやくと都議会で問題にされるようになったんですね。

——本当にねえ。

三井　今、やっと旧中学のナンバーズスクールと言われる都立高が、女子の入学定員を四〇％に広げたんですから。

——そうですね。問題点は相当早い時期に出ていて、それ

がようやく実を結び始めたんですね。十四、五年前に持った問題意識を、都議会で、資料をバツチリ揃えて質問に立つ時、感慨がありますでしょ？

三井 ええ、当時本当に一生懸命だった中嶋里美さんや駒野陽子さん、盛生高子さんたち……。みんな仕事を終えてから集まってやったのですから、大変でしたねえ。

——「行動を起こす会」は、随分マリ子さんを育てたでしょうね。

三井 そうですね。当時の事務局をしていた山田満枝さんが言っていたんですけど。私が「本当の学校は、行動を起こす会でした。そして教科書は、行動を起こす会の会報でした」って言ったんですって。人の前で発言して、人を納得させる術とか、集会を開くために準備し、人を集めるための方法を考えるとか。まあ、よく電話しましたねえ。動員するため、朝バツと起きて電話して、夜帰ってから電話して。人を集めるために苦労しましたねえ。

●政治家としての今

——本当に。今では、当たり前に思われるようになったことでも、「家庭科の男女共修をすすめる会」にしても、「行動を起こす会」にしても、発足当時は、ごく世間並みの常識からすれば、まるっきり過激な問題提起でしたでしょうから。

三井 今でも男の人たちにとっては、環境問題などのフツ―

の市民運動に比べて、ああいうのはイヤだとか、三井さんのやっていることは分らないと言う人がありますね。

——今、輝いているマリ子さんにも、ひたすら受験勉強をしていた高校生時代があり、井上清の「日本女性史」で目を開き、世界の潮流の盛り上がりの中で、運動と共に育って政治家になった、なんてね。そのプロセスを書く人がいると、政治離れの若い人たちをひきつけることができるかもしれないね。選挙の時は、若い人たちの応援が賑やかでしょうが、普段、彼等に語る機会がありますか？

三井 大学の学園祭には、呼ばれますね。また労働組合の青年部にもよく話に行きます。先日、労組の書記の人が、話を聞いた後で、何故女性が書記をさせられるのか、よく分かった、って言うんです。書記って大変なものね。会議の最中は発言できないし、会議の後でメモを整理しなければならなし……。もうこれからは、黙って女が書記を引受けることはしません、って宣言したんです。

お茶汲みに関しては、最初の就職以来、執念みたいになっているんですが、都議会の慣習もとてもおかしいんです。私は何としてもこれを変えたいと思っているんですが、そのためには、是非都民の方たちに、その様子を見ていただきたい。それには、議会の傍聴に来ていただきたいと願っています。どの委員会に出ても、お茶を入れてくれるのは、若い女

の人で、その人たちは、お茶を一通り入れた後、そのまま廊下で立っていて、もちろん時々は座りますが(笑い)、要するに待機の姿勢でいるわけです。委員会は、一時から始まってへたすると十時までかかります。その間若い女性が、お茶のためだけに、廊下に待機しているっていうのは。ちゃんと公務員試験に受かって、都民の税金で働いている女性の仕事がこれだっていうことは……。私は何としてでも変えたいんです。

——ほんとですね。

三井 東京都が、男女平等の立派なプランを立てていても、足下がこうではねえ。

だいたい議会そのものが、議案に対して徹底的に討論して、その結果で決まるのではなく、根回しその他で、もう会議の前には流れが決まっているんですよ。にもかかわらず、儀式として会議をやるんだから、面白くもどうもないわけです。これでは一般の都民は、政治に対して興味を失うわけで、注目された裁判のように、傍聴券を求めて、列ができるなんてことにならないわけです。他の国には、そういうことがあるというのに。

女の人は、根回し政治からはじき出されているので、もっと議員に女の人が出ることが、最大の悪である根回し政治の禍根を断つことになると思うんです。

委員会は、まだましですが、ホント本会議はつまらないんですから。すぐコックリやっちゃいます。

——女性議員の進出によって、でも、いくらかは変わりましたか？

三井 そうですね。議会には再質問という制度があるんですが、今まであまり使われていなかったんです。でも女性議員三人が三人とも再質問をやったんです。ある人は、知事が質問の意味がちよっと分からないらしかったら、自分の席で「ハア—イ—」ってやったんです。そしたら騒然となって、野次が飛んだのです。その人は、市議会出身で、自席での発言は市議会では差支えないらしいのに都議会では許されないのです。それが分かったら悪びれずに、ずっと自席を離れて発言するんです。その行動が実に自然なんです。でも古い議員たちには、我慢がならないらしいんです。慢すべからざる議場を、汚したって思うんでしょうね。

また四谷信子さんが副議長になって、これまでのクンづけの呼名をサンにしちゃったんです。知事も鈴木俊一さんって呼ぶんです。感じ変わりましたね。こんなこと何でもない。予算も掛からないし(笑い)。でも舞台裏では大変だったらしい。まあ、女性があらゆる場に二ケタ入っていけばすべてが違ってきますね。

——ますます元氣なマリ子さん、どうぞいいお仕事を！

性アイデンティティを

教育によって

宮 淑 子



家族以外の人と会うのも話をするということもしません。痩せれば病気が治るということは決してないと思うけど、過食をしなくなると、体重が減ったら、外へ出ていくことの抵抗はかなり減ると思っていました」とある。

病気の経過は、私の会った患者さんたちと、まったく同じ。そして、病院に入院してもそれほど経過がよくなり、まして閉鎖病棟に「隔離」されても、治療的効果はほとんどないことも、まったく同じである。

おそらく、性アイデンティティに預いた少女なのであらう
と思いつながら、私は返事をしたためる。

今日もまた、一通の手紙が舞い込んだ。
「はじめまして。私は過食で悩んでいる十八歳の女子です」
富山県のA子さんからである。

家族構成（父母は離別、祖父母と同居）と病気の経過（高校入学と同時に発病）が詳しく書いてあり、入院を繰り返しているうちに高校を中退したいまは、『もう治らなくなつていい』と開き直つてしまつて、食べてばかりいます。でも、時々むなしくてたまらなくなります。家に閉じこもるのは余計によくないと思うけど、元来、人目を気にする性格なので、今は太っていることで更に敏感になり、外出はおろか

思春期やせ症（拒食症とも呼ばれる）という病気を取材して四年。私はかなりな確信をもつて、この病気の核に性アイデンティティの困惑があることを読み取るようになった。もちろん、人間一人一人個性があるように、「病む理由」も実は一人一人異なるから、あまり一般化するのには危険なのだけれど……。

東京学芸大学の深谷和子氏は、「女性の場合は、アイデン

ティティの形成や、将来へのパースペクティブの形成に『性』が大きな役割を持つ」という言い方をしているが、まったくその通りと実感する。

まず、性アイデンティティを、「女としての自分の性を受け、自信を持つこと」と定義するなら、思春期は誰にとっても戸惑いの季節といえるだろう。

月経の到来、いままで中性的・非性的な存在でいられた至福な子ども時代は去って、しぐさや行動に女らしさ、男らしさの役割(ダブルスタンダード)が課せられて行くことへの反発、屈辱感。とりわけ、自分の意思とは無関係に、生臭いにおいを周期的に運んでくる、「内なる自然」との出会いに否応なく自分が生物的なメスであることを意識させられる。メスとしての宿命としてある妊娠・出産からもう逃れられないと知ったときの困惑、恐れ、自由の喪失感。

こんな心理の断片は、多かれ少なかれ、女なら誰もが背負い込むものだが、やがて自分の性を諦念した、後ろ向きの帳尻の合わせ方をして、私たちは大人になって行く。

そのプロセスは、昨今の少女たちも寸分変わらない。「社会的責任が軽いから」「男性に頼れるから」……だから「女に生まれてよかった」という意識をすばやく取り込む少女たちほど、外の規範にあっけなく従った生き方……性的対象物として「愛される女の子像」を演じる……をしやすい。

この心理を深谷氏は、「オリズム」と名づけている。「オリズム」つまり、男の子たちからチャホヤされる生き方、男の子のライバルでない生き方を選択する、女の子特有の生き方をいったものである。

最近では、「シンデレラ・コンプレックス」という言葉のほらが馴染みやすそうだが……「シンデレラ・コンプレックス」つまり、童話の主人公のシンデレラのように、自分の人生を一変してくれる王子様の存在を待ち望み、王子さま……つまり、男性との結婚によって心の安定を計り、死ぬまで保護され守られて暮らして生きていきたいと願う、女性の依存的な心理をいった言葉である。

アメリカの作家、コレット・ダウリングがその著『シンデレラ・コンプレックス』で命名したこの言葉が、またたく間に世界中に広がったのは、それだけ女性心理の核を突いたからだろう。といっても、それは女性の生来的な心理ではなく、そう育てられたために植えつけられた後天的な心理、いわば社会的心理にすぎない。

けれどもちょっと見渡してみれば、古今東西の小説、メディアが、いかにこのワンパターンの女性心理、女性の生き方を「愛」だと錯覚させ、シュガーコートに包んで女の子たちをしびれさせ、夢中にさせてきたことか……。

八七年の三月、中野区で「ガールズビーアンビシャス」と

いう催しがあった。私はコーディネートとして、タレントの兵藤ゆきさんを迎え、小・中・高校の女の子たち百人に、これからどんな職業につきたいかを語ってもらったのだが、「お店を持ちたい」「作家になりたい」「漫画家になりたい」と小学生ほど、人生のチャレンジ精神が旺盛なのに、中、高校生となるにつれ、人生の希望が目減りして行き、四月から大学生となるという少女からは、もう結婚が最大の課題、その後の人生は「相手次第」という答えが出て、ガツカリさせられたものだ。

では、「オリズム」「シンデレラ・コンプレックス」に反発した、直感力の優れる少女たちはどうするか。彼女らは、出口なき未来を予想して、荒れたり、心を病んだりするのである。

考えれば、私はまったく脈絡なく、最初、社会に反逆する少女の群れ（つまり、「問題行動」といわれる一群）を取材し、その後で、思春期やせ症といわれる、やまいを抱えた少女たちの群れ（つまり、「症状化」といわれる少女たちの一群）を取材することになった。

そしてわかったことは、「私たち、将来は主婦という灰色の一本道だもん、いまのうちにギンギンに楽しまなくちゃ損よ」と異装でツッパリ、大人社会にあらがう少女たちは、生

き難さを言葉で行動で外在化させた一群であり、一方、拒食という身体的表現で訴える思春期やせ症の少女たちは、生き難さを内在化させた一群であったということ。

そして一見、脈絡のない取材に見えたが、性アイデンティティというキーワードで整理し直してみると、こんなことが見えてきたのである。

つまり、彼女らは、「問題行動」「症状化」によって、自分のアイデンティティ、居場所を捜し求めようとしていること。いわば人として、その訴えは健全な訴えであって、その点を見ないで、「非行」「やまい」のレッテルを貼って、いたずらに補導の対象としたり、医療の対象としただけでは、問題の根本的解決にならないばかりか、「非行」を、「病み」を深化させるだけだということが……。

後者の場合、患者さんたちは成熟を拒否し（女性性の拒否）、大人になりたくないといっているのだから、治療は彼女たちが自らの性をどう受け入れていくかという点に置かれるべきはずなのだが、「結婚をし、子どもを産めば治ります」と社会が期待する女性像にはめこもう、社会適応させようとする医者が、圧倒的に多かったのである。

元来、医者は病める個人を対象にしてきた。だから、個人の病理（最近では少し広がって、家族の病理という視点をもつようにはなったが）しか見られないのは仕方がないことな

のかもしれないが、個人は社会の中で生活をしており、その社会の文化を吸収して生きているのである。

私たちの社会で支配的な文化といったら、ダブルスタンダードに支配された文化である。女性は、常に従順で受け身であれと、男性に対しての「性的対象物」としての価値だけを要求される。そこでは、女性は若くてやせているほど美しいとされるのだ。

その文化に異議申し立てして、「大人になりたくない」「女になりたくない」という彼女たちの存在を賭けた叫び（性への疑念、嫌悪、拒絶というハンガーストライキとも考えられる）が、臨床医の手にかかる人たちまちにして、個人の人格の未成熟性……自我の未発達性、弱さ、不適応……や、親子関係の歪み、とくに母親の不適切な子育てに起因すると考えられてしまう。

そして本人と家族の人格の深みに踏み込むために、心理テストが行われ、「異常」と「正常」を判定され、「治療対象」として括られ、選別とラベリングの枠組みの中に押し込まれてしまう構造を、取材現場で嫌というほど見てきた。

父親と母親が離別している冒頭のA子さんは、おそらく、家庭崩壊という「病理」でもって、やまいを「わかった」ことにされてしまったと考えられる。「私のやまいはそこにな

い」と悩んでいるA子さんを置き去りにして。

では、性アイデンティティに困惑している少女たち、身体を張って、女の性と生へ異議申し立てしている少女たちに、女である性を肯定的に捉えるための教育といったら、どうしたらいいのだろうか。

一ついえることは、女である性が社会的にマイナス記号化されないようにすること。つまり、女性の存在価値を、生物学的な母性機能にのみ収斂させてはならないことはいうまでもないが、女性自身も、自分の人生をどう生きるかというビジョンの中で、産む、産まないを決める主体性（性と生殖の自己決定権といわれるものだが）を持つことだろう。それなくして、女の自己実現は難しい。

そのことが、ようやくフェミニズム運動の中でわかってきた。そして、それを少女たちに伝えるセクシュアリティ教育こそが望まれる、ということも。

けれどそれを教育、それも学校教育という枠組みでやるのかと考えると、難しい気がする。なぜなら、教師自身が豊かなセクシュアリティを生きていないと、とても教えられないからだ。

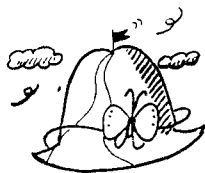
大人自身がまず問われるセクシュアリティ教育、大人と子ども、合わせ鏡のセクシュアリティ教育なのである。

（みや よしこ・ジャーナリスト）

性差別を見抜く

教育を

三 壁 真 司



生徒の意識に一石を投ずるという意図はあった。しかし、現在でも先の投書の例や、体育祭の応援団の団長は男子で、副団長は女子、というようなことはなくなっていない。

学校(都立全日制普通科)という所は、男女別定員や体育と家庭科の男女別履修という点を除けば、性差別が見えにくい社会である。女性の管理職こそ少ないが、仕事場としての学校は女性が働き続ける条件に恵まれている。何よりも、男

’88年の秋、ある新聞の家庭欄に次のような投書が載った。
「子供の高校の文化祭の受付で『父兄の方ですか?』と聞かれた。当校では生徒の出席簿は女子生徒が先。なのになぜ母親が『父兄』と呼ばれなければならないのか」

この学校は私の勤務校で、名簿の順番については、三年前に新一年をスタートさせる際に私が提案し、職員会議で僅かの差で承認されたものである。私が述べた提案理由は、HR委員や各種委員会の委員長の選出状況を見ると、正ポストは男子という場合が圧倒的に多いという事実であった。名簿順を変えることで何かが変わると考えたわけではなかったが、

革である。その中で、現在私が三年の担任として考えさせられるのは、女子生徒の進学先が、短大や四年制大学でも人文・家政系に偏ってしまうことである。土木系の女子学生ネットワークが作られる時代なのに、理工系や法・経済系を志望する女子生徒が極めて少ないのが現状なのだ。これは、制度上の差別とは違った意味で大きな問題であると思う。アメリカのアファーマティブ・アクションのような施策が望めない日本では、男女同一の教育課程の実現と共に、進路や学習におけるロールモデル(役割手本)ということが課題となるだろう。

私が担任をしている学年が一年生の時、「職場見学会」というのを企画した。様々な職場に依頼して、生徒をグループで訪問させるという試みである。ある女子生徒はその感想に「一番よいと思ったのは、社長を除く六人の半分が女性だったことです」（デザイン関係）と記し、別の女子生徒も「結婚後もアルバイトなどで仕事ができるので、生活との両立ができてとてもよいと思う」と述べている。後者の生徒は教少ない理工系志望の女子生徒なのだが、教員は生徒に対して、女性であることと将来の進路をどう結びつけていくのかを、問うていきたいものだ。その際、既に多様な分野で女性が活躍していることに目を開かせ、自分の目標とするモデルを発見できるよう援助することが学校の仕事となるだろう。この点に関連して、教科書の教材や登場人物の男女比の偏りや、固定的な性別役割分担に沿った描き方が問題となる。特殊な例だが、私が担当している「倫理」という科目では、女性は一人も出てこないものである。女性史や女性学の成果を大胆に取り入れることが、今後の私自身の課題でもある。

現在は、一年生の「現代社会」4単位中の2単位をも担当し、7～8時間を「女性の社会参加と家族」というテーマにあてている。A働く女性の現状（M字型雇用やパートタイムの権利など）、B雇用における男女平等（雇用機会均等法とその問題点）、Cフェミニズムの潮流（女性差別撤廃条約

と欧米の女性解放運動）、D「女らしさ」と家族の歴史（性差・近代家族・日本女性史）、E女の自立・男の自由（現代家族の変化と性別役割分担）という内容で、プリントを作成して授業を行っている。同時に、各クラス一名計六名の生徒が、テーマに関連する活動を行っている団体・個人を訪問し、授業で発表するというも行っている。

今年度は家庭科共修についてWeにお願ひした他に、マジョリティ企画（女性と政治）、江戸川ユニオン（パート労働者）、世田谷区婦人青少年課、コンピューターと女性労働者を考える会、そして保育園の保父の方に依頼した。（昨年まででは、あごら、中野区、婦人有権者同盟、婦人民主新聞、鉄鋼連盟裁判、増野潔さんなど）教育、老人・障害者福祉、労働・消費者問題、十五年戦争、差別と人権、東南アジアと日本などの他のテーマについても同じように実施しているが、留意していることの一つは、どのテーマについても女性の団体や個人の方を必ず入れるということである（女性民教審、老人給食ふきのとう、戦争を許さない女たちの世田谷の会、アジアの女たちの会など）。逆に言えば、現在の日本の社会が抱えている問題に、主体的に関わろうとしている運動のかなりの部分が、女性によって担われているということでもある。女性の自立についての男性の側の発言を含め、身近なところに現状を問い直す多様な運動があり、そこに自分の生き方に関

わる課題を発見してほしいというのが私の願いである。

さて、例年授業に先立って実施しているアンケートのいくつかを紹介しよう。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」という意見に対し、女子では「賛成・どちらかといえば賛成」と「反対・どちらかといえば反対」が半々だが、男子では前者が8割近くに達する。子供のしつけについて、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」というのと、「差別なく同じように育てるのがよい」とでは、女子は後者が6割強、男子は前者が7割弱。「女性は夫や子供中心に生きるべきだ」・「仕事をする能力において女性は男性より劣っている」に賛成する男子が、それぞれ4割・2割ほどいるのに対し、女子でも16%・1割がそう答えている。これらの結果をどう受けとめたらよいのだろうか。

若い世代の保守化が指摘されたりもするが、生徒たちが自らの問題として性差別の現実に向面するのは、社会に出て家庭を持つてからであることを考えれば、先の結果はむしろ当然と言うべきであろう。私自身のことを振り返れば、そう大きな口がきける立場でもない。結婚し子供が生まれてから、少しずつ家事・育児を分担してきたものの、未だに付け焼ぎ刃であることを免れていない。

D・ラムスが「日本の教育制度について」(『ラディカルな日本国憲法』所収)の中で、「性差別を含めてあらゆる差別

との戦いの中で教育は主要な役割を果たす義務がある。ところが、性差別についてきくと、考えたこともない、どんなことかわからない、あるかどうか知らない、あるとしても良いか悪いかわからない、と答える人が多数だ。この女性たちは教育制度に差別されただけでなく、性差別に関して積極的に無知を教えられたといつてよいだろう」と言っている。私の授業の目標も、何を性差別と言うか、どういう意味で問題なのか、なぜ性差別が生まれるのか、性差別をなくすために何が必要かを考えるという点におかれる。

訪問発表授業の感想として、ある生徒は「今まで普通だと思ってきたことが男女差別だと聞いて、ああそういえばそうだなあとか、そんな見方もあるんだなあと思いました」と書いている。特にパートタイマーや職場における差別について「自分の将来に関係があることなのに何も知らなかった」という生徒も多い。しかし、性差別に疑問を感じることで、それを自分たちの克服すべき課題ととらえることの間には距離がある。男子の中には、「家庭のことをきちんとやるならば、外に働きに出てもいい」というところまでは理解を示す生徒もいるが、「女性は結婚するとすぐ会社をやめてしまうから差別があるのは仕方がない」という意見も必ず出る。逆に、「専業主婦するつもり」という女子生徒も依然として多い。

ライフサイクルの変化に伴う女性の生き甲斐の問題などを

指摘しても、「保育園に子供を預けるなんて、母親の責任を放棄するものだ」と考える生徒が圧倒的に多い。この点に関しては、育児休業制度などの社会的な視点と、母性や父性の伝統的な役割を問い直すことが不可欠である。現状では、女子生徒の多くは、「子育てが終わったらパートに出る」将来を思い描き、けなげにも家事・育児は女性の仕事だと考えている。そういう女性の状況が、労働力の周辺化という社会における差別と裏表の関係にあることに思い至り、「男は仕事のみでよいが、女性は仕事と家庭を両立しなければならぬ」ということを矛盾ととらえるまでには至らない。

一方では、性差別を指摘する声をこだわり過ぎだとして、「男女それぞれにふさわしい仕事、女性にしか出来ないことがある」「男女が同じでは個性が失われるので、平等にも限度がある」という意見も出る。「家事・育児だって立派な仕事」なのであって、「働きたい人は働き、家庭に入りたい人は家庭に入ればよく、人それぞれの自由」と言う。ここでの問題は、家庭という私生活と職業や政治などの社会生活の間に、自由な関係が成り立っていない現実を目を向けることだ。母子・父子家庭や老親介護を担う家族など、家族が抱える様々な問題を視野に入れない。同時に、「働くことの不由」は人権の問題であり、「働かない自由」は特権であることも考えさせたい。女性が自らの内に「甘え」を自覚するこ

とによって、自分が学び身につけたものを社会に還元するとの責任についても問いかけたい。

もちろん、女性が社会に出ればすべてが解決するということではない。それは一つの戦略である。問題は、権力の平等という原則（性差別とは何か）を確認した上で、現実の生活の共同性の中で男女の関係を批判的にとらえ直していくことだ。料理が女性の仕事ならなぜコックは男性か（生徒は体力の差だと言う）、給食を作る仕事にはなぜ女性が多いのかと問うことで、それらが生まれながらのものではなく、社会的につくられたものであることに気付く。「男で働かなかつたらすることがないと言っているのに驚いた」「男子ももう少し暮らしというものを知ってほしいと思った」「男性の中にも女性の自立に関心がある人がいると知り驚いた」という声にみられるように、男も変らねばならないこと、男が家事・育児をすることの意義や可能性にも気付かせたい。また、「女性参政権には大変な努力と時間がかかった」という歴史への視点も欠かせない。最後に「差別をなくすためには行動を起こさなくてはいけない」という実践への態勢を喚起できるか否かがポイントとなる。性差別を見抜くことは、より多様な人間関係を創り出していくための出発点であり、教育はその種をまく仕事である。

（みかべ しんじ・都立高校教諭）

教育の中の性差別

性教育が性差別を生む？

— フェミニズム的視点からの検討 —

寺島 紘子

男性がつくる少女むけ性教育の目標

学校において行われているさまざまな内容の性教育を一律に論じることとはできないが、私は最近、「性教育」の中に性差別イデオロギーが巧妙に隠されていることに気づきだした。女性学に関心を持ち出してから、男性主導型の、わが国の性教育の気持ち悪さがより鮮明に自覚されるようになったのである。

最新流行語ともなったセクシャル・ハラスメント。女性たちは何を問題としているのだろうか。

レイプやセクシャル・ハラスメント、さらには恋人や夫婦間における合意のない性行為。メディアで一方的に描かれる女の性など、常に男性の性的客体として機能してしまう女の性に対しての女の側からの異議申し立てである。

これまでセクシャル・ハラスメントを受けたら、強姦されたりするのは、女性の方に非があるのだと女性らは自らを責めてきた。しかし、性暴力そのものが悪であり、加害者こそが問題とされねばならないという主張を、女性がようやくできるようになったというのではないだろうか。

このうねりの中で、男性的視点の性教育の欺瞞性が明らかにされ、変容が迫られねばならないと思うのである。

性教育には、次のような視点が持ちこまれていないか。

男女のセクシュアリティ（性行動や性現象）は生物学的な性別においてすでに決定されており、男女は補いあうように作られている。男性の性欲は、本能的でおさがたく、一方女性は愛情面ですぐれた資質をもつ。女性の役割は男性の性欲をうまくコントロールし、社会適応させるところにある。女性は望まぬ妊娠や性暴力の被害者となる「弱い立場」にあ

るので、問題を予防するために性教育が必要とされるのだと。

こういう視点は、性暴力を受けるのは女に非があるという見方と通底していないだろうか。男性的視点で構築された従来の性教育の最終目標は、性行動の抑制と家父長的な性規範の付与であるとしが読みとれないのである。性教育と称して女性の生と性の管理教育を行っているのではないだろうか。

それでは、新しい性教育の定義はどのように書き換えられねばならないか。普遍的な性教育なんてないだろう。今の時代に即した役に立つ性教育がなされなければならないと思うが、私は当面、目の前の女の子たちに、女性抑圧のしくみがわかるようにすること、女性解放の視点に立つて、ホンネのところでは性を語っていくことしかないのではないかと思っている。

フェミニズムが提起したこと

フェミニズムは、女性の視点を持ちこむことで、客観的だとされてきた学問や文化が、男性の視点と方法で築かれてきたことに気づき、性差別イデオロギーの脱構築をめざした。

性差を本来的なものと考え、互いの特性を認め調和をはかろうとする考え方に對して、一九六〇年代以降のフェミニズムは、性差とはそれを構造化した制度の産物であると見ぬ

いた。女性は、産む性から、育てる性、介護する性へと意味づけられる。性教育における母性を女性の本能行動とみなす考えは、女性を自我をもたない母性へと方向づける。こうして女性は労働権・経済権を手離すことになる。

性差にはセックス（生物学的な性）とジェンダー（社会・文化が規定する心理学的な性）があるが、男女に上下関係を持ちこむのがジェンダーである。

セクシュアリティもまた、ジェンダーに条件づけられる。セクシュアリティは遺伝子や本能によって発現するのではなく、生後の「学習」によって個人が修得していくものである。セクシュアリティは、その人の中で複雑な回路を経て構築される性幻想（フェティッシュ）というべきものである。セクシュアリティとは何かは誰も定義できない。

近代社会は、男女別の性文化と倫理規範をつくった。女性には禁欲的な規範を与え性をタブーとし、男性には、女性の性を商品化することによって扇情的な刺激を与え続けた。

フェミニズムは、女性は性的奴隷制にすることを指摘し、男権的な性の支配から脱するために、「近代のセクシュアリティ」の脱構築と、女性みずからが、性の自己決定権を持つことを課題とした。

しかし、女性に課せられたジェンダーとセクシュアリティの規範は、あまりにきつい。

ニューヨークのラディカル・フェミニストたちは「エゴの政治家」という宣言（一九六九年）の中で、「女性の抑圧はいろいろな制度の中に明らかであり、巧妙に作り上げられ、女たちをその居場所に止めておくために維持されている。これらの制度とは、結婚、母性、愛そして性交である（家族単位はこれらによって統合されている）。これらの制度を通じて女は彼女の生物学的特性と彼女の全人間的能力を混合するように教えこまれる」と述べた。

現行性教育は、生物学を人間の宿命と教えることによって、女性を結婚・母性・愛・性交という制度の中に止どめ、女性たちのエゴを男性のエゴに服従するようにしむけるものではなからうか。

性差・性役割の

ステレオタイプの強化が目標

文部省が一九八六年度に刊行した「生徒指導における性に関する指導」には、タテマエとして「男女平等の精神」を唱えながら、ホンネでは、くり返しステレオタイプな性差、性役割を強調している。

「男女間には、生理機能、運動能力などの面で差異があり、心理的な面などでも様々な相違が見られるが、指導に当たっては、このような性差と男女差別とを混同しないように留意

する必要がある」

「将来夫や妻となり、さらに父親、母親となったとき、自らの役割を果たし、適切な行動がとられなければならない」

女子差別撤廃条約には、女性に対する差別とは、「性に基づく区別・排除又は制限である」とした上で、「教育における男女の役割についての定型化された概念の撤廃」と、「男女の社会的及び文化的な行動様式を修正すること」が書かれている。文部省は、「家庭科男女共学」で性別役割分業は克服すべきものとの認識をもったが、性教育においては条約を無視し、性差、性役割の定型化した概念と行動様式を、教育の場で教えこもうとしているのである。

男性による女性のセクシュアリティの定義

私の手もとにあるテキスト『青年期における性を考える』（黒川義和他著、一九八五年、日本学校保健研究所発行）によれば（ちなみに黒川氏は日本の性教育界の大きな影響力を持つ人である）、男性には性欲が女性には母性愛が本能であるとのべ、それが人間に備った自然の摂理であると説いている。

女性には性欲のほかに黄体ホルモンによって高められ生殖欲で性交するという。そして性欲は母性性とかかわっているため埋れ火のように激しくもないという。

こういう男性による女性のセクシュアリティの勝手な解釈は、女性の感覚からは遠いものであり、女性を男性のセクシュアリティに奉仕させる、政治的な言説である。フロイト理論に基づく男根的なヴァギナ中心主義に対して、フェミニストは厳しい批判を展開した。

シェア・ハイトは「ハイトリポート」で陸オーガズムだけが女性の唯一のオーガズムとする神話を、女性はむしろ、クリトリスへの刺激で快感を得ているという事実を明らかにすることによって崩した。

リユス・イリガライは、男根的支配の交換財とならない快楽の復権を求めて、女性についてのセクシュアリティの規定の書き換えを試みている。

アンドレア・ドオーキンは「インターコースへ性的行為の政治学」の中で、性交とは男性による女性の「使用」であると、異性愛における権力構造についてラディカルな立場での分析をしている。

従来の管理的・抑圧的な性教育を批判し、男女の性的自立と男女のヒューマンな関係性の創造をめざす性教育においても、男性の視点で性交が語られるので、性交は美化される。

「本物の性交を」が合ことばになるのである。

男と女の関係性を解放しようとするフェミニズムの立場からみれば、男女のいい関係をめざそうとする性教育も、性差

別を隠蔽する点でうさんくささを感じざるを得ない。男性と女性の土俵が違ふところでは、対等な男女の恋愛や関係性をそうたやすく作ることができだろうか。もちろん、フェミニズムは、性的自由の下で、対等な他者として相手とむかいあえる関係性の主体へのあくなき追求をしているのであるが。

思春期とは、性的なものに自分が反応し、適応できるか自問自答を始める時期ともいえる。思春期の少女たちは、この社会での性的な規範にあわせるべく、自分のからだを理想のボディイメージにむけて熱心に作りかえる。「愛しすぎる女」として性の制度を生きる方向へと向かわされる。自分自身であることを捨てなければ、この社会での特権的な位置からはずされてしまう。自分のからだとセクシュアリティを自分のものとして、自律的に生きたことは大人の女性にとっても大変なことなのだ。

「セクシャル・ハラスメント」の動きを機会に、セクシュアリティへの深い掘り下げができれば、セックス神話を生産するわが国の性教育の言説を脱構築していくことができるのではないだろうか。

(てらしま ひろこ・石川県立高等学校教諭)

田中喜美子氏のお申し出により、一月号29ページ下段8行目「下から二位」を「五位」に改めます。「女たちは以前よりはるかに動き出しているのですね」と筆者の言葉です。

(編集部)

都立高校

男女格差募集について

石川 邦子



一、はじめに

’88年四月、都立高校に入学した子どもを持つ親たちから、東京弁護士会に対して、都立高校全日制普通科高校の募集において、男女差別があるという訴えがありました。

これを受けて、弁護士会においては、調査のための協議会を設置して、早速活動を開始しました。

東京都教育委員会、都立高校校長及び教諭、中学校教諭、高校生、親等から広く意見を聴取し、これまでの募集の実態を調査し、次のような事実が判明しましたので、「憲法等に

の格差が顕著で、その女子比率は平均三六・二%で、女子が男子よりも、一、三七六名も少ない。

旧制中学、旧制女学校（だった高校、以下略）の男女別募集人員の推移は、昭和二五年で旧制中学では女子比率が二五%であり、旧制女学校のそれは六〇〜七五%でしたが、旧制女学校においては、五〇年度にはほぼ五〇%となったが、旧制中学においては、五〇年度で三〇〜三五%になりその後も余り変化がなく、現在の格差の大きな原因となったのです。

②男女生徒の合格ラインの差

二、男女格差の実態

①男女生徒の募集人員の差

違反するので、速やかに男女同数（少なくとも人口比に応じた割合）に改められたい」という趣旨の勧告を、’88年十月十三日に東京都教育委員会に対していたしました。

旧制中学だった高校の多くにおいて、女子の合格ライン（総合成績、特に内申点）が高い。

③都立高校と私立高校の教育費の差

入学初年度においては、平均して都立と私立では、約八倍の差があり、女子の親は経済的に高負担を負う。

④都立高校における教員構成の男女差

昭和六〇年度の全日制普通科の女性教職員の割合は、国語三四・一％、数学一四・五％、社会一〇・七％、理科八％、外国語三一・八％で、旧制中学においては、右女性教職員の割合は更に少なく、日比谷高校では教諭五四名中四名、小石川高校では五七名中七名にすぎません。

このように女性教職員が少ないことが、旧制中学において、女子比率の拡大を遅らせた大きな原因でした。

三、男女格差定員に合理的理由があるか否か

憲法一四条は、あらゆる差別を禁止していますが、この平等規定は、相対的平等であると言われています。即ち、異なる取り扱いをするには合理的理由がなければならぬということです。そして、男女において異なる取り扱いの合理的理由としては、生理的・身体的差異に基づくもの以外には認められません。更に現在では、異なる「合理的」理由だけでは足らず、強度の正当化事由が必要であり、異なる取り扱いを

する側に立証責任があるとする有力な考え方もあり、その基準は極めて厳格なものとなっています。

そこで、都立高校の男女格差定員について、合理的理由の有無を判断しますと、何らその理由は存在しないと言わざるを得ません。

即ち高校側（特に旧制中学）の校長、同窓会関係者は、男子校としての伝統を守りたいとしますが、男子校、女子校の伝統というのは、性別役割分業観に基づき、男子には「エリート教育」、女子には「良妻賢母教育」を理念とするもので、男女平等をうたう憲法のもとでは、打破されなければならないもの。この伝統の維持という考え方は積極的に否定すべきものです。また、一流大学への進学率を高めたいという点については、女子の大学進学率が増えているとはいえ、四年制大学の進学率は男子に比較するとまだ低いという現状によりますが、これは社会における性別役割分業の結果です。これを変革しなければなりません。学校の評価を一流大学への進学によって決せられると考える点に問題があつて、合理的理由とは到底言えません。

また、男女比が二対一の構成は教育環境としてバランスがとれている、施設面が不備であるなどの理由もあげていますが、いずれも合理的ということは出来ません。

以上のとおり、男女差を設けることに何ら合理的理由はあ

りませんので、明らかに憲法二一条、一三条、一四一条一項、二六一条一項、教育基本法三條、國際人權規約A規約二條、三條、一三條に違反し、女子差別撤廃条約一條の「女子に対する差別」に該当することは明らかです。

四、格差是正の措置

方法としては、募集において男女枠を撤廃するか、男女同数枠にするかが考えられますが、私達は、同数にすべきであるとの結論に達しました。

1 受験の機会の平等でよいか

枠を撤廃すれば、受験の機会の平等は得られますが、都立高校の教育を受ける機会の平等が得られる保証はありません。現在九四%の子どもたちが高校進学し、志望の段階では九九%の子どもたちが高校進学を希望している中で、高校教育は準義務教育化していると言わざるを得ません。この中で、都立高校で学ぶ機会は、男女共に開かれるべきです。本来ならば、小・中学校と同様に入学試験なしに地元の高校へ入学出来る制度にすべきですが、都立高校の数が少なく、中学校卒業者の半数を私学に委ねている現状においては、試験制度そのものを廃止することは困難であると思います。しかし、単純に能力に応じて男女の別なく入学させ、結果において、男子が多くなろうと、女子が多くなろうと構わないとす

るならば、差別の固定化を助長するもので、都立高校が公教育の機関として、積極的に差別是正の措置をとるべき義務を定めている女子差別撤廃条約二條に違反するものです。

都立高校の授業を受ける権利が男女共に認められることによって、初めて子どもたちの学習権の保障が得られます。機会の平等ではなく、結果の平等が求められるのです。

2 男女共学の必要性

現在、男女差別の実態が構造的に根強く存在することは、何人も否定出来ず、この解消のために男女平等教育が必要であることは異論のないところです。

この男女平等教育を、いかにすべきか、いろいろありますが、まず、男女共学の中で教育を受けることが最重要であると考えます。十五歳から十八歳の性に目覚める思春期を、男女共に触れ合いながら学ぶことが、最も自然な男女の姿であり、そこで平等教育がされることが、最も自然な教育であるからです。そこでこそ、本来の男女平等の実現がされる筈です。

更に、男女共学というのは、各クラスにおいて、ほぼ男女同数にされるのが自然な姿であり、二対一でも共学というのは、おかしいと思います。

特に、準義務教育化されている高校教育においては、小・中学校と同様に男女同数による男女共学は、制度として保障

されるべきです。現在、この点の問題意識が少ないのではないかと、調査の過程で感じました。

3 男女同数を確保するためには

このように、現在高校教育においては、都立の高校教育を受ける機会の平等、男女同数による共学が実施されることが求められています。それには、各高校において、男女同数のクラス編成ができなくてはなりません。

枠を撤廃して、同数を確保出来るか否かが問題です。枠なしで募集している他県の状況を調査してみました。

①受験指導の段階での差別

静岡県では、中学の受験指導の段階で、受験校には男子が多く入るような操作がなされていることが判明し、県弁護士会から、差別的指導の是正の要望がされ、山形、秋田においても同様な勧告がされていました。

受験校では、現在の大学進学状況から、男子をとりたいという意向が強く、全員入学を第一目標とする中学側としては、高校の意向を受けた受験指導とならざるを得ないということです。

②生徒・親の意識による学校の選択

他県では、旧制女学校が女子校として残っているところが多く、優秀な女子は、女子校へ行く傾向が強いようです。また、偏差値による学校選択がされている中で、公立の第一と

第二ランクに差がある場合は、第一ランクが無理な場合は次のランクの私立を受ける傾向が強く、女子は特に私立に行くことが多いということで、受験校での女子の割合は低くなるという結果が生じていました。

③枠なしの募集で、男女がほぼ同数になっている県

大阪、山梨、兵庫の三県でした。そこでは、募集の段階で、ほぼ同数になるような方法がとられていました。

五、結論

以上のとおり、募集方法に工夫をしない限り、枠なしで募集した場合は、どうしても受験校に男子が多く集まるか、女子校・男子校になってしまうということがわかりました。

これは、現在の学歴社会、役割分担意識の強い状況を反映したもので、差別の実態のある中で、一見平等とみえる枠なしの募集は、更に差別を固定化するだけになってしまうと考えざるを得ません。

やはり、現在の差別解消のために、差別撤廃条約四条で規定されている積極的是正措置（アファマティブ・アクション）として、同数枠による募集の制度が必要であるという結論に達した次第です。

（いしかわ くにこ・弁護士）

◆学習の主人公たち◆

「女のくせに」

「男のくせに」と言われた時



〈東京都江東区

東雲小学校・六年二組〉

「女のくせに」と言われた時

朋恵

◆私は、言葉使いが悪いので、「女のくせに」とすぐ言われる。言葉使いが悪いのは本当だけど、「女のくせに」とすぐ言われるのは、すごくいやだ。それなら男の子の方が少しは悪い言葉を使っても、乱暴をしてもいいのだから、男の子に生まれてくれればよかった。でも、私が男の子に生まれていても、「男のくせに」と言われるに決まっている。こんな言葉が差別を生んでいる。みんなが、こんな言葉を口にしななければいいのに……。

由紀子

◆私は前に男の子が着るような洋服を着て学校に行ったら、同じような洋服を着ていた男の子がいて、それを見た男の子が

「女のくせに男の服着てる」

と、言われその時に、せっかくお母さんが買ってきたくれたのに、なんで女は男の洋服を着てはいけなのかなあーと思いました。

久恵

◆女子が男子に意見を言ったりした時に「女なのに……」

って言っていたのを聞いた事がある。とてもくやしかった。いつも女子は男子より下にいなくちゃいけないのかと思った。女子の方が男子より弱いなんて思わないでほしい。

涼子

◆「女のくせに言葉使いが悪い」と言われる

と、どうして男は言葉使いが悪くてもいいのかと思う。

「女のくせに力が強い」と言われると、女は力が強かったらいけないのかと思う。

「女のくせに背がでかい」という言葉を聞いたことがある。好きででかくなっただんじやないんだから、そんなこと言ったら傷つくと思う。

「女のくせにえばるな」と言われると、男より女の方がえらかったらいけないのかと思う。

智子

◆家に帰って本を読んだと、お母さんに、「勉強しなさい!」

と、いわれる。そうすると私は、

「うるさいわね。いいでしょ!!」

と、いう。すると、

「女の子のくせに言葉づかいがわるいわね。もっと女の子らしくしなさいよ」

と、いわれた。私は、

「分かったわよ、勉強すればいいんでしょ、勉強すれば!!」

と、いつておこりながらも自分の部屋にもどって、

「ピシャッ!」

と、戸をしめる。けれど、自分のいすにすわれば、さっきお母さんにいわれた言葉が、

「ズキッ」

と、むねにささってくる。だから、心の中で決心した。

「こんどからは、いわないようにしよう」と、でも、またいつてしまうかもしれないので心配だ。

玲子

◆私は、「女の子のくせに、男の子みたいな言葉を、使うんじゃない」といわれるが、それは、最もだと思う。それは、自分が乱暴な言葉を使ったから。

でも、野球や男の人のスポーツで、女の子がうまかったりした時、男の人に「女のくせに……」と言われたら、くやしい。他のことでも同じ。女だからどうだっていうのか。人は、それぞれだと思う。もし、おさいほうなどで、下手でも、後で困るのは自分なのだから。でも、自分でわかっているのに、「女のくせに……」とか言われる節合ないと、おこつて、しまうと思う。

広子

◆女のくせに男のことを、ぶったり、けつたりするのは、おかしい。

それで女の子に、男の子が負けるのは、ぜったいにおかしいと思います。

千尋

◆女のくせに、と言われることは、あまりないけど、でも、「女のくせに料理ができない」といわれた場合、これは、女が料理をつくるのは、あたり前と思われていて、すぐく差別を感じる。どうして女にこだわるのかかわらない。男の人だって、料理をつくるのに……。

または、おかしを作ったとする。すると、「やっぱり女の子だなあ」ということを耳にする。これもなんか、ほめられているんだけど、あたり前と思われているのか、変な感じがする。男のくせに、女のくせにというのは、あまり口に出しては、いけない言葉だと思う。

恵美

◆私はあまり「女のくせに」とは、いわれたことはないけど、「男のくせに」とはいったことがあります。私は弟にいったことがあります。

「男の子のくせにすぐなかないでよ」といいました。でもそれは、自分の気持ちも考えて、いったあとには、なんか分らない気持ちになりました。みんなきつと「女のくせに」「男のくせに」といわれたらきつと、く

やしいって思うと思います。

だからこれからは、いわないようにいわれないようにしたいと思います。

渚

◆私はあまり「女のくせに」という言葉は言われたことはないが、「男のくせに」とは、言ったことがある。

「男のくせに、あやとりなんかやってる。男のくせに、編み物をやりたがるなんて」ということ。でも、そんなことを言う必要もないし、言われる必要もないと思う。それは、自分の勝手なんだから、「女のくせに、男のくせに」なんか相手の人にとって失礼だと思う。その生き方が良ければいいし、悪ければ直せばいい。父も母によく言われていた。「女のくせに、男のくせに」とかは、大人がよく言われるんだと思う。

「男のくせに」と言われた時

成男

◆「男のくせに、女のくせに」という言葉はあまり聞くことはないけど、わる口というような言葉だと思う。

「男のくせにそんなにくんじゃない」という言葉は小さいうち園か、一年生ぐらいの男の子がよくお母さんに言われる。ぼくはい

まは言われたり、言ったりはしないけど、言われた方はあまり気分がよくない。

◆「男のくせに女とあそんでるな」
と言ってるのを聞いた。

波平

なぜ女とあそんではいけないかと思った。
将来女の人とけっこうんするのだからかんけないかと思った。

◆男のくせに女のかしゆのうたをうたうな。
まだ女のくせがのこっているのかな。

悟

よせよなそうゆうの、おれがおまえのいえにいくとたまに女のうたをうたっているんだ。そうゆうのうたうなよといってもこのうたがすきと言つてうたいます。だから男のうたをうたえよな。

〈花巻市矢沢中学校 三年〉

「男のくせに」と言われた時

(A)

◆男のくせに、なんてあまり言われたことはないような気がするが意外に日常生活の中でみんな使っているような気がする。それは、やはり男女平等に反していると思うが、自分

隆二

◆「男のくせに小さいことをツベコベ言わない」と言われた時、男はツベコベ言っちゃいけないのかなあと思ったことがある。

潤平

◆野球部の時、父に、
「男のくせにだらしないかっこするな」と言われた。

その時、いちいちもんくいうなと思った。

聰

◆男のくせに女みたいになつめをしていて縦に長い。男のくせに指がみじかいけれど細い。自分はそうなりたくなかった。

和規

◆かみの毛が長くのびた時に、「男のくせにかみの毛が長いんじゃない」といわれた。い

でもつい女のくせにとか口に出してしまう。

この間、おれ達の班が給食当番だった時、男子ははじめにやって、女子は少しふざけながら働いていた。おれは班長だし、女子だけふざけていたのでいらいらして、「女のくせに、ちゃんと働けよ！」って言った。女のくせにどうのこうのと言おうとしたわけではなく、ただ働かない女子にカッときただけだつ

やな感じだからあまり言われたくない。

文太

◆「男のくせになぜ、家庭科の授業があるのか？」
将来、仕事に行くから、いいじゃないかな。

◆ぼくが、ししゅうをしていると、お父さんが来て「なに男のくせにししゅうなんかしてるんだ」と言われていやな感じがした。ぼくは家庭科の宿題のししゅうなんだからと言いたかった。

一樹

◆「男のくせに女なんかになかされんなよ」といったことがある。

浩平

◆「男のくせに女なんかになかされんなよ」といったことがある。

だが、やはりそれも、男子と女子の間に、女子は家事や料理をつくるもの、男は外で働いて、家ではじっと座ってテレビを見ているもの、というような個定觀念がしみついていて、と思う。だから、今は男女の差別なく、仕事にも、生活にも、男も女も一人の人間として、敬う心が必要だと思ふ。

(B)

◆「男のくせに」よく女子の人達が男子に向かつてよく言う「きまり文句」である。

女子ばかりではない父、母、先生とみじかによく聞く言葉である。

しかし、おれだって「男のくせに」なんて言われたら「なんだコノヤロー」とおこるのがあたりまえだろうと思う。「デメーこそなにさまだと思ってるんだ」とどなるかもしれない。人間というやつは、ほんの一部分だけみて人を判断してしまう所があるのかもしれないと思う。まあその人がちゃんとしていれば問題はなにもないと思うが。そういう所が「男のくせに」とか「女のくせに」とかいうのが生まれてくるんだなあと思った。

まあ人生いろいろ言われるけどくじけずがんばればきつといいやつになれると思う。

(C)

◆ぼくは、過去何度か男のくせに……と呼ばれたことがある。

その時は、とてもショックだった。男のくせに根性がないなあと言われたからである。ぼくは、ふつうの人より根性は、あるつもりだったけれども勉強のときとかは、すぐあきてやめてしまうし、何をやってもすぐすっぱ

かしてしまふ。何かこんな自分がなさけなく思ったりしたことが何度あったことか。

これからは、男のくせに……とよばれることがないようにしたいと思う今日このごろ。

(D)

◆中学生の男子だって、いつも男らしいこともしていないし、いまだき、男のくせにとか女のくせにとか、とくべつしきしたことも考えたことも、いまの時代に、そおいうことはないし、男が料理をつくったりしていることは、いまやあたりまえのことになっているのは、いまの時代に、男のくせにということはあるはまらないことになって、中学生(自分)には、よく考えられないことだと思う。

(E)

◆ぼくは、男のくせにといわれたことが、けっこうあります。それは、あまりにもぼくはつきりものをいわないので、「男のくせにはつきりいわないで」といわれました。そのときぼくは、はつきり言わない(言えない)ところは自分でもすぐいやだったので、その通りだと思った半面、だけど男だからはつきり言う、女だから、はつきりしなくてもいい、というのは、おかしいなあとぼくはおもいました。だけど、それをいわれたおかげで

っこう物をはつきり言うことができてきて、以前よりはよくなってきたと思います。まだ不じゅうぶんなところもあるけれど……。

だから、男のくせに、女のくせにとかいうのは、ぼくはあまり好きな言葉ではないけれども、それが相手のためをおもって、それを直してほしいから言うのならばそれでもいいんだけど、相手の氣にしていることにつけこんだり、いやがらせのために言うのだったら、そのような事はいわれない方がよいとはくは思います。

(F)

◆この一言を言われたとき男っていうのは意外に「ギク」ときたりするものだ。それに僕自身言われたときなんか「おまえだって男(女のくせに)」と言いたくなるのはほんとのことだ。しかし、相手が同級生だったり先輩だったりのときは思いつくが、先生とか親とかに言われたらなんにも言えなくなる。でも、そこを直そうかなあと思ったりするときもある。しかし、同級生の女子とかに言われるのはとてもえいきょうが強いと思うし、特に好きな人とかに言われると直そうするのは本当だ。だけど男のくせにと言われたら自分なんか変な気分になるよ！

(G)

◆私が「男のくせに」と初めて言われたのは
小学校高学年になってからのことだった。

「男のくせに」と初めて言われた時は、「そんなの関係ねえじゃねえか、どうして男だから女だからっていちいちこじつけるんだよ」って思った。

中学に入って、小学校とは全く違った生活環境の中で、自分のことは自分自身でやらなくてはいけないという自覚をもった。それは、知識も身体も大人に近づいたことにもなって、自然にめばえたものだったが、やっぱりまだ遊びたい時期で、なるべくなまけて仕事などは他の人にまかせて、自分は少しでも楽をしたいという気持ちが優先していた。そんなたるんだ生活を何ヶ月か続けた。そしてついに先生にカツを入れられた。「いつまでそんな生活をするつもりだ。お前はもう中学生なんだぞ。小学生と同じような生活しててどうする。そうじもまじめにやらないし、男か女かわからんような事ばかりして、それでもお前は男か。もう子供じゃないんだぞ。一人前の男なんだから、そんなたるんだ生活してたらだめだ」とおもいつき言われ、さすがにおれも心にグサツときて、次の日から

はおちついて、やることはちゃんとやった。

今、中三になって、その時のことをもう一度考えてみると、先生に「男のくせに」と言われてたしかにその時はちよつとくやしかったけど、やっぱり男と女とはそれぞれがった生き方があると思うし、男と女だけじゃなく人それぞれがった道があると思う。だから、これからも「男のくせに」と言われることは何度かあると思うけど、くやしいう分だけ、自分の悪い点を直せるようになりたいと思います。中三になって担任の先生もかわったけど、これからもなんども失敗をして、「男のくせに」とどやされたいと思います。そして一人前の男になりたいと思います。

「女のくせに」と言われた時

(A)

◆あたしは、いつも男勝りなことばかりやっているけど、面と向かって「女のくせに」と言われたことはあまりない。多分、あたしそのものが男子の一部に入ってしまったているからだと思うし、周りの男子もあまり「男」や「女」にこだわらないからだと思う。結論から言って、今は「男のくせに」とか「女のくせに」とか言う時代ではないのだと思う。昔から男は外で働くもの、女は家の中でおとな

しく亭主を待っていればいい、という考え方があったけど、これは多分縄文時代あたりに男は狩猟をし、女は料理をしながら子供の世話をする、というのが変わってもせずに長い間ずっと続いたからだと思う。今は、女だって工事現場で働いたり、神主をしたり、トラックの運転手、社長など昔からは想像もできなかった仕事に就いているし、男だって専業主夫をしたり、または単身赴任で一人で家事をこなさなければならぬ状況になっている。「亭主関白」という言葉があつて、今でもそういう家庭があるようだけど、珍しいのではないかと思う。「女は強くなった」と言われているけど、たしかにそうだと思う。昔は選挙権すら認められていなかった女は、少しずつ「男女平等」されていくのに自信が出てきたのだろう。

最近では、「セクシャル・ハラスメント」という「性的いやがらせ」を意味する単語もできた。「昔はなかったことなのか」といえば決してそうではなく、ただ昔は男のすることとに女が文句をつけるなど考えられなかっただけなのではないか、と思う。あるアンケートでは、20代の女性は「結婚したいと思う男がいない」に大部分の人がYESと答えてい

るそうだし、アメリカあたりでは「亭主はいらないけど子供は欲しい」と精子を買って人口受精する人が増えているそうだ。だから今はもう「男」とか「女」とかいう時代ではないと思う。しかし、だからといって「男らしさ」や「女らしさ」が失われていいという意味ではない。やはり男にはシヤンと背筋を伸ばして出勤してほしいし、女は必要最低限の家事はできなくてはならないと思う。あたしも、せめて掃除や洗濯ぐらいはともにできるようにになりたいと思っているし、一応心がけている。今の世の中は「男のくせに」とか「女のくせに」にこだわらず、「男らしさ」や「女らしさ」を失わないことが大切なのではないだろうか。

(B)

◆ふだんは、題を与えられて時間を与えられたりして真剣に考えたことがなかった。「女のくせに」という題を与えられて、私は、言われたことがあったなあと考えた。母にある仕事を頼まれたり、私の部屋に文句をつけて片づけなさいと言われた時に、「めんどうかい」と私が言ったら、「女のくせにだらしない」と言われた。朝食や夕食を食べる時も、ご飯やおつゆをわけないでただ、黙って座っ

ていた時も、「女の子なんだから、それくらいしなさい」と言われたこともあった。反抗的な私は、「好きで女になったわけでもないのに」と心の中で思った。気づいてやったらいいのに何も気づかない私を見て、そう思っ

て母が言ったのだと思う。今も、反抗的なのが直ってない。まず、これを直して、素直になりたいたいと思っている。そして、「女のくせに」と言われないようにしたい。

(C)

◆私は、しょっちゅういわれています。部屋がきたないと、すぐ女のくせにといわれて、手伝いをしないとまた女のくせにといわれて、男がてつだってもいいのに、兄は男だからといっ

て、男がてつだってもいいのに、兄は男だからといっ

(D)

◆「女のくせに」「女なのに」とかいわれるとまず、真つ先に「ムカツ」とくる。その次に、一瞬、納得してまたすぐムカツく。別に、女のくせにと差別しなくてもいいと思う。女に「女のくせに」とかいわれると、倍の倍にムカツく。

例えば、料理の手伝いとか、やろうと思つてた矢先に、「女なんだから料理の手伝いくらいしなさい」といわれると、特にやる気がなくなつて、反抗してしまふ。女のくせにとあまり差別をしてほしくない。

(E)

◆学校のそうじ時間に、ちよつと友達と遊んでいたら、「女の子のくせに、遊んでないで。

女の子は男の子よりもがんばってそうじをしながら」と言われたことがあります。その時は、やっぱり女なんだからちゃんとそうじをしなきゃと思って、そうじをしました。

だけど、その後に考えてみたら、どうしても女の子は男の子よりそうじをしなきゃならないのかと疑問になりました。男子だって女子と同じくそうじをしなきゃならないと思います。よく、男の子だからこれをやるとか、女の子だからこれをたくさんやるとか言われるけど、男子も女子も同じふうにはやらないし、男子と女子が協力しなきゃならないことも、たくさんあると思います。だけどそれは、女子が男子みたいにしなきゃならないとかそういうことじゃなくて、男女が協力していく中でも、女の子は女らしさや、男の子は男っぽさをつくっていくことが大切だと思います。

〈福岡県立福岡農業高校・二年〉

●生活科

「女のくせに」と言われた時

まり

◆私は、車の免許をとったらクレストア買おうと

(F)

◆「女のくせに、料理もできねえの?」とか、「女のくせに、よく食べるナ。お前男じゃねえの」とか時々出てくる。わたしも実際言われるけど、はつきりいつて傷つく。くやしい。言っている人には、悪気はないんだろうけど言われている人は気分悪いと思う。それに入ってみんなによく見られたいから、本当はちがうのに、反発しちゃうことであると思う。わたしも、この部類。女のくせに、女のくせにつて、自分はどうなのよつていたくなる。特にも、同性にいわれると、もっとムカついてしまう。異性にいわれて、ムカつくこともあるけれど、やっぱり、そこは男の子の影響で、直してしまうこともある。

人の心を考えて、言つてほしいと思う。それに、自分の時はおきかえて、言つてほしいと思う。

知り合いの人に言つたら、女のくせに軽でいいつたとも言われた。

その時私は思った。私がのるんだからべつにいいじゃないか、あんたにめいわくかけるわけじゃないしあんたにかつていていいわけじゃないんだからと思った。

(G)

◆私も「女のくせに……」と言われたことがあります。よく使われるけど「女のくせに」とか「男のくせに」「女なら」「男なら」とかつてきらいです。男だからつて何なの、女だからつて何なの、関係ないこと、うるさいと思います。私が言われたことがあるのは、「女のくせに働かないなあ」。

すぐムカツときました。その時ちゃんと働いていたのにそういうふうに言われたからです。でも私の場合、いつもそう言う人にかがつて働いていなかったりします。

私はあんまし「女のくせに」とは言われたことはありません。「女のくせに」よりは、「女なら……しなさい」の方が多い。

とにかく、「女のくせに」と言われるのは大きらい。言われたくありません。

佳織

◆女のくせにと言われる時は、だいたいきまつている。弟とケンカをしている時や、手伝いをしなかった時、ドアを足であけたりした時などいっぱいある。だいたい手伝いとかは、男でも女でもするのはいいのに、私が女

だからって手伝いをしないといけないとかいうのはまちがっていると思う。ケンカだって女だからしたらいけないというのはおかしいと思う。

由紀

◆お母さんに、手伝いをしなかった時とかによく言われる。言われた時は、「バーカでめえも女だろうがあつ」と心の中で秘かに思いつながら、口では「ハイ」と返事をする。

お父さんに言われたら、「だったらあんたも女になってみるお」と思う。

どうして、手伝いとか女がせないかんとかいな。たまに手伝いしよって、兄ちゃんとか、横でゴロゴロしとったら、けりいれたくなってくる。手伝いだろうが、何だろうが、女ばっかりにさせんでも、いいやない。

女ばつかに損することばかりで、私が長女やけん手伝いとかのばつちりが一番くる。男は外で仕事しようけん、家ではせんでいいとかゆうけど、んなの関係ない。今は女でも仕事しよう人多いのにはよそんな男女の差別がきちんとなくなればいいのに。

ゆり

◆「女のくせに」っていわれてそうとうむかついたことが何度あっただろう。女のくせ

にガムをかむな!! 女のくせになんだその言葉づかい!! 女のくせにタバコを吸うな!! 女なら家のそうじ、洗濯、料理をせろって男の人はよく言うけど、どうして、男のくせに、女のくせに言うんだろう。

私はどっちでもいいんじゃないかって思う。男だからあーしなさい。女だからあーしなさいってその人の人格を無視するんじゃないくて、人間は一人一人だからその人らしく、自由にやればいいと思う。でもだんたい生活の中で決められたルールを守って行かなければいけないけれど……。

とにかく人間が生きて行くのに、女のくせにとか男のくせにっていう言葉はいらないのである。

みさよ

◆女のくせにとかいう言葉はあまり言われた事はないけど、あげるとしたら言葉使いだと思ふ。私は三人姉妹でよくけんかをするけど言葉使いがひどくて、おばさんやお母さんによく言われます。

でも、女だからと言って、言葉ががさつになつてもいいと思う。人間が自分を表現するのにあらたまつて言つたりするより、自分で表現したい言葉を使つて話してもいいと思

う。そうすれば、自分の言いたい事を内にしまつておくよりいい事を自分の言いたい言葉で言うほうが、自分らしさが表現できると思う。

ゆみ

◆私は一番ムカツイたのは、知つたうおばさんに、「まあ、この子は、女の子のくせに体にキズつけてから……」ってピアスあけてから言われた。でも、そのおばさんも三カ月ぐらいたつて自分もあけていた。

「女の子」じゃなくて「おばさん」になつたら体にキズつけてもいいのか! と思つた。ちつくしーうノ

ゆみこ

◆女のくせにって言われた事は、お父さんからお母さんの手伝いしなさい。女の子だろとかよく言われる。言われた時は、ムカツてきて女だからって……ブツブツ思つてる。中学を卒業する時に担任の先生が、男は落ちるとこまで落ちても、はいあがれるけれど、女は落ちるとこまで落ちたらなかなかはいあがれんぞって言われた事がある。だからお前は落ちるなよって言われた時は何だろう? と思つてただけどあまり意味が分からなかったんだけど、今じゃ何となく分かる気がする。

学校の中の性差別

「はずれ! はずれ!」

自分たちが乗るバスのガイドを見たたん、男子数名が声をそろえて叫んだ。修学旅行での、京都の朝である。今日一日みんなと行動を共にするはずのガイドの顔はこわばっている。心ない声が耳に入ったに違いない。

はずれ。無論、容貌のことだ。若く美しいバスガイドは「当たり」。このへんの感覚は高校生も中年のオジサンもまったく同じである。それをストリートに出す残酷さは、性の商品化の時代に育った世代にこそふさわしいけれど。

情ないことに、近くにいた女子生徒たちは怒りさえ見せない。男がいつも女の容貌を評価するのを当たり前と思っているのだ。彼女たち自身、いつでも「当たり」か「はずれ」か厳しく批評する目に取り囲まれているのだから。

中高生はたった一本のモノサシで計られている、とよく言

坂本 なえ

われる。学力による偏差値のことだ。たしかに成績で進路を決められる中学生、その結果としての「輪切り」の集団である高校生にとって、学力のランクづけは大きな問題だろう。が、女子の場合、それに加えてもう一本のモノサシがしっかりと意識の中に根をおろしている。美人かカワイイか、そうではないか——時として学力以上に深刻な、容貌のモノサシ、美醜の偏差値である。

男でも女でも美しいこと自体はもちろん素晴らしいことだ。しかし、評価されるのは常に女だけ、それも人格から切り離されて外見だけが値踏みされる時、それは女をモノとして価値づける基準となる。内からわき出る美ならその人の意欲にも自信にもつながるだろうが、これは言わば商品の美だ。商品に意志はいらない。「外見も中身もカワイイ女の子」をめざし、「他人の目にどう映るか」に絶えず気を配る窮屈

さは、確実に女の子たちの翼をもぎ取っている。

女にとって容貌がいかに重要か、彼女たちは子供のころから叩きこまれている。男の子とケンカした時、「ブス！」の一言がすべての論理をくつがえす決定的な力を持つこと。才能のあるなしにかかわらず、女はいつでも外見が取りざたされること（林真理子への中傷のように）。見られるモノ。性的対象としての女。女子高の体育祭に、ブルマー姿を撮ろうとカメラマンが押しよせる奇怪な時代に、生徒たちはいる。

これらはもちろん学校だけの責任ではない。が、氾濫する性の商品化に抗して、学校はいつたい何をしてきただろうか。

たとえば女子マネという役割を認めてきたこと。男の世話や雑用といった仕事内容も問題だが、むさ苦しい男世帯の花となるにはカワイイことが不可欠の条件だ。これは「ブスには向かない職業」なのである。

たとえばまた、教師の意識や言動。さすがに「ブス」「はずれ」とは言わないものの、「あいつは美人だ」「〇組の〇子はグラマーだ」などと言いつける教師には事欠かない。

かくして女子生徒は「美」に向けて自らを駆りたててゆく。男子優先の出席簿で、「第二の性」であることを教えられ、女子のみ家庭科で性別役割分業を学んだ女の子が、容貌のモノサシに自己の価値を見出そうとするのだ。制服には不似合いな、涙ぐましいオシャレ。そして慢性的なダイエツト

志向。どれだけ多くの高校生が、理想体重に近づくかわりに自分の健康をそこねていることか。

女の容貌に高い値をつける社会は、労働者としての女には低い評価しかつけない。私は職業高校に勤務しているのだが、つくづく感じるのは女子に用意されているイスの、あまりの貧しさである。三年間誠実にがんばってきた生徒がやっと入れた「いい就職先」で与えられる仕事の、とうりもない単調さ。若く短く笑顔で勤め上げることへの周囲の期待感。時として「職業選択の自由とは、エリートだけの特権なのか」と思ってしまうほどだ。

女の子に魅力ある未来を提示できない中で、彼女たちは女が高く高く評価される唯一のチャンスを見える。ちよつとルックスに自信があれば、「原宿かどつかでスカウトされないかなあ」と期待を持つのはごく普通のことだ。モノとして評価されてきた女の子が自分を商品として売ろうとするのを、誰が非難できるだろう。

作られた女としての価値観は、女子生徒の将来への展望を曇らせる。思春期だから容貌を気にするのは当たり前、と言うだけの問題ではない。女の価値が外見で計られ、性が商品として売られる時代がなにより踏みにじっているのは、彼女たちの人間としての尊厳、自己発見・自己肯定の機会ではないだろうか。

「家庭科教師をめざしています」

江口 凡太郎

「あなたの味覚は幼稚ね」。大学（北海道教育大学）に入つて間もない頃、調理学の先生にこう言われたことが忘れられません。好きな料理を訪ねられ、私は「カレー、コロッケ、ハンバーグ、焼きそば……」と正直に答えたときです。

このときはどうして「幼稚」なのか、その意味がよくわかりませんでした。後に、自分の嗜好がいわゆる「オカアサンヤスメ」式であることを知り、カロリーのみ豊富な、貧困な食生活をしてきたことにショックを受けました。

このことは、家庭科を学ぶ機会がなかったら一生気づかなかつたことのひとつではないかと思っています。

私は、中学、高校ではまったく学んだことのなかった家庭科を大学に入ってから学び始め、それまで自分がいかに生活

に対して無頓着に受身で、疑うことなく暮らしてきたか気づきました。

普段の何気ない生活について、別な視点から見直すことができる家庭科の重要性を身をもって痛感しました。

同時に、家庭科で扱う身の回りに関わるものが、たいへんおもしろく、知的好奇心を刺激される内容に富んだものであると感じました。

私は、大学にはいる以前、自分が家庭科を学ぶ機会がないことになんの疑問も持っていませんでした。また、やりたいと思ったこともありませんでした。

しかし、「男子」であるというだけで、学習の機会が奪われるということは、「教育の機会均等」に反することではないかと今は考えています。

昨今、教育現場において、「学ぶ」側の男女共修が盛んに叫ばれ、最近では男子生徒も家庭科を学ぶ学校が増えつつあります。疑問点の多い、今回の指導要領改訂でも、この点で一歩前進したことはうれしく思っています。

ところで、教える側の教師はどうでしょうか。「女子のみ」ではないにしても、家庭科の教員は圧倒的に女性が多いのが現実です。「男子にも、家庭科を！」と叫び、仮に男女が共に学ぶ家庭科が実現しても教壇に立っている教師が女性ばかりというのはやはり不自然なのではないかと私は思います。家庭科に男の先生がたくさんいてもいいのでは……。

家庭科教師を志し、家庭科について考えている男は、私だけではありません。

この夏「家庭科を考える男子の会」の会合で「男女共修がすすむ中で、我々『男子の視点』を生かす場があるのではないだろうか」という話題が出ました。

では、「男子の視点」とは一体なにか？　と言うことになるのですが、今の段階ではそこまで明らかにできませんでした。これは各々で持ち帰って、これから探っていかなければならない課題のひとつであることで一致しました。

私は、家庭科について、性差別のある制度や、人々の意識

の問題もさることながら、家庭科の教育内容を、男として、女としてという次元から、なにより「ひと」として学びがいのあるものとしていくことが重要なのではないかと思っています。

偉そうなことを書いてしまいましたが、誤解があつてはいけないのでお断りしておきます。私は、これまで主に女性の手によつて創られてきた家庭科を否定するわけではありません。また、「男の家庭科」で対抗しようなどと考えているわけでもありません。

私が、家庭科に関わっていきたいのは、家庭科が好きだからです。そしてそれ以上に、子どもが好きで教師という仕事に魅力を感じているからです。

子どもたちと関係の中で、たのしい家庭科の授業をつくっていくるように努力していきます。

*「家庭科を考える男子の会」

この会は昨年、全国の教員養成系大学で家庭科を学ぶ男子学生に呼びかけて集まった有志でつくりました。

京都府の高校で家庭科を教えている山内拓司さんを代表に、現在会員十五名で活動しています。親睦を深めることと、家庭科について意見、情報を交換することを主な目的としています。これまで、春、夏二回の会合を開きました。

中学生の「男らしさ・女らしさ」観

山 田 和 子

■ 男らしさ・女らしさの意識調査集計結果

1 男の人は男に、女の人は女に生まれてきたことをよかったと思いますか。

	1男	2男	3男	全 男	%	1女	2女	3女	全 女	%
思 う	37	38	42	117	96.7	26	27	26	79	70.5
思わない	1	1	2	4	3.3	10	12	11	33	29.5

2 その理由はなぜですか。

○ 思う理由	
男 子	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな楽しいことが、はずかしがらずにできるから ◎ ・思いきり遊べるから ◎ ・男の方がスポーツなど多いから ◎ ・力仕事ができ、役に立つから ○ ・体力があるから ○ ・女子は、何かにつけて差別されるから ・おしゃれをしないでいいから ・女はいろいろしなければいけないから ・男には女にないものがたくさんあるから ・女の道より男の道の方が生きがいがあるから ・男の方がなんとなくいい ・男のほうが自分に合っているから ・男の方が気分がいい ・男の方が行動範囲が広いから ・子供を産まなくていいから ・とにかくいい
女 子	<ul style="list-style-type: none"> ・女の方が、楽しいことがたくさんあるから ◎ ・いろいろなおしゃれができるから ◎ ・女は男に比べて何をするにも厳しくないから ◎ ・女の方が、かわいがられるから ◎ ・力仕事をしなくてもいいから ○ ・人の身の回りの世話をするので楽しいから ○ ・女の方が気楽だから ○ ・男尊女卑の考えをくつがえすため ・女の方が、たくさん職業があるから ・手伝いができるようになるから ・男だと女をリードしないといけないから ・女の方が、いろんな面でいいから

私の勤務する岐宿中学校は、長崎市からフ
エリーで三時間半かかる福江市の北東に位置
し、周りは山林、田畑、海と自然に恵まれた
山あいの学校である。生徒数二四五人、職員
数十九人と小規模な中学校で、十二、三年前
岐宿地区の三つの小学校が統合されてでき、
かなり広範囲な校区を持つ。従って家庭訪問
となると、通常の学校の二倍近い日数が必要

○ 思わない理由		
男 子	<ul style="list-style-type: none"> ・力仕事をしないとイケないから ・同じ人間だから 	
女 子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格が女にむいていないから ・男の方が楽しそうだから ・女はめんどろだから ・家の手伝いをしないとイケないから ・男がかっこいいから ・男子の遊びがうらやましいから ・男の方が、さっぱりしているから ・女のけんかは長引くから ・やっつけはイケないことがあるから ・好きなことができないから 	○ ○ ○

3 あなたが考える「男らしさ」とはどういうことですか。

男 子 の 答 回	・たくましい	22	・正義感が強い	2
	・やさしい	9	・堂々としている	2
	・勇気がある	7	・手助けをする	2
	・力強い	7	・自分の考えをまげない	2
	・はきはきしている	6	・責任感がある	2
	・スポーツマン	5	・状況判断ができる	1
	・いざというとき頼りになる	5	・実行力がある	1
	・かっこいい	4	・あまりしゃべらない	1
	・積極的である	2	・人の痛みがわかる	1
女 子 の 答 回	・やさしい	26	・てきぱきしている	4
	・たくましい	17	・一生懸命打ち込む	3
	・正義感が強い	12	・かっこいい	3
	・力強い	7	・責任感がある	2
	・勇気がある	7	・スポーツ万能	2
	・自分の考えをもっている	6	・物事をはきりいえる	2
	・頼りがいがある	5	・くよくよしない	1
	・守ってくれる人	5	・積極的である	1
	・堂々としている	5	・誠実さ	1
	・やるべきときはやる	4		

4 あなたが考える「女らしさ」とはどういうことですか。

男 子 の 答 回	・やさしい	40	・うるさくないこと	2
	・上品さ	9	・礼儀正しい	2
	・しとやかさ	8	・家事ができる	1
	・おとなしい	7	・きれいずき	1
	・何でもよく気付く	6	・仕事を一生懸命する	1
	・かわいい・美人	5	・清潔感がある	1
	・思いやり	3	・ことば遣いがいい	1
	・包むようなこまやかな愛情	1		
女 子 の 答 回	・やさしい	52	・礼儀正しい	3
	・おしとやか	10	・かわいくて美人	3
	・上品さ	8	・もの静かである	3
	・思いやりがある	8	・回りを和ませる	2
	・よく気が付く	8	・何でもきちんとする	1
	・清潔感がある	6	・しんが強い	1
	・家事ができる	4	・しぐさが美しい	1
	・ことば遣いがいい	4	・親切な人	1

となり、生徒の生活指導にも困難な点が出てくる。数年前は、「荒れた学校」と言われるくらい問題を抱えた学校だった。昨年あたりから、やっと落ち着いてきたと言

われるようになったが、まだ後遺症は残っており、そのための職員会議と家庭訪問は時々行われる。私は、今年度赴任したばかりなので、その背景にあるものを問われても、まだ

確信のある解答はできない。先生方の話、生徒の日常生活、父母との会話から、個人の生活にきちんとした目標がなく、それが日常生活行動に現れているのではないか、という

ごく平凡な一般論である。
「本音からの出発」、これが私の教育活動の
持論である。「らしき論」は、拒絶され、軽蔑
されるが、実に多くの「本音」を語ってくれ

る。家庭科は、「生活」を基盤にした教科で
ある。彼等の生活の本音を、きちんと掴んで
いなければ学習できない教科である。本音の
部分から、人間らしさへの案内人として、家

庭科教師はがんばらなければならない。
生徒達の本音を掴むために、全校生を対象
に行った調査の集計結果を紹介したい。
男に生れてよかったと思う男子は九六・七

5 最近、あなたが《男らしく》あるために、気をとらていることは何ですか。

男 子 の 答 回	・服装や身なりを整える	8	・スポーツができるように	1
	・スタイル	2	・積極性を身に付ける	1
	・にぎびができないように	2	・部屋を片付ける	1
	・からだを鍛える	2	・かっこう	1
	・口臭	1	・たくましさ	1
	・ヘアスタイル	3	・しっかりすること	1
	・むだ口をたたかない	1	・力強くなること	1
	・シブくきめる	1	・人にやさしくする	1
	・勇気をもって行動する	1		

最近、あなたが《女らしく》あるために、気をとらていることは何ですか。

女 子 の 答 回	・ヘアスタイル・朝シャン	10	・心を広くもつこと	1
	・ことば遣い	8	・家事のこと	1
	・身だしなみ	6	・人を傷付けないこと	1
	・清潔にすること	6	・歩き方	1
	・顔のこと・肌のこと	5	・笑い方	1
	・姿勢をよくすること	3	・部屋の片付け	1
	・やさしさ	4	・思いやり	1
	・上品さ・しとやかさ	3	・素直になること	1
	・料理をする	2	・いつも自然体	1

6 あなたのお父さんの偉いところはどんなところですか。

男 子 の 答 回	・家族のためによく働く	26	・力があってたくましい	1
	・やさしくあまりおごらない	9	・一緒に考えてくれる	1
	・ほしいものを買ってくれる	3	・決心したことをやり通す	1
	・家族のことを考えている	2	・子供に与えて喜ぶ	1
	・いろいろな仕事ができる	2	・子供に手を出さない	1
	・はっきりしているところ	2	・お金をくれる	1
	・責任感がある	2	・あかるいところ	1
	・厳しいところ	2	・タバコも酒も飲まない	1
女 子 の 答 回	・家族のためによく働く	38	・炊事の手伝いをする	1
	・やさしい	6	・はっきりしているところ	1
	・最後までやりとおす	5	・頭がいい	1
	・厳しさとやさしさ	5	・遊んでくれる	1
	・家族のことを考えている	1	・明るい	1
	・子供の気持ちを理解する	1	・おもしろい	1
	・仕事のことをよく知っている	1	・たたいっておごらない	1
	・けじめがある	1	・タバコも酒も飲まない	1
	・一緒に手伝ってくれる	1	・何でも行動的	1
	・いつも冷静である	1	・親しみやすい	1

7 あなたのお母さんの偉いところはどんなところですか。

男 子 の 答 回	・家族のために家事をする	24	・何でも買ってくれる	1
	・やさしい	8	・何でもできる	1
	・料理がうまい	2	・勉強を教えてくれる	1
	・よく世話をする	2	・朝、見送ってくれる	1
	・子供の味方をしてくれる	2	・つきあってくれる	1
	・思いやりがある	2	・明るい	1
	・決めたことは最後までする	2		

女子の答	・家族のために家事をする	30	・友だいを大事にする	1
	・やさしい	7	・顔がいい	1
	・きつても最後までする	7	・いつも笑顔である	1
	・家族に対する思いやり	5	・人のめんどろをよくみる	1
	・身の回りの世話をする	4	・みんなに平等に接する	1
	・子供の気持ちがわかる	3	・病人の看病をする	1
	・相談ごとについてくれる	2	・気どらないところ	1
	・何でも知っていること	1	・料理を教えてくれる	1
	・自分を育ててくれている	1	・友達みたいなどこ	1

8 あなたのお父さんの嫌いなところはどんなところですか。

男子の答	・すぐ怒る・うるさい	17	・ぐずぐずしている	1
	・よく飲み、酔っぱらう	6	・周囲をかまわずタバコを吸う	1
	・顎でつかう	3	・僕がふろに入っているとき入ってくる	1
	・言うこととすることが違う	2	・夕食のとき、一緒に食べない	1
	・余計な話や余計なことをする	2	・すぐいやみを言う	1
	・まだ早いのにもう寝ろと言う	1	・兄弟げんかを僕のせいにする	1
	・しつこい	1	・口が悪い	1
	・横嫌が悪い時やつあたりする	1	・気が短い	1
	・手が早い	1		
女子の答	・うるさいと言って怒る	18	・新聞を一人じめにする	1
	・酒を飲んでうるさい	9	・なんでも母のせいにする	1
	・人づかいが荒い	2	・自分勝手	1
	・タバコの吸い過ぎ	2	・約束を破る	1
	・すぐちょっかいを出す	2	・酒を飲んで母を泣かす	1
	・まじめ過ぎる	3	・すぐ赤や派手な服を着る	1
	・すぐ怒るたたたく	3	・はげている	1
	・頑固である	2	・短気である	1
	・下品なことを言う	2	・いびきをかく	1
	・しゃべらない	1	・心配性である	1
	・夜中に私を起こす	1	・子供の気持ちが分らない	1
	・勉強せろと言う	1	・くだらないギャグを言う	1
	・男女交際には理解がない	1	・全然働かない・どくられ	1
	・酒を飲んで気をまぎらわす	1		

%あるが、その理由は、いろんな楽しいことが、はずかしがらずにできるから、行動範囲が広いというように、発展的・解放的のに対し、女子は、やってはいけないことが多い生徒が、三〇%もいる。

9 あなたのお母さんの嫌いなところはどんなところですか。

男子の答	・すぐ怒る・愚痴をこぼす	31	・僕の身の回りのことをしたがる	1
	・勉強せろとうるさく言う	7	・口よりも手が早い	1
	・よくしゃべる	3	・小遣いをくれない	1
	・短気でやかましい	2	・買物に行かせる	1
	・ひいきをする	1	・自分の考えに反対する	1
	・嫌いなものを食えという	1	・肥えている	1
	・早く起こさない	1		
女子の答	・同じことを何度も言う	19	・横になったらすぐ寝る	1
	・すぐ怒る	17	・起きるのが遅い	1
	・大声を出す	2	・オバタリアンを発揮する	1
	・人づかいが荒い	5	・やさしさがなく冷たい	1
	・勉強のことをうるさく言う	2	・でぶ	1
	・考えが古くさい	2	・芸能人が嫌い	1
	・よくしゃべる	2	・すぐたたたく	1
	・自分勝手である	1	・子供を疑う	1
	・友達を悪くいう	1	・気分によって態度が変わる	1

一方、女は男に比べて何をするにも厳しくないから、女の方がかわいがられるから、気楽だから、力仕事をしなくていいから、といった受身的な気楽さを理由に、「女に生まれて

男 子 の 答	・立派な人間	25	・親切な人間	1
	・やさしい心をもった人間	7	・うそをつかない人間	1
	・頭のいい人間	6	・たくましい人間	1
	・まじめに仕事をする人間	6	・思いやりのある人間	1
	・人の心は読めません	3	・男らしくなること	1
	・あと継ぎになること	2	・人から信頼される人間	1
	・素直な人間	2	・心の広い人間	1
	・人に迷惑をかけない人間	2	・世界を救ってくれる人間	1
	・金持ちになる	1	・酒をちゃんとつげる人間	1
	・何でもできる人間	1		
女 子 の 答	・やさしい人間	18	・金持ちになる	1
	・人に迷惑をかけない人間	14	・分より出世すること	1
	・正直な人間	5	・明るいい人間	1
	・よい仕事につくこと	4	・頭のいい人間	1
	・思いやりのある人間	4	・自分のようにならないように	1
	・親切な人間	2	・老後の面倒をみてくれる	1
	・よく働く人間	2	・希望をもって生きる人間	1
	・人に尊敬される人間	2	・心身ともに健康な人間	1
	・素直な人間	2	・誠実な人間	1
	・何でもできる人間	2	・ずっと五島に残ること	1
	・自分の意見をもつ人間	1		

よかった」とする生徒は七〇・五%である。
「男らしさ」に対して、男子は、たくましい、
勇気がある、力強い、いざという時頼りにな
る、など生きがいに結びつけている。女子

からみた「男らしさ」は「やさしい」と答え
たものが圧倒的に多く、たくましい、正義感
が強い、力強いなど強さへの魅力、頼りがい
がある、守ってくれる人といった「かわいが
られたい」という女の子の願望がみ
える。

「女らしさ」については、男子は
「やさしい」が圧倒的に多く、次
に上品さ、しとやかさ、おとなし
い……という受身の女の子像で、
「かわいがられたい」という女の
子の願望にピタリ一致する。女子
に問うと、「やさしい」が、男子よ
り更に多い。しかし「かわいい」
「美人」は男子よりずっと少ない。
男子が「男らしく」あるために
気をつけていることに「服装や身
なりを整える」を第一に挙げてい
る。ここに「らしさ」もまた、時
代と共に変容することを考えさせ
られる。

「あるべき像」は家族の変容とと
もに変化してきた。その狭間で、
子供も、大人も、教師たちも、求
めているのは、「人間らしさの像」

だと思ふのだが……。

編集室からあなたに

秋のつどい「コンピュターは家庭科
を変えるか」の内容は、限られた紙幅で
は到底お伝えできないので、夏増刊号で
まとめることにしました。従って「家庭
科、諸外国では」のテーマを改め「家庭
科が変わる―情報化のうねりの中で」と
いたします。ご了承ください。

四月号から「新しい家庭科を創るため
に」の欄を、テーマに即した内容として
執筆者を募ります。どうぞあなたも実践
をお寄せ下さい。また、テーマに近い授
業をしていらっしゃる方を、ご紹介下さ
い。この欄が、新しい家庭科を創る一里
塚となり、家庭科以外の方にも親しみや
すい頁になりますように。

創刊以来のWeのつくり手、中野敬子が
退職。大きな穴があきますが、新人河村
ふみを迎え、力を合わせがんばります。

原子力発電所について考えよう

●熊本県家庭科サークル

坂本喜美子

一、はじめに

現在、四年生を担当しています。一学期に、社会科の授業で「くらしとごみ」という単元を学習しました。その時、さまざまなごみをめぐる問題（ごみを生み出す現代の生活のあり方、ごみ処理の問題、森林資源のことなど）を考えていく中で、子どもたちは自分たちに何かできることはないだろうかと思いの見直しを始めました。そして、クラスでやり始めたのが、牛乳パックのリサイクルです。

また、同じく社会科の「くらしと水」という単元の中で、合成洗剤の害について学習をすすめるうちに、とうとうクラスのお母さん方もいっしょになって、プリン石鹼（廃油で作った石鹼）作りへと発展しました。子どもたちは、授業を通して自分の生活を見つめ、まわりの環境へも、少しずつですが関心を持つようにな

りました。

そんな中で、私の心の中にずっとひっかかっていたのは、地球上から消滅することのできない、どうにも処理することのできない、本当のごみ、放射性物質です。清掃工場で処理できるごみのことしか教科書には出てきませんが、私たちが今抱えている恐ろしいごみのことを教えないで、「くらしとごみ」という単元は終わったとしてしまつてよいのかという疑問が、ずっと心にひっかかっていました。

私は、熊本市内の母親たちが中心になってできた「反原発グループ」「放射能汚染から子どもを守る会」の会員になって一年半になります。この会に入り、原発のことを学習していくうちに、私はなんとかして授業の中で、この原発問題をやれないものだろうかと思えてきました。でも、原発を取り巻く問題があまりにも大きいので、どのような方法で授業をしたら四年生にもわかるのだろうかと思ひ、入り口のところ

で足踏みをしている状態でした。また教え方次第では、子どもたちにただ不安感や恐怖心を与えるだけで終わってしまうことになったら、という心配もありました。でも、まずは客観的な事実を資料として子どもたちに提示しよう。その中で何か一つでもつかんでくれたらよいと思いました。

授業は、「くらしとごみ」の延長として、炭酸ガスやフロンガスという地球を汚す三大ごみの一つとして入っていくことに決めました。十月二十六日の原子力の日に合わせて、この週を原子力発電所の学習ウィークと、心ひそかに名づけて、授業を始めることにしました。

二、授業の様子（学習の経過）

①第一時——地球を汚す本当のごみの一つとして、放射性物質に目を向けさせる。

「みんなと考える 人間と地球の健康④環境編」（星の環会編）という本を使って、フロンガスや炭酸ガスといっしょにごみの発生から破壊されていく様子を教えました。特に事故によってどのように汚染が進んでいくかは、図にかいてわかりやすく示してみました。子どもたちは、初めて知ったことも多く、とても驚いていました。「僕たち、これからどうなると」「どうすればよかとね」と、真剣な顔で問いかけてきました。

授業後の感想文を読むと、子どもたちがとても真剣にこの

授業を受け止めたことがわかります。以下は感想文です。

。ぼくは、先生の話を聞いてこわいなあと思いました。とくにほうしやのう。これは、海、川、木、森、魚、そしてさいごには人間にも、赤ちゃんにもつたわっていきます。ぼくは、こんなことはなつてほしくない。

（桜木奨）

。先生の話を聞いてこう思いました。ほうしやのうは、ぜったいなくならないならどうすればいいんだろうと思いました。あんまりフロンガスやたんさんさんがガスがでる物はつかわないようにしようと思いました。

（多田隈崇志）

②第二時——食物連鎖と放射能が人体に及ぼす影響について考える。

放射性物質の中でもプルトニウムは半減期が二万四千年で、八分の一の強さに減るのに十万年ぐらいかかる話をしたら、「じゃあ、私たちが死んだ後でもまだ残つとる」と、ショックを受ける子どもが多かったです。また、原発のしくみ（発電のしかた）を火力・水力発電と比較しながら教えていたら、「先生、原発やめてみんな火力と水力にすればいいたい」と当たり前のことなのという顔をして陽介君が言いました。

③第三時——スリーマイル島原発とチェルノブイリ原発の事故について知る。また、事故によって人々の生活がどのように影響を受けたかを知る。

「DAYS JAPAN」(四月号)の写真を見せながら、スリーマイル島や西ドイツ、ラップランドのサミ人の生活がどのような被害を受けたかを話しました。巨大タンポポや異常出産をした豚の写真に、とても驚いていました。授業後の感想文に子どもたちの驚きが現れています。

。わたしがいちばんびっくりしたのは、しょくぶつのものです。タンポポが5cmぐらいのが、1mぐらいになったりすることだ。ぶたさんの目がとてもへんなになっていた。目が一つとか、ノミソがないとか。とてもかわいそうだな。それから、つぎにびっくりしたのが、そのほうしやのうが日本にもきていることだ。でも、ここのちかくはだいじょうぶだろうと先生はいつていたけど、わたしはちよつとしんばいだな。ほうしやのうは、ごうせいせんざいよりこわいんだな。

(津川なるみ)

。ほうしやのうのために、いろんな国がほろびるなんてひどすぎます。スリーマイル島のばくはつも、チェルノブイリのばくはつも大きいです。わたしももっと、いろんな物を大人になるまでに勉強したいと思います。(竹島麻里子)

④第四時——原発が稼動する時に生じる放射性廃棄物(死の灰)について考える。

予定していた授業の流れを、急に変更しなければならぬようなショッキングなニュースが、この日の朝、ラジオから

流れました。ニュースの内容は次のようなものでした。

「今年の六月から九月までに、ポーランドなどのヨーロッパから輸入された飼育用脱脂粉乳の中から、215ベクレルの放射能が検出。今年三月から今までに、370ベクレルという基準値(日本の)を超えた輸入脱脂粉乳684トンは輸入元へ返した。しかしそれ以下のものは、家畜が食べるものなので問題はない」

早速、授業の始めにこのニュースを投げかけてみたら、子どもたちが騒ぎ始めました。

T ねえ、家畜が食べるものなので、問題はないと言っているけど。

C 危なかよ。(「危なか、危なか」と口々に言い出す)

T ねえ、牛に脱脂粉乳をやって太らせた後、その牛はどうなるんだろう。

C₁ 肉になる。

C₂ 牛乳になる。

T そうねえ、みんな最後は？

C 人間が食べる。

T でも、「家畜が食べるものなので問題ない」と言ってる。

C₃ 人間が食べると倍になるよ。(第二時の食物連鎖の学習から)

T そうねえ、水曜日に勉強したね。プランクトンから魚、

人間となるにつれて、放射能はだんだん薄くなるんじゃないかと、こゆくなつていくんだつたね。じゃ、²¹⁵ベクレルだから安全というの？

C おかしい。

T おかしいよね、少しでも危ないよね。

C₄ だれがそんなこと言うの。その人は頭がおかしかったんじゃないかと。

この後、基準値そのものに問題があること、これから新聞やラジオ、テレビのニュースなどにも気をつけておくように話しました。

授業がすんで休み時間に、「先生、僕もそのニュース聞いたよ」と俊治君が話してきました。また千世さんは、「昨日は原子力の日だったんでしよう」と教えにきましたし、陽介君は、「先生、昨日の新聞にブルトニウムがなんとかって書いてあったよ」と話しかけ、亜紀さんは、「先生、こんなに死の灰がたまつて、どうなると」と不安そうな顔で言いました。子どもたちの関心がずいぶん高くなってきたことが、言葉や表情からうかがわれました。

⑤第五時——日本に建設しようとしている六ヶ所村の再処理工場と幌延町の核のごみ捨て場について考える。また、電気は本当に足りないのか（発電量と使用量）考える。

この授業の前夜、ドキツとするようなコマーシャルがテレビから流れました。「パスタはみんなヴィトーニ……」

ヴィトーニといえば、販売されているスパゲティの中になりのセシウムが入っているとわかったメーカーの名前です。

（参考までに、京大原子炉研究所小出裕章先生の調査によると、一九八七年七月二十日に測定したスパゲティの中からセシウム¹³⁴が 13 Bq/kg 、セシウム¹³⁷が 39 Bq/kg 検出）そんなメーカーのパスタ類が、テレビを通して大々的に宣伝され、家庭の食卓にのぼつてきているという現実。このことも子どもたちに話しました。

⑥第六時——死の灰というごみをこれ以上ふやさないために、私たちにできることはないかと考える。

友人の菅原悦子さん（小学校教師）が作った「でんきと水」という紙芝居を見せながら、私たちに今すぐにでもできることは何だろうかと考えさせました。また、四年生には難しいかとも思いながら、ウラン採掘者と原発労働者の問題も話しました。便利で豊かな生活をしている人たちの陰で、それを支えるために人間としてのさまざまな差別を受けながら働いている人たちのことは、どうしても子どもたちに知らせたかったことです。

最後に、被害を受けるのは人間だけでなく、地球上の生命あるものはすべてであることを言いたくて、「トビウオのぼ

うやはびようきです」というアニメを見せました。欲ばりすぎた盛りだくさんの授業内容で、果たしてどれだけ子どもたちに伝わったのか、疑問と不安が残りました。

⑦第七時——原子力発電所の学習を通して考えたことを作文にまとめ、これからの生活を見つめる足がかりにする。

子どもたちの感想文を紹介します。

私は、原子力発電所ではたらいっている人は、とてもかわいそうです。私は、家を建てたから自分一人のへやをもっています。けれど、自分のへやをもっているから、冬になると、とても寒いので、ファンヒーターを買うと言っています。けど、兄のへやの所にもファンヒーターをおかなければなりません。先生、どうすればいいんですか。二つともかったら、原子力発電所ではたらいっている人が、とてもかわいそうです。私は、ヘーゼルナッツがはいっているのをたべたいけど、がまんして、電気はつかわないときはけして、がんばってみます。

(石村水紀)

放射能がどんなにこわいか、勉強してよくわかりました。日本は小さい国なのに、原子力発電所が38カ所(注、38基のこと)もあるなんて知りませんでした。原子力発電所からも少し放射能が出ているなんてびっくりしました。ウランをほり出す人たちが、とてもかわいそうです。

カナダの人たちや、南アフリカのアパルトヘイトの黒人たち。やすいお金で命がけなのでかわいそうです。アメリカがやった水ばく実けんで魚たちが死んでいったの、スリーマイルでのばく発で放射能を受けてなくなった人たちがかわいそうでした。放射能をあびた植物がきよいかししたりしているのにはびっくりしました。

わたしは少しぐらい寒くても、暑くても電気はむだづかいしないようにしよう。水を大切に、明るいのにについていたら必ず気づいて消そう。みんなにも、先生からおしえてもらったことを話そう。そして、一人一人が電気をだいいじに使ってほしいです。

(森 さつき)

三、終わりに

この授業を終える頃から、新聞の切り抜きを始めたり、新聞、ニュースなどに目を向ける子どもが、一人二人と出てきました。教室や廊下の灯りがついたままになっていることも少なくなってきました。たしかに、知ったことで不安感や恐怖心を持ちましたが、それだけで終わらず、それを一歩乗り越え、自分に出来ることは何だろうかと考え出したような気がします。そこに子どもたちの逞しさを感じます。これからも、小さなことを大事にし、それを少しずつ積み重ねながら、くらしを見つめる目を育て、人間らしい生き方とは何かということ、いっしょに考えていきたいと思っています。

男女共にひきつける

「住居」学習

●松阪市立殿町中学校

吉川裕子

本年度より、遅ればせながら、技術・家庭科の全学年男女共学に踏み切ることができました。すでに実践してみえる先生方から見れば、何を今ごろと思われるかもしれませんが、当事者にとってみると、真冬の朝、車にエンジンがかかるくらい多大のエネルギーを必要としました。

本校の場合、二年生まではすでに共学でしたので、残り三年生だけなのですが、今まで週三時間で女子だけに食物3と被服3を教えていた私にとって、「週一・五時間で何を教えるか」に、たどりつくまでずい分の時間を必要としました。また全学年共学にするなら、三年生だけでなく、一・二年生の内容の見直しも必要になります。一・二年生は週一時間、三年生は週

一・五時間、こんな少ない時間数で、人間が生きるために一番大切な教科を教えないならなんて……。教えたことは山ほどあります。時代遅れの（私にしてみれば）部厚い教科書に書かれた内容も、これまたたくさんあります。これらの中から、子供たちが将来、健康にたくましく生きていく力をつけるためには、どんな教科を選べばいいのか。そしてその教材を週一時間の授業として成立させるためには、どのように自主編成すればいいのか。私たちは今、家庭科教師としての力量を試されているように思います。

現に、全学年共学にした今、私は教科書を使っていまません。もう一人の家庭科担当の田中瑞江教諭と何度も何度も話し合った結果、私たちは消費者教育に重点を置くことにして、全学年共学にしました。一年生は「食物1・2」、二年生は

「住居」と「被服」（被服の共学内容については五月号に掲載）、三年生は週一時間で「食物3」、半期週一時間で「家庭生活」です。

話が前後しますが、私を全学年共学に踏み切らせたのは、ある男子生徒の言葉でした。昨年まで三年生の女子には被服3（パジャマの製作）と食物3を教えていました。女子だけで調理実習をしていると男子生徒がうらやましそうに調理室をのぞいて、「先生、何で三年生になると男子は調理実習しないの」と文句を言います。単に作って食べたいだけの声なら無視できたのですが、「先生、ぼくは東京の大学へ行って一人暮らしするつもりやし、会社で転勤があったり、単身赴任の時、自分の食事がちゃんと作れんたら困るんとかう。男子も家庭科勉強したいわ」とまじめな顔をして言われた時、私は返す言葉がありませんでした。その男子生徒の言うとおりののです。その時、もう共学にするっきゃないと思いました。「食物3」を男女共学にして、何も不都合なことはありません。生徒は二年生まで共学しているので、ごく普通の授業として受けとめています。必要以上の緊張をしているのは教師だけです。ただし、実習の献立は教科書の内容を基本にしてすべて新しく考えました。牛丼と吸い物から入ってカレーピラフ、たきこみ飯、鶏肉の空揚げetc。簡単でしかも栄養

のバランスがよく、生徒が家でもう一度作りたくなるものって難しいですね。今は第七回「あさりときのこのスパゲッティと野菜サラダ」を終えたところです。七回目にもなると、こちらもずい分、楽になりました。最初の頃、大声で注意していた後片付けもチェックカードを使うようになってからすべて班長の仕事として生徒に責任をもたせました。

また最初の頃は、これは教師の偏見かもしれませんが、男子班の方が下手ではないかという先入観があったのですが、むしろ実習時の男子の無駄のない動き、手早さには、女子がびっくりして、あわてて盛りつけたり片付けたりする光景も見られました。実習は回を重ねるたびにスムーズに進み、今は米の量は自分たちの胃袋に合わせて持ってきて、水の分量も自分たちで計算し、サラダのドレッシングも好みの物を作ったりしています。牛丼から入った三年生の食物の共学、まずまず成功かなと思っています。

しかし、私たちの本年度のポイントは消費者教育に重きをおくことです。食物は絶対子どもが興味を持っているので、共学しやすい領域ですが、他の領域で生徒を引きつける授業をするのは難しく、今も四苦八苦しています。今回は「住居」の「住宅広告の分析」と「家庭生活」の「一人暮らしを考える」の途中経過を報告させていただきます。

二年生の最初の授業で、「住居」を学習することを伝えると、生徒はがっかりします。直接言葉に出さなくてもその表情を見るだけでわかります。生活の基盤は住まいであり、食生活も衣生活も住まいの中で営まれるのに、なぜか中学生の年齢では住まいに対する興味・関心は低いのが現状です。また、衣・食生活とは違い、生徒一人ひとりの住まいには、ずい分差があり、今の生活から問題点を çıkせて考えさせるには難しい点が多くあります。それは、せっかく問題点を見つけ、それを解決しようとしても、多額の費用がかかったり、不可能だったりして、生徒にとつてただむなしだけの住居学習にしてはいけないと思うからです。

そこで、夢を持たせながら、現実の社会問題を考えさせる方法として、住宅広告の分析をすることにしました。ただし一学期のうちに教科書の内容をサツとすませ、簡単な平面図記号とダイニングキッチン製の製図はすませておきます。

まず、夏休みの課題として、住宅関係の広告を集め、その中から平面図を五十軒分以上用意し、値段や土地面積、建物面積も含めて、一軒分ずつ切り分けることにしました。平面図は分譲の新築、中古住宅、マンション、アパート、増築用から車庫まで、地元の不動産会社のものだけでなく、都会のものや他の地方都市のものも入手可能な限り集めることにしました。九月には絶対、一人ひとりが五十軒分の広告を切っ

て持つてくることを約束し、夏休みに入りました。

夏休み、クラブや登校日に二年生に会うと、「先生、もう五十軒集めたよ」とか、「大阪の親せきで広告もらってきた」とか、いろいろ報告してくれます。

さあ、二学期最初の授業です。生徒たちはワイワイガヤガヤ持つてきた広告を友達と見せ合っています。でもこの時はまだ平面図の細かい読みとりはできず、ただ単に値段や写真を比べ合っているようです。まず、部屋の数え方(3DK 4LDK)を知らせ、五十軒数えてみることにしました。

最初、プリントで数え方の練習をしましたが、いざ数え始めると、いろいろなまぎらわしい物が出てきます。KとDKとLDKの区別がなかなかできなかったり、納戸やクロゼット、フリースペースなどを一部屋として数えるかどうか、アコーディオンカーテンの仕切りは二部屋にするかどうか、私も迷ってしまうような平面図が次々と出てきます。二時間かかってやっとどうにか数え終わりました。

これらの広告は、1Kから順にノートにはっていきましました。はりながら、松阪地区の分譲住宅はほとんどが4LDK、5DK、5LDKということがわかりました。また一軒分の土地の広さは、百五十平方メートルから二百平方メートル(五十〜六十坪)、価格は二千五百万円前後ということがわか

りました。

次に、都会の広告が入手できた生徒に頼んで、それらをコピーさせてもらい、その中で高価格の家、狭い家、松阪の平均的な家と同じ広さの家、ワンルームマンションを二十軒ほど印刷して全員に配りました。まず、松阪の平均的な分譲住宅と同じ様な家が、大阪近郊では八千万円前後、東京近郊では二億〜三億することがわかり、ほとんどの生徒は億を越す価格に大変驚きました。また、松阪では絶対にならないような狭い家（二十坪前後）が中古で二千万円もすることや、ワンルームマンションを借りるのに保障金が百万円もすることなど驚くことの連続でした。

この後は、意味のわからない住宅用語を書き出すことにしました。もう一度、1Kの平面図から一枚ずつよく見て、クローク、クロゼット、ホール、ポーチ、吹抜、床の間、広縁、寄棟、切妻……軽く二〜三十の言葉が出てきます。これらの言葉の中にはメーカー独自の用語もあり、調べても分からない物もありましたが、ほとんど私が説明しました。ひとつ予想外だったことは、縁側や床の間の説明をしても首をかしげている生徒がけっこういるということです。社宅やアパートのような集合住宅に住んでいる生徒には、日本古来の住まいの名称がわからなくなってきたことに、少々淋しい思いもしました。

ここまでで、自分の集めた広告の内容が理解できたことになるため、これらの広告の中で一番気に入った家の平面図を二〜三倍に拡大して製図しました。ここで、壁や引き違い戸、片開き扉等、平面図記号の復習もしながら一軒分の平面図を仕上げることができました。みんななかなかきれいででき、満足気でした。

最後に、私からもう一度この授業のねらいとまとめを話し感想を書かせました。ここに数人の感想を紹介します。

「初めは住居って何をするんだろう。つまらないなあと思ってたけど、広告を集めて数えられるようになったら、だんだん面白くなってきた。家へ帰ってお姉さんやお母さんにも数え方を教えてあげた。また、製図ができた時はうれしかった。」「私の家は三年前に改築したので、前からこんな平面図は家族でよく見ていました。けど、細かい言葉までは知らなかったし、一軒分製図してみると、部屋のつながり方なども分かった。私が家を建てる時がきたら、絶対ここで習ったことを生かしたいと思う」。

「この授業で、ぼくの夢はこわれた。ぼくは東京の大学に行きたいと思っていたし、就職も結婚後も都会に住みたいと思っていた。しかし、今の東京では絶対に新築の家なんか住めるわけないし、アパートやマンションの家賃もすごく高いことが分かった。サラリーマンが一生まじめに働いても家が持

てないなんて、今の日本の社会は何かおかしいと思う」。

どの生徒も、最初はつまらないと思っていた住居学習が、実は大切なことであり、不動産の価格の地域差に驚いたことは将来自分が直面した時、絶対参考になるであろう、ぜひ役立てたいと強い決心を書けるまでに変身していました。

経済大国日本と言われながら、お粗末な住宅事情、この子たちが家庭を持つ頃は、もっともっと土地や家が高くなっているでしょう。なんとか強く賢く生きてほしいものだと思わずにはいられない「住居」の学習でした。

さて、時を同じくして三年生の「家庭生活」で「一人暮らしを考える」をテーマにして、消費者教育を試みました。これも何か面白い教材はないかと頭をひねっていたところ、結局自分が十代の時直面した問題に行きつきました。それは、進学・就職の時、突然やってくる引越と一人暮らしです。現に私も、大学の合格発表のあった翌日、アパートを探しに行きました。就職は四月一日の新聞で赴任先を知り、翌日からの勤務と同時に引越しをしました。

進路で悩んでいる三年生に、進学就職時の話は興味をそえられるようです。私の例をあげ、一人暮らしを仮定し、必要な物の数、単価、合計金額を計算することになりました。

①一人暮らしに必要な物（家具・寝具・衣類・電化製品・台

所用品・洗面入浴用品・食料品・調味料・その他）を具体的にあげる。

②①で全員に共通する物を表にし、その単価・必要数・合計金額を出す。この作業には約二週間分の新聞広告を使って一品ずつ価格を調べる。

③②の合計に引越費用とアパート入居費、進学の場合はさらに入学金を加える。

④一人暮らしにかかるすべての費用を合計し、その感想を書く。

⑤感想を発表し話し合う。

感想の一部を紹介すると、「百万円をかるく越えたので、びっくりした。礼金や保障金や不動産の手数料なんて考えてもみなかった」「広告でいろんなことを調べたので主婦になったような気がした。そしてもっとお金の使い方を工夫しなければと思った」。この授業で生徒たちは改めて、親のありがたみやお金の大切さを痛感したようでした。

大変中途半端な報告になってしまいましたが、私は、週一時間に教える内容の難しさと、技術・家庭科の重要性、それを教える教師の重責を感じて、今日も教室に向かいます。

「住生活」をどう教えるか

●山形県立新庄南高等学校

田村より子

一、はじめに

「衣・食・住」という言い方は、いつ頃から使われたのでしょうか。女と男を、女男とは言わずに男女と呼ぶように、ふだん何げなく使っている言葉の中に、日本人の潜在意識が横たわっているような気がします。

「家庭一般」の各領域を取り上げる時、「住生活は大切なのに、つい手抜きをしてしまいがち」と自己反省するのは、私だけでしょうか。衣生活は、流行に敏感な生徒たちの関心を引くのに苦労はいらないし、逆にそこに問題意識を持たせようと、闘志が燃えます。更に、合成洗剤の人体や環境への害は、人類の生存にもかかわる大問題でもあるので、これも教材としてプログラムしやすく、反応の大きい場面です。食生活は、

命や健康に直接関係があるだけでなく、作る楽しみや食べる楽しみがプラスされるので、生徒たちには楽しくかつ学び甲斐のある場面を多く作り出すことができます。

ところが問題なのが住生活です。これまで住生活を学ぶ時期は大かた三学期でした。進度の遅れのしわ寄せがきて、残りせいぜい十時間余りで住生活の指導を、というのですから無理が生じます。そこで教科書の表面的な知識を与えて終わりにしたり、住環境の破壊や住宅政策などの社会問題を資料集を参考にして授業を進めたりするのが実態でした。「住まい」は取り上げると余りに大きく広がり過ぎ、私自身が確固とした注意意識を持たない上に、社会問題としてとらえるには不勉強でした。今さらながら恥ずかしく思います。

そこで今年度は、未熟ながら住生活への視点を築く第一歩を踏み込んでみようと、衣生活の後半に予定していた被服製

指導計画		
住生活	1. 住まいの文化と住生活	① 日本住居と世界の住居 1 ② 住居の歴史と住生活の文化 1
	2. 住空間の配置計画	① 住居の機能と空間 1 ② 住居の条件と計画 1 ③ 住空間の配置計画 2 (採研)
	3. 住居の維持と管理	2
	4. 室内の整備と美化	2
	5. 自然環境と住居	① 上下水道と水道源 1 ② 公害と住居 2
	6. 住生活の現状と展望	① 住生活事情と住宅政策 2 ② 今後の課題 1

有の問題が生じており、外国から「ウサギ小屋」と批判されるほど、貧しい日本の住宅事情や住宅政策が浮き彫りになっています。そうした日本の住まいの現状を認識させた上で、よい住居に住むことが私たちの基本的人権であるという立場から、人間らしい住まいとはどんな住まいか、またそれを実現するにはどうすればよいかを考えさせたいと思いました。

住空間の配置計画は、家族が豊かに暮らすための住み方等

作を最後に回して、住生活の時間を十五時間確保することから始めました。そして住空間の配置計画の所を他教科の先生方にも見ていただこうと公開授業を行いました。

二、教材観

住まいとは生命を守り健康で文化的な生活を送る器でなければなりません。しかし現実には、都市においての人口の集中と地価高騰、農村においての過疎と自然破壊と、それぞれに特

の心理的な面も重視したいと思いました。質の良い住まいには、共に生きる家族や地域の人たちへの思いやりが、間取りや環境に生かされていなければならぬと考えます。人間にとって大切なことは数あるけれども、健康なくしては多くのものを失ってしまうのではないか、ということ、目標を、「設計図例を読みとり、そこに健康で温かい人間関係を作ることのできる配置計画を考えさせる」としました。

三、住空間の配置計画の授業実践

住空間を考えた時、最初に、生活機能に応じた室の種類と広さと数が問題になります。しかし、それぞれの置かれた年代や家族構成、職業や収入額、住む町の特徴までがかかわってきますから、あるべき姿を言い定めることはできません。要はその人の生き方やその人の「住まい」に対する考え方ひとつであるとも言えます。ある人は「住まいの良し悪しは、器そのものより住まい方の工夫・知恵が決め手」と言います。しかし、最低居住水準も満たしていない住まいの問題が住まい手の工夫不足と知恵不足である、と言ってしまったら、「ウサギ小屋」からの脱出は将来も期待できなくなってしまうます。量を求めた過去の反省に立って、量より質が問われている今日、知恵を生かした工夫で本当の豊かな住まいが築かれていくことに違いはないのですが、量としての住まいも人間

```

graph LR
    A[配置計画のポイント] --> B[ライフサイクルに合わせた住まひの仕組みと最近の住まひの考えについて]
    A --> C[健康と通がけ可能な住居のあり方について]
    A --> D[共に生活する家の配置]
    B --> E[高齢者を中心にファミリー層に合わせた住居間がどうあるかを考えてみよう。]
    E --> F[設計図面も見て空間構成・想定しながら生活行動に合わせてレイアウト]
    F --> G[設計図の記号と時系列による表現]
    C --> H[日暮を考えた空間の配置]
    H --> I[行き来が便利で、ファミリーとジェネレーションの調和のとれた空間]
    I --> J[分離住居における空間]
    I --> K[近接し、連絡がとれる空間]
    I --> L[居間を中心にみんな集う構成があるか]
  
```

の生活を包む器にふさわしいものでありたいものです。

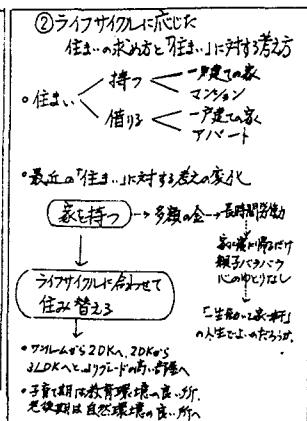
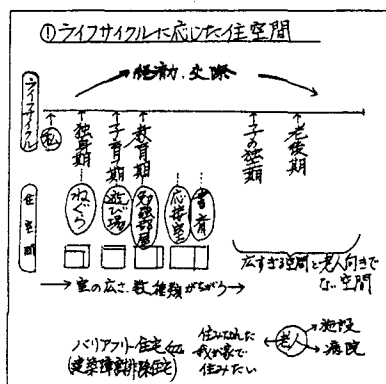
者がほとんどです。ですから、就職↓結婚↓子育てという構図はすぐ描くことができます。しかし、いずれ老後を迎えるであろう自分の姿はなかなか考えが及ばないよう

えた時のことも考えておかねばならないので、将来を見通した住宅の計画を、早目に立てて生活しなければなりません。

しかし、足腰の弱い老人、目や耳の不自由な老人と同居している生徒に、住まいの中に特別に配慮した所はないかと尋ねてみても、別にこれといった意見が出ないことから、老人に対する配慮不足がうかがわれます。そこで、三井生命が'87年十二月に行った首都圏の生活設計に関するアンケート調査結果の一部抜粋文を資料にし、自分の老後と、老親の住まいについて考えさせました。

それによると、「経済的にも精神的にも子供から独立し、資産管理に気を配るとともに（中略）活動的な老後生活を送る“シルバー新人類”とも呼ぶべき新しい老人が一定の社会的存在として成立し始めた」とあり、首都圏で百万を超すシルバー新人類を推定しているといっています。しかし、シルバー新人類といえども、老いればいろいろな身体的問題が生れます。住まいにも施設設備面の配慮が必要になります。それには経済的な問題もかかわってくるし、他人の介助を必要とする場合もあります。他人の介助は、身内、病院や施設、またボランティアの方々だったりもします。こうして授業の歯車が回り始めると、話題は四方に飛び、元の場所にもどすのに冷汗が出ます。特に、他の先生方の目がありますからなおさらです。とにかく、老人や身障者の方たちと、家で、あるい

向が強く、市街地近辺の田畑が次々と宅地に変身していきま
す。そうした状況を発展と呼ぶのか自然破壊と呼ぶのかは価
値観の問題で難しくなりますが、「家を建てる」ことが甲斐



は社会で、共に
住む自分を感じ
てくれればよい
と思います。

次に、ライフ
サイクルに応じ
た住まいの求め
方と、「住まい」
への考え方につ
いて取り上げま
した。今や「家
を持つ」時代か
ら「住みこなす」
時代だと言われ
ます。しかし、
私たちが生活す
る東北の山間の
町では、まだま
だ「持ち家」志

性として社会的評価を受ける社会通念が、そのまま無意識の
うちに生徒たちにも植えつけられているような気がします。
全員がこの近辺に生活の拠点を持つとも限らないし、持って
住むか借りて住むかは各人が選ぶことですが、少なくとも、
がんじがらめの持ち家志向から解放された考えは、生き方
に多様な可能性を与えてくれるだろうと思います。「持つ」から
「住みこなす」考えに変わってきた都会の様子を情報として
与え、授業を展開してみました。その結果、次のような生徒
の感想が寄せられました。

*私は、「家を持つことがその人の甲斐性でもあるかのよう
になったのはたかだか二十年だ」ということと、「家は『住
む』もので、『持つ』ものではない」という先生の言葉がや
たら頭について離れません。私の家は農家でした。でも減田
で農業一本で食えることができなくなったので、父が会社
に勤めてかあちゃん農業をしていました。でも、私や弟が大
きくなって部屋が欲しいと言ったら、いっぱい借金して、葉
き屋根の家をほどこいてモルタル造りの家を建ててくれまし
た。でも農機具の借金と家の借金で苦しくなつて、私が小学
五年生の時から母も会社で働いています。母はいつも「金
がない、金がない」と言います。私は子供にぐちを言うくらい
なら家なんか建てなくてもいいかっただのにと思っています。私が大

人になったら、家に振り回されないように、きちんとして、家を建てるか借りるかは分かりませんが、ゆとりのある空間とゆとりのある時間とゆとりのある経済力で暮らしたいと思います。(無理かなエヘ)

こんな調子で授業が進み、活発ではあっても乱発的な授業

になってしまいました。二時間目は間取りです。これはプライバシーとコミュニケーションの調和と、共に生きる家族への配慮をテーマに授業を組みました。一時間目の反動で、私の理論の押し売りが多く、授業としてはまとまりがよかったと言われましたが、私としてはまとまらなかった一時間目の方がよかったと思っています。

「広がるネットワーク」の平井雷太さん。

'88年のWe春の公開ゼミナールにバネラーとして登場以来、「強者の論理」をめぐる誌上論争etc、行く先々で風を巻き起こした「トリックスター」(いたずら者)。合

評会などでは鋭い切り込みを見せ、「場」を緊張させるが、一対一になると、フツと構えを切り崩し、ナイーブな己を曝す人。

若者風の見た目と、「時代の空気」

を先取りした挑発的なメッセージから思いうかべる、イージーな印象の背後に、どこか「行者」的なひたむきさが漂う。

'49年生まれ。「過保護、過干渉を絵に描いたような」親元で育ち、内弁慶。学校では、

遊びはみそっかす、どもりに悩むおとなしい子だった。高三のとき、養子であることを偶然知らされる。なによりもショックだったのは、そのこと自体よりも、周りがみんな、そ

〈広がる ネットワークの〉 平井 雷太 さん



のことを知っていたながら、彼を哀れんで隠そうとしていたことだった。もらいっ子であったことと、どもりであったこと、「同情」され、一人前に扱ってもらえないことへの憤りは強烈な原体験に。

もう一つの転機は、大学卒業後、就職せずにヨーロッパに駆け落ちしたこと。一見カッコ良さそうにみえるが、実は、社会に出る自信がなかったゆえの逃亡。人は大義名分では動かないと思ひ知る。三年前までは、躁と鬱が半年毎にくることに六、七年間悩まされたが、この頃は、鬱を受入れることによって難なく通過させることができるようになった、と。

そのときどきに自分を内からつき動かすものにとりあえず身を任せ、徹底的に体験する中から、また、予期せぬ出会いが―その「遍歴」の過程を『らくだが翔んだ』(ウイ書房)にまとめたのが一年前のこと。今はまた、世界の子もたちと一緒に暮らす、ネットワーク型家族を模索中。(稲邑)

●●●こだま●●●

これからの消費者教育

脇 美智子

十二月号の加藤真代氏の「家庭科教育における消費者教育的視点」を読んで、いくつか思いつくままに書かせていただきます。

二十数年前、大学で「これからの家庭科には消費者教育が非常に大切なものになる」と学び、そのことを胸に埼玉県の中学校に勤めた私は、教科書を見ても何から始めてよいかわからず、一年後、若い者の怖いもの知らずというのでしょうか、全国の消費生活課（または家庭科指導課）に手紙を出して教えを請いました。『暮らしの手帳』の商品テストが電化製品購入に大きな影響力をもち、主婦連では『メラニン色素の食器』を大きくとりあげる時代になっていましたが、もどってくる返事は「今後必要とは思いますが、現在は何も手を付けていません」や、逆に「是非お教えを」というものばかり。結局、自分なりの工夫で授業をする他ありませんでした。

ただ、当時の県指導主事より、「若い人は教え方は未熟かもしれないが、新しい知識を大学で身に付け、それを現場でバイタリティ

ーを持って發揮してくれることが、とても大切だ」と励まされたことを思い出します。

加藤氏の文を読んで、二十年という時代の流れを感じつつも、当時の大学教育の先見性というものの素晴らしさに気付きます。

加藤氏は、「家庭科での消費者教育として、基本的な生活技術をこなし、賢い選択のできる、自立した消費者の育成。現代社会が生む構造的な消費者問題に家族や地域の人々、更には世界の人々と連帯して解決に立ち向かえる、たくましい子供達の育成を期待している」と言われますが、最近もう一つ付け加えなければいけない問題が出てきたと感じます。

『賢い消費者』『だまされないように』ということと同時に、『だます立場（善意の加害者）にならないように』という点です。

私の同僚が数年前の卒業生から電話をもらい、「主婦になって先生の授業を思い出します。とってもいい勉強をさせてもらって、一度遊びに行っていましたか？」。まさに教師冥利につきると大喜びで家と呼んだところ、アメリカ製の合成洗剤を沢山持ち込み、いかによく落ちるか、手が荒れないか、そして、公害にならない理想の洗剤であると勧められ、彼女の心を傷つけず、何も買わずに帰す

ことにいかに苦労したかを話していました。

私自身も、非常に親しくしている友人から同じような洗剤を、アトピーがなおる、鼻炎がなおる、また、他の会員を増やせば安く手に入ると誘われたことがあります。また繁華街でキャッチセールスをしている若者も、ほとんどが学生アルバイトのようです。彼女達はただのアルバイトやパートと同じように感じているのではないかと思います。

生活が多様化すれば、販売方法にもいろいろな形が出てきますし、それによって恩恵を受けることも多いわけですが、気軽に小遣い稼ぎをと思っただけなのに、気付かないうちに法律にふれるような加害者になっているという危険性は身近にいくらでもあると思います。詐欺商法のリーダーは別として、その下部組織に組み込まれた善意の加害者になる可能性は、誰にでもありそうです。この点の消費者教育がこれから大切なものになるのではないのでしょうか。またすでに始められつつあるマイコンを使った株や商品の売買も多くなるのが予想されます。「家庭科でコンピュータを」と言われている現在、このような商法のお先棒を担ぐようなことにならないければよいがと懸念されます。（高校非常勤講師）

＊情報１＊

新教育課程実施を前に 家庭科の条件整備は？

（東京都の場合）

新教育課程の実施の日は、一日一日と近づくのに、その日のために準備すべきことは山積しているというのに、条件整備がどうなっているのか、さっぱり見えないことも、家庭科の先生を不安に陥れています。東京都議会厚生文教委員会では、昨年十月五日、青木なち子氏（社）が、精力的に質問し、都教委から、

具体的な答弁を引出しました。資料提供は家庭科の男女共修をすすめる会です。今の運動のすすめ方として、地方選挙で躍り出た女性議員（もちろん理解ある男性議員でも可）に働きかけ、資料を提供し、議会で問い質（た）してもらう道があります。そのための好例として、議事録から抜粋して紹介します。

○青木なち子委員（社）最初に教育長に伺いますが、婦人問題解決のための新東京都行動計画、いわゆる「男女の平等と共同参加へのとうきょうプラン」というものがありまし

て、実施細目で、東京都は、男女平等教育の教育課程の位置づけや学習内容の充実の項目に中学校技術・家庭、高等学校では家庭における男女の履修について特に述べていること、そして中等高等学校の家庭科における男女共修の推進を施策としているという基本的な姿勢について、ただいまそれを堅持していらっしゃるというふうに理解しているのかどうかという点についてお答えいただきたいと思っています。

あわせて、男女教育の視点に立つて、国に施策要望として家庭科の履修実施に向けて条件整備を図ってほしい、こういう姿勢でもあるということを確認してよろしいかどうか、最初にお答えをいただきたいと思います。

○水上教育長 男女平等の問題は、基本的人権の尊重ということを教育の基本理念として、いる東京都の教育目標からするならば、学校教育の課題として私は大変大切なものだと考えております。

中学校の技術・家庭及び高等学校の家庭科の男女履修の問題には、ただいま指摘ございましたように、婦人問題解決のための新東京都行動計画の中にもございまして、東京都といたしましても国に対しまして、中学

校の技術・家庭、高等学校の家庭一般等について、男女平等教育の視点に立つて現行の学習指導要領を検討してもらいたいということ、を要望してきた経緯もございまして。現在、新しい学習指導要領が告示をされております。私も、その理念に沿ってその実現に努力してまいりたいと考えております。

○青木委員 ただいまの教育長の決意なりご姿勢に比べますと、ここに出されております資料の履修実態というものには非常に不十分な現状があるのではないかと、このように私は感じるわけです。（中学校の技術・家庭の別学履修がまだ改められていないことを質問し、教育委員会は、現行の学習指導要領に基づくという形になると答弁。青木委員は、「とうきょうプラン」に基づけば、女性に技術系列を、男性に家庭系列を選ばせる指導ができたのではないかと尋ね、教委は学校が決めることだと答えた）。

○青木委員 資料を見ていただきますと、家庭一般の男子履修状況というのが出ておりますが、最初に気がつくことは、普通科全日制は全然ふえていない、一校のみという実態のようですが、これはどういう理由なのか、教えていただきたいと思えます。

○宮澤指導部長 このことに関しましては、現在都立高等学校の教育課程の組み方が、家庭科の授業と組み合わせとしては保健体育の授業が組み合わされております。そういったところから全日制普通科の高等学校におきまして家庭科履修の状況が十分ここでは変化が見られないということとして私ども把握しております。

○青木委員 家庭科の教師の数、施設設備の整備というものについて具体的に共修を進めるプラン、これが予定されております高等学校の学年進実施、九三年度ですか、これに向けてどのようにできているか、教えていただけますか。

○小豆畑人事部長 ただいま家庭科の教職員二百五十五人でございますが、新指導要領に基づいてこれを平成六年から実施した場合、六年、七年と二年間にわたりますが、それぞれ年間百二十人程度、計二百五十人前後の教員を新たに採用する必要があるというふうに考えております。

なお、現在、東京都で高校の家庭科の教育職員の免許状を取得している者は毎年八百ないし千人ございますので、十分採用が可能というふうに考えております。

○有坂施設部長 私どもといたしましては、来年度、高等学校施設基準検討委員会を設置して、その中で新しい学習指導に必要な家庭科の施設基準を設けたいというふうに考えております。なお、その際は、先ほどお話がありました生徒急減に伴う余裕教室等も十分活用して対応できるのではないか、かように考えております。

○青木委員 男子も共修という形になった場合、今の調理室や被服室の実態のままでできるというふうにお考えになっていらっしゃるのか。それからもう一つは、都立で全くの男子校というのがありますね。そうでないところでもほとんど専門学科において、工業科など、こういうところについての増員と施設設備、こういうことを考えて具体的にどういうイメージでおっしゃっているのか。(略)その辺を教えてください。

○有坂施設部長 新しい学習指導要領の中で家庭科は三科目ございまして、家庭一般と生活技術と生活一般がございまして、その中から一科目選択するというところでございます。そして、どのようにそれを選択するかにつきましてはこれから各学校の方で決めることとございますので、私どもといたしまして

は、この科目によってそれぞれ必要な施設が多少違いますので、そこら辺の学校の実態を踏まえて整備して基準を設けていただきたいと思っております。それから、現在工業高校二十九校ございますが、そのうち二十校には家庭科の特別教室がございません。当然これは平成六年までに家庭科教室を設置したい、かように考えております。

○小豆畑人事部長 家庭科の教員のことについてお答え申し上げます。

現在、家庭一般の授業数、これは時間数に換算いたしまして、秋川高校と工業高校二十七校を除いて三千七百九十時間でございます。そのうち男子必修の場合の家庭一般の時間は、約倍でございますので七千五百八十時間になろうかと考えております。したがいまして、増加時数が三千七百九十時間、そこで新たに必要となる教員数は、一人十八時間持つということを考えてまして二百十一人、これを年度計画にいたしまして百六人、百五人程度になろうかと思っております。同じように秋川高校、工業高校二十七校についてもそれぞれ試算をいたしまして、平成六年度には百二十六、平成七年度には百二十四、先ほど申し上げました合計二百五十人程度になろうか

というふうに今のところ試算をしておるところでございます。

○青木委員 一番大きなネックになる先生方の姿勢、(略)もっと積極的に教師の皆さんが、家庭科の先生だけではなくて学校の上から下まで、共修についての把握、推進ということについてどのように指導なさるのかということとが東京都の教育委員会の大変大きな役目であると思うのですけれども、その辺のプランを教えてくださいと思います。

○宮澤指導部長 お尋ねのごとく私も、教職員がどのように新しい学習指導要領の精神を理解し、それに基づいて教育課程を編成するように努力するかということにつきましては、(略)そのための援助といたしまして、各学校からも代表等を選びまして、あるいはそれぞれは今まで組織として持っております研究会等を通じて、これらの意識の啓発といひましようか、新しい考え方を身につけるように努力させたい、このように思っております。また、先ほど申し上げましたような研究員等に研究課題を取り上げてもらって、その研究成果を各学校に返していくということも進めてまいりたいと考えております。これらにつきましては具体的にこれからそれぞれ

の日程等を組んでいく、そういうつもりであります。

○青木委員 意識の啓発とか、今後具体的にプランをつくるということですけれども、その計画ができる前にぜひ先生方、教職員全員の意識調査をしていただきたいと思ひます。この中で何が今まで家庭科の履修についてなかなかかどらなかつたということがあったのかということの一つの原因というものが見つけられるというふうに私は思ひますが。

あわせて、私が気になっているのは、施設や教員の整わない学校への特別措置ということで、生活一般四単位のうち二単位は当分の間体育や情報処理などの他の科目で代替できるということも附則などで示されているようでございます。当分の間というのはどういう理解なのかということがわかりませんけれども、東京都が男女の平等プランということとをこれだけ積極的に打ち出しているわけですから、この当分の間が全くないという形で進めていただけるかどうかという問題、お答えいただきたいと思ひます。

○宮澤指導部長 第一の点の意識調査についてというお尋ねでございますが、この点につきましては、こういった形で全教職員を対

象にした意識調査をするということを従前やっております。しかし、今お尋ねのような件でございますから今後研究してまいりたい、そのように思っております。

第二の点でございますが、(略)当分の間という附則がつけられた経緯は、やはり学習指導要領の制定の経過等から考えますと、全国各地における学校の実態というものがその背景にあると理解しております。東京都におきましても、必ずしもすべての学校が現在行っていないという状況もございまして、施設設備の面でも十全ではないわけでございしますが、当分の間というのは施設が整うまでというふうに私どもとしては理解しております。

○青木委員 半分答えていただいたのですけれども、後の半分、出発までにこれからどういう施設設備の充足をしていくかというのをきちんと全部手当てができるように進めていただけるかどうかという問題ですね。

○有坂施設部長 先ほど申しましたように、来年度検討委員会を設置いたしましたので、学習指導要領の移行の状況等を踏まえて、平成六年度までにできるだけ必要な家庭科の特別教室を整備するようにしたいと考えております。

○青木委員 検討委員会の仕事というのはどういうお仕事なのか、具体的に教えていただけますか。

○有坂施設部長 高等学校施設基準検討委員会の仕事は、学習指導要領の改訂、それから今回パソコン、ＬＩの導入、それから先ほど質問がございましたように生徒急減に伴う余裕教室の活用等もろもろのことを考慮して、今まで生徒の受け入れで、量的なもので精いっぱいだったわけですが、今後質的なものを高めたいということで施設基準の見直しを検討する。その中で、学習指導要領の改訂に伴う施設の整備も検討したいということです。

○青木委員 家庭科が男女とも平等に履修できるという実態が、そういう意味では「当分の間」というのがない形で進められるように要望いたしますが、特に教育委員会、東京都においては男女平等の教育のガイドラインというようなものをつきとつとつて、各学校または各教職員の方たちに徹底をさせていただくという姿勢を持っていただけないだろうか。同じ先生同士でも家庭科の履修ということについてまだまだ理解が十分でない実態というのがあるのはご存じだと思うのです

ね。その中でこれを本当に進めるという意味では、単に指導要領が変わりましたというだけではない、しっかりとした基準がないと、今の偏差値教育とか受験とかという中でともすればおろそかにされがちで、暮らしを支えていくという意味で大変大事な教育の部分が欠けたまま、先生方の意欲も家庭科の先生方の意欲だけに寄りかかるような実態になっていくのではないか。すべての先生方が男女平等教育の中の必要性ということを十分理解し、積極的に推進していただくという全校一致の姿勢をつくるためにもぜひ必要ではないか。また小学校、中学校等についてもガイドラインというものがある中で初めて目安がつく、積極的な推進というものについての規範が東京都から出たという中で参考にできるのではないかと思います、その辺についての姿勢を教えてくださいたいと思います。

○宮澤指導部長 先生ご指摘のガイドラインという名前であるかどうかは別といたしまして、今考えているところでは、まず移行措置の基準とか資料とかいうような説明書をつくり、さらにその説明会を開き、多くの教職員に徹底していくつもりでございます。また、各学校では校内の研修会等を活発に実施

していただきまして、これらの資料をもとにいたしまして認識を深めてもらいたい、そのように考えているところでございます。既にこれまでも男女平等教育推進のために教師用の資料を用意してきたところでございます、これらは現在学校の方にも配布してございます。また区市教育委員会に於ても、男女平等推進委員会等を設置していただいて、それらの校内研修、そのほか区独自の研究も進めていただいているところでございます。

○青木委員 そのガイドラインということについての趣旨が十分伝わらなかったのかもしれないませんが、どのような指導を具体的にどのようにしていくのか、それについての条件整備はどうしていくのかということも含めて、一つの指針になるものを、東京都の教育委員会の方で男女平等教育ということで全面展開をしたものは出せないのだろうか。これは親の理解を得るためにも大変必要なものだと思いますけれども、そのような考え方に立てないかどうかという点、教職員の皆さんの意識調査とガイドラインをつくっていくということを含めて、速やかに東京都のすべての教育現場で家庭科の男女共通の履修ができるような体制ができますように望みます。(以下略)

家族

と

家庭科

■酒井はるみ

高校教科書『家族』と近代家族の提示

民法改正を経て、家庭科の家族領域は、ようやくにして教育改革の第二段階に入り、「家」制度を否定して、民主主義にもとづく家族観が展開されることになった。⁴⁹年指導要領は民主主義の家族とは何かを明示したという点で、もともと「はつきりした立場で家族をとらえた時期」(六月号)であったし、また戦前の女学校の家族にかかわる内容(老人の世話・敬愛がほとんど)とは完全に断絶したという意味においてもそういえた。

⁴⁹年の高校指導要領のもとで四種類の高校生用家族の教科書が刊行されたのだが、^(注)ここでとりあげるのは、この指導要領の作成過程とほぼ軌を一にしながらかつくりだされていった最初の家族の教科書で、民法のうち親族法の改正に直接たずさわ

った著名な法学者中川善之助が執筆者の一人となっている、中川善之助、氏家壽子、稲葉ナミ著『家族』(49・7発行)である。この教科書は、家族領域を家族関係と表記し、「世代の家庭建設にあずかり、よい社会を営むに役立つ」という目的を持」って編集された。新しい家族を説明するために、家族法がくわしく紹介されており、本文全体のじつに四分の一を占めるという大きな特徴がある。ここで、家族はどのように提示されていたかをみることにしよう。

まず家族制度の導入部で興味深いのは、家族は時代とともに変ってきたと述べたくだりがあることである。「離婚時代、母系時代、父系時代をたどって現在の形になったのが『家の歩み』である」と記述している。天皇制と結びつき、「家は神代の時代から継承されてきたはずであるから、これは類例がないほど過激な「家」制度批判だと筆者は考える。

しばらく、本文中から抜粋しながら、民主主義の家族観をまとめてみよう。

「自由であり、本質的に平等である独立した個人が、結婚して家庭を営み、未成年又は未婚の子が、家庭の構成員に含まれ」、「夫婦は一体となつて家庭を営むもので、身分的の差別は少しもなく、協力して共同の生活を営む」。そして「家庭生活の基礎は夫婦関係である。夫婦関係の基礎は、お互いの愛情と尊敬にある」というのである。これらのセンテンスは、

独立した本質的に平等な男女が愛情と尊敬にもとづいて婚姻関係に入り、協力して共同生活を営む核家族が描定されている。当然のことながら父母の共同親権となり、それは未成年の子に対して持つ責任であつて、親が子の人権を犯すことのないように規定された。また「幼い子供を愛しはぐくむのは親であり、年老いた親をいたわり養うものは子である。これは人間自然の姿である」という形で親子間の扶養にふれ、「家」的な色あいを払拭している。また「思想、信仰、性格、趣味などの精神的の不調和は、愛情のない性生活しかないことである」と、言葉だけとはいえ性生活にもふれ、また離婚・再婚をとりあげ、家庭の争いを解決する機関として家庭裁判所の存在も紹介している。

このようにみると、民主主義の家族観・家庭観を家族法の紹介を通して浮彫りにしようと試みたらしいことがわかってくるのである。

ただし、家族法以外にも「アメリカでは：（中略）：夫には十分な収入を、妻には家事をじょうずに処理する技りようを望んでいる。女子も男子と同様に、社会的に活躍をしているアメリカにおいても、男子は生産に、女子は家事に重きをおいていることを知っている。これらはわが国の女子の反省すべきことである」と述べ、性別役割分業と男らしさ女らしさを重ねあわせて、変化を抑制する方向で考えさせている場

合もある。また新しい法による権利と義務の増加、特に女性にはこれまでほとんどなかったものが男並みに増加することに注意を払わせようとしたらしく「父母は、父であり母であると共に、社会に責任を持つ市民であり、国民である。一個人格としての権利と義務はさらに増すであろう」と認識を喚起して新しい家族に奥行を与えてもいる。各節の末尾には「研究事項」が付されており、そこでは自主的に資料を調べ、実態を知る、問題点を認識し、変えてゆくことを促す態度が強調されて、暗記に頼るのではなく、自分の力で考えさせよう、自主性を育てようとする（教育）姿勢が貫かれている。そこに新教育の列に連なる家庭科をみる思いがするのである。教科書『家族』において、家庭科でははじめて、近・現代社会において支配的な家族観である近代家族観（夫婦が平等で愛情によって結ばれ、性による役割分業が明確な家族観）が提示されたのである。

（注）中川善之助、氏家壽子、稲葉ナミ『家族』（中教）

中川善之助、氏家壽子、稲葉ナミ『家族Ⅰ』（中教）昭和二十五年より使用

教育文化研究会『家族Ⅰ』（教図）昭和二十六年より使用

日本女子大学家庭科研究会『一般家庭（家族）』昭和二十六年より使用

昭和二十六年より使用

昭和二十六年より使用

昭和二十六年より使用

親子論と心理学

暮らしの視点からの 再出発を



小沢 牧子

(カット・井田裕子)

●孤独から孤独へとめぐる軌道

いま多くのひとが、ばらばらに暮らしている。だからそこに心理学が入りこむのだろうか。それとも、心理学が入りこむゆえに、人はいよいよばらばらになってゆくのだろうか。

おそらくそれは、両方なのだろう。

多くの大人、子ども、若者たちが、それぞれの家や個室や殻にこもって、孤独と向きあっている。人びととつながりたというねがいを抱きながら、触れあうことをこわがり、わずらわしさを怖れて、身動きがとれずにすくんでいるかのようだ。私自身も、かつてはそうだったな、と思う。

ばらばらな個人のあいだに、とりあえずその隙間を埋める

●24時間生きられますか

かのように、心理学がさまざまな形で登場してくる。身近なものでは、週刊誌など雑誌にみる、ゲームとしての心理テスト。どうしたらいい人間関係がもてるか、あなたの性格・適性は、どうしたら恋人ができるか、あなたは○○タイプ……。人と人の関係の希薄さとそこからくる不安全感が、ゲームとしての心理テストを氾濫させている。不安全感を解消できるはずもないのだけれど、逆にそれゆえにこそ、そばに心理テストがあればいつもやってみる暮らしが日常化する。そしてこの種の心理テストが、生活のなかに親しく組みこまれていく。

もうすこしいかめしい心理学としては、心の悩みを解消するとするカウンセリングや、「ほんとうの自分」や「こだわりから自分を解放する」と誘いかける自己啓発セミナー、そしてこの両者の相乗りという感じの親業などがある。いずれも、自分を育て、人間関係のありかたをより円滑にするための知や体験、技術を提供している。それらはたしかに、人が孤独をさまよう果てに混乱や破局におちいることからの防波堤になっているのだろう。心理学的な知や技によって救われたと感じ考えている人びとは少なくない。それはたしかにひとつの現実だ。

しかし心理学をたずさえてさまよう人びとは、依然として

孤独だ。そもそも心理学が、「ひとりで強くなる」、「個人の力で乗りこえる」ことを目標に、その前提のもとに成立しているのだから、むしろ当然のことなのだ。それは「24時間働けますか」というあの、増強ドリック剤片手の孤独な企業マンの姿を、私に連想させる。

人がひとりで生きていくという事実はある。それを引き受けなくてはならないのは自明のことだ。しかし一方で、人はひとりでは生きていけないという事実もまたある。支え合う知恵、そのことで安らげる状況をつくり出す力がいかに大切なものであるかを、おなかの底から思いたい。私たちがいま力をつくしてふくらませなくてはならない課題は、そこにあるのではないだろうか。

●「親子」から「仲間たち」への道

親はなくても子は育つ、とはよく言ったものだ。親と子しかいない空間なら、子は親にしか頼れない。親は「よい親」を何があってもやらなければならない。閉ざされた親と子に、心理学は必然の知と技として求められるのだろう。しかし親が心理学片手にがんばっても子は救われない、と私は思う。

近所に住むなおちゃんとうちのちゃん姉妹のお母さんSさんは、美容師さんである。ふたりの子がごく小さいときに夫と離婚したSさんと私は仲よしだ。なおちゃんは小学

生、ようちゃんは保育園にいつている。ようちゃんは保育園が大好きで、閉店まぎわの美容院に、別れがたいともだちの男の子を連れこんできたりする。「保育園にあずけてかわいそう、お母さんといっしょにいる時間が少なくてふびんだ、という考え方ってあるでしょう。でも、子どもを見てみると、ともだちといっしょにいるのがどんなに楽しいかということがよくわかるのね。」「子どもに言わせたら、保育園にいかないで一日中お母さんとすごしている子ってかわいそう、って逆に言うんでしょうね」と、私は髪をセットしてもらいながらSさんと話しあう。

昨夜、学校へいけなくて苦しんでいる中学生きみえちゃんのお母さんと電話で長ばなしをする。きみえちゃんの友達は何人かで話しあい、子どもたちの知恵を集めて、イチかバチかをかけて思いきってふみこんできている。その友達の勇気とやさしさに応えて、きみえちゃん！ 学校より何より、そのことだけがいま大事だよ、と私たち大人は思いを伝え、あとは言葉なく見守り、祈っているしかないんだね、と語りあう。子どもは子どもの世界に返そう、大人は大人の仲間をひろげ、子どもの仲間との暮らしに加担したい、とねがう。そんな暮らしかたのイメージや実像のなかで、心理学は要るのか生き残るのか、それとも忘れてよいものになるのか。その問いはまだしばらく、私の中で続きそうな気配である。

海の輝く日

中間ということ

佐藤 通雅

(カットも)



ベン・ジョンソン。驚異の世界新記録、九秒七九。

ソウル五輪でのこと。一線に並ぶ。スタート。黒い弾丸の男が走る、走る、その迫力。カール・ルイスを振り切り、ついにゴール。この場面を記憶されている方も多いでしょう。

私はビデオを巻きもどすようにして、何回も頭に思い浮かべ、弾丸と化した肉体の意味を考えてきました。十秒の壁を破ることは長年の夢でした。一八九六年の五輪では優勝記録が一二秒〇です。一一秒になったのはその四年後、一〇秒台になるのはさらに四年後です。もうここが限界だろうと思われていたのに、とうとう一〇秒の壁を破ったのです。

ところで衝撃的なニュースが流れました。ドーピングテス

トの結果、禁止薬物が検出され、金メダルが剥奪されたのです。アナポリック・ステロイドという聞き慣れない語をこのとき初めて知りました。筋肉増強剤です。衝撃的ニュースではありました。しかし半分ほどは「やっぱりそうだったか」と納得するところもあったのです。おそらくベン・ジョンソンとその周辺の人々は禁止薬物を使っても勝ちたかったのでしょう。使用によって命が縮まろうと、勝利の方が欲しかったのでしょう。薬物を使う以前に、ジョンソンはすでに有能な選手でした。が、人間の壁を破る超人間となるためには、人造人間になるほかなかったのです。ベン・ジョンソンの姿はスポーツの極北だと私には思われます。いうまでもなく、禁止されていない薬物、あるいはストレスの薬物を使うことはすでに〈常識〉です。最初の頃は体を鍛えたり、練習方法を考案したりしたでしょう。次に道具の改良に走ったことでしょう。そして最後に残るのは肉体そのものの改造です。これが極北でなくてなんでしょう。禁止薬物を使ったというだけで批判は出来ない、まして葬ることも出来ない。なぜならいまのスポーツはこの極北に向かって、子どもの頃からシステム化されているからです。

スポーツ少年団といえど聞こえはいい。しかしその実態がどんなに凄まじいものか、すこしでも関わったことのある人なら想像が付くでしょう。バレーボール、サッカー、体操、

野球などなど、登校前にまず朝練習、放課後は暗くなるまでの猛練習。土、日曜日ありません。子どもの体力を無視しますから、当然故障が起きます。しかしそれを克服する子でなければ長続きしません。弱い子は無用なのです。こうして生き残った子どもとチームが勝利を得、勝ち進み、全国大会へ、甲子園大会へ、オリンピックへと進むのです。その頂点を目指してシステム化されたのが現代のスポーツ界だといつてまちがいはありません。

ところで私は水泳部の顧問をやっています。水泳の世界もひどい矛盾を抱えています。スイミングスクールに通わない生徒は、ほとんど上位入賞が出来ないのです。しかしスクールに入れば、毎晩九時過ぎまで練習しなければなりません。それ以外の生徒はどうなるのでしょうか。初めから勝ち負けを諦めますから、部活も遊びになりがちです。事件事故を起こすことも少なくありません。スイミング組と非スイミング組の調和をどう取るかが心労の種です。そこで私は常々「勝利を目指して頑張るのは一つのやりかたにすぎない、自分のペースで体を鍛えることも大事なんだ」と言うのです。でも今のスポーツ界ではこういう言い草は通用しません。負けることは、永久に脚光を浴びないことに等しいのです。

これはスポーツだけでなく、どんな場面にも共通するように思われます。受験競争の渦中にある学校にもいえます。一

流から四流まで細分化され、高度技術を駆使したシステムの導入によっていよいよ苛烈さは増します。そこにいやおうなく組み込まれるのが私たちです。つまり両者は本質的に同じになってしまったのです。その中でおいてけぼりになった人々はこういうことになるのでしょうか。行き場が無くなった若者達は自分の生をどう紡ぎ、脚光を浴びることのない自分をどう価値付けていくのでしょうか。

私の最大の関心事はこれです。若者よりも何よりも自分身の生き方として、私はいつしか「教師を続けるのなら、ただの教師であることを貫こう」と思うようになりました。さまざまな問題に翻弄され、少しも美しい解答を口にできず、泥にまみれているのが普通の教師である以上、それを避けることはすまいと。この行き場のない所から何を見ることができるか、何を捕らえることができるか、それに賭けてみようと思うようになったわけです。でも本当はこれは緊張っていうほどのことではありません。ただ当たり前にしていこうというだけです。だのについつい緊張した言い方になるのは、こういう中間地帯への眼差しが茫洋となってしまうからです。こんなにもこんなにも豊かなものがいっぱいある地帯だっていうのに。

私の連載は今回で終わりです。皆様のご健闘をお祈りします。

広がるネットワーク

「こんなネットワークが
広がるネットワーク
なのです」

● 平井 雷太

広がるネットワークの連載も今回が最終回となりました。この連載のおかげで、さまざまな方と出会うチャンスがあり、私にとってはかなり刺激的な体験となりました。最後に、このインタビュ어가なぜ私にとって「広がるネットワーク」であったのかについて触れたいと思います。

私にとって現在の興味は、「広げる」ネットワークではなく、「広がる」ネットワークです。

もし私が「自分の考え」に執着し、その考えを絶対化していれば、その考えを人に押しつけ説得したくなります。そんな状態で論争しても、勝つか負けるかの結果にしかありません。ですから、「自分が正しい」と思っている人と論争しても無駄。そんな不毛の論争でエネルギーを使う気はなかったのです。つまり、人と会って話をする時、「自分の考え」さえ棚上げにして、話し合いの中で一緒に何かが確認できないかとそんな姿勢でインタビュ어를続けました。ですから、人と出会う時に特に気をつけていたことは、「啓蒙しない」「拡大しない」「仲間を増やさない」ということだったのです。「自分の考えさえ棚上げにして」というと、自分の考えを出さずに、自分を押し殺して我慢してと連想されるかもしれませんが。しかし、現実とは違いました。どちらかと言えば、自分と違う意見に対して、質問する中で一体どこが違うのかとその「違い」の発見を楽しんでいたのです。ですから、相手と考えが違えば違うほど、刺激が大きく私が鍛えられる、勉強になるというわけです。

私がこんな発想をするようになったのは、三年前になりゆきで行ったインタビュ어의体験が大きいです。私が誰に会うかを自分で決めずに、人から人への紹介で、四月から十月までの六カ月間に三七六人の方から一言メッセージをもらいました。ほぼ一日に二人のペースでした。おかげで、私が

苦手な人、嫌いだと思っていた人、避けたいと思っていた人たちとも出会うことができました。そして、そんな方々を私がいかに先入観で見ていたかを体験する結果になったのです。

この体験がきっかけになって、私がインタビュールした人たちの希望で、すぺーすネットワークという会合が生まれました。この会はその後、「中心がない」「目的がない」「主義主張がない」会として、三年間の間に六十回近くの会合を重ねていくのですが、その中身は毎月の担当者が自分の好きな人を連れてくるという会でした。

その時私が決めたことは、どんなテーマ、どんな講師の時でも必ず出席する、ということ。その結果、この会合が私にとって自分の好みでない人と出会う貴重な場になっていききました。

自分で出る会合を決め、自分でテーマを選べば、自分の世界は狭くなっていく一方です。自分の好みでない出会いを重ねていくことが、私の固定観念を外していく作用をしてくれる。そのことに気がついた時、義務教育の小学校や中学校の果たしている役割の貴重さが見えてきました。「学びたくないことを学びたくない人と学べることにこそ、公教育のメリットがあるように思ったのです。好きな人も嫌いな人も集う場だからこそ、そこで問題が起こる。問題が起こるからこそ、そこが刺激的な空間になり、問題解決能力も育つと考え

るようになりました。

そう考えると、似た者同士が集まった居心地のいい空間、問題の起きない空間は最も刺激の少ない空間になってしまいます。そんな場所では、一人ひとりの閉じた系（システム）が開いていきにくいことに気がつきました。

すぺーすネットワークの会合は、その後「ぐうたら講座」という連続講座にも発展しました。「21世紀の教育を考える時、どうしてもこの人の話を聞いておきたいという人の名前を挙げていこう。その人についての説明を聞いて、是非その人の話を聞いてみたいという人が提案者以外にいれば、交渉を始めよう」との呼びかけで、集まった十六人で十人の講師を決めました。その中に一般によく知られている教育関係者は一人もいませんでした。こうして十回の連続講座が生まれ、「自分の関心以外の人の話を聞く」ということをはからずも参加者が始めることになったのです。

話をインタビュールに戻しますが、私が「広がるネットワーク」を引き受けた時に決めたことは「気になったことを大事にする」「なりゆきにまかせる（＝自分で決めない）」「好き嫌いで人を選ばない」の三点でした。

その結果、思わぬ展開が生まれました。八月号で中嶋里美さんにインタビュールしたのは、「交流」一八六号（増野潔さん

発行)に掲載されていた中嶋さんの原稿がきっかけでした。以前から、中嶋さんに対しては「苦手」という先入観があった近寄りがたかったのですが、なぜか気がついた時には中嶋さんに電話をしていたのです。

以前お会いした折り、私の作ったカレーライスを御馳走すると約束していたことが気になっての電話だったのですが、話を伺っているうちにもっと話を聞きたくなくなって、インタビュを申し込んでいました。インタビュを終え、あまりに柔らかな雰囲気の中嶋さんに驚いて、相も変わらず私がいかに先入観で人を見ていたかを思い知らされたのです。この時にはその後の展開をまるで予測できなかったのですが、このインタビュは結果として「なまず対談」という講座を生み出すことになりました。

今年の夏のフォーラム(89年八月 於熊本)は、日程的に余裕がなく、ちよつと参加は無理かな、と思っていたのです。しかし、インタビュがきっかけで中嶋さんの分科会に協力することになり、熊本まで行くことになりました。広島を通るので、以前から気になっていた梶川泰司氏(シナジエティック研究所「在広島」所長・正多面体を折り畳むと正四面体になるという法則を発見した数学者)を訪ねたのです。この時の出会いが、その後の梶川さんと甲野善紀さん(武術家)との異色対談につながります。

甲野さんとのかわわりは、彼がぐうたら講座の六月の講師として来て以来です。私とはまるで分野が異なるにもかかわらず、彼が術を身につけてきた過程に共通なものを感じるものが多く、これほどまでに私との近さを実感する人はいませんでした。彼と出会うためにこのすべすべネットワークの会合を続けてきたような気さえたのです。彼との出会いに運命的なものを感じました。

この甲野氏と梶川氏との対談は途切れることなく五時間及以上びました。その話に立ち会い、一方的に講師の話を聞くのではなく、お互いが言葉を引き出し合う対談の面白さを実感したのです。聞き手が存在することで、こんなにも話にふくらみが出てくる。第二期ぐうたら講座の企画中に「これから対談形式でいこう」という話がまとまり、次の企画として「なまず対談」(地を揺るがすような体験という意味)が決まったのでした。第一回富田富士也(まわり道の会)vs平井、第二回花田美奈子(ハナダアート)vs甲野、第三回工藤定次(タメ塾)vs甲野、第四回劉宏軍(作曲家)vs友部、第五回上野千鶴子(社会学者)vs平井、第六回……。「何も決めずになりゆきにまかせていると、明日何が起こるかわからない。だからおもしろい」——この連載を通じて、ますますその思いを強くしたのです。

(10) 線路は続くよどこまでも。

フェミニズムが視野に入って来た当時、違和感
はなかった。「そうねそうね」ただそれだけ。
でもそれからフェミニストと知り合うと、異人の
ように見られたり、警戒されたりした。無理解や
反感を抱く男は批判対象としてOKだけど、平気
な男は最も度し難いのだ。一番怪しいのだから。
で、お前はなんだ、となる。それも理解してしま
うし。そこで、謙虚な(どこが)私は考える。

両親の関係はね、典型的な高度成長日本型だっ
たの。父親は仕事人間で、家庭を妻に任せて(妻
だってしっかり働いていたにもかかわらず)付き
合とかで酒吞んで夜遅くに帰って来る。私は子ど
も時代、父親の顔は二週間に一度位しか見たこと
がなかった。で、母親は子どもの私に言っていた。
「騙された。あの人は結婚前労働組合の演説で『労
働者の勝利』と『男女平等』を叫んでいたから惚
れたのに」って。ええ大人が「騙された」もない
もんだと思うけど。尤も、そのくせ父親が退職
してからは結構仲良かったりして、円熟した夫婦
のことは未熟な私にはよう分かりませんがね。

そんな夫婦関係にある女がどうしたかと言うと

あっちゃ ひっちゃ フッフ

田中正彦

空虚を息子で埋めた。私です。ね。ようある話です。
やあやあ、息子は結構大変でした。ね。へたに咳
の一つでもすれば大病ってことになるし。

私は、その当時、本当に母親がうつつとうしかっ
た。しんどかった。ええかげんにして欲しかった。
今は母親なりの理由を理解出来たりするけど、子
ども時代はやっぱりね。しっかりと憎んだりして。

私は確かに男やけども、ヨ一するに、男性社会
で空虚を抱いた女の心の中の抑圧感が抑圧した子
どもなの。男性社会の間接的被害者。せやから、
私はフェミニズムに違和感を感じなかったし、多
少は触れてもいい権利と義務があると思うのね。

母子密着がフェミニズムに共感してしまう男を
生み出すのは皮肉なことやけど、確率は低いわ
よ。生産効率は絶対悪いよ。大多数は密着に満足
して、大人になったら母親代わりの妻を深すのや
ね。あなたの周りにいない？ ほら、そこ！

だいち子ども時代の経験から言えば、子どもは
えら迷惑なんやよ。出来るだけ相手を傷付けない
で(随分傷付けたヨ一な気はするけど)愛情から
逃れるのはホント大変よ。おかげですっかりひ
ねこびてしまった。フッフ。

私は魔女人形のコレクションを楽しんでいて、もう30体以上に及ぶ。それは、キチンウィッチとかクライネヘクセとかとよばれる人形で、欧米を中心に世界各地にある。たいていは箒にのって飛んでいる形だが、箒をかまえているものもあるし、ふりまわしているものもある。北米には、磁石で冷蔵庫にはりつける形の顔だけのものもある。顔は鉤鼻金壺眼のものもあるが、上品で愛らしい老女もあり、中年のも若いのも子どもや赤ちゃんの魔女もいる。それらはいわば西洋流荒神様で、飾っておくと調理の失敗や食品のいたみを防ぎ、愛と幸福をもたらすものとされている。

箒は家事と労役と隷従や抑圧のシンボルで、それを持たされてキチンに閉じこめられていた女性の地位の象徴でもある。閉ざされた部屋の女たちは、どんなにか、脱出と解放を夢みたことだろうか。変身願望と想像力の飛翔が、抑圧のシンボルを解放の手段に変えた。抑圧者の眼をしのぶ闇夜の空に、箒にのって飛びだし飛びまわろうという幻想が生まれた。ちょうど現代日本の子どもたちが、掃除当番の短い箒をバットやスティックや刀などの遊具に変えるのと同じように。



“Power to the Imagination.”

■村田直文

欲求不満の解消が幻想の世界にとどまる限り、それは単なるお遊びにすぎない。しかし、幻想と想像力とはしばしば現実変革の動機となる。あらゆる変革の原動力は、人々の胸にあふれた幻想の力であった。「理性の王国」は今なお夢にしかすぎないが、その幻想が啓蒙主義とフランス革命の力となった。「正義と愛のコンミュン」の夢もまた、コンミュニズムと社会主義運動の力になった。だからこそ、解放を夢みる女たちは、異端とされ、魔女とよばれて弾圧された。その魔女たちこそ、解放の先覚者だったのである。魔女人形はその先覚者を顕彰し、その心をうけついでいこうとする精神をあらわしている。

現代社会の中心課題は、多種多様のマイノリティの人権保障である。それらの人々に住みよい社会が、すべての人々に住みよい社会となる。そして、マイノリティの人権運動の最も力強い中心部隊は、自覚をもつ女たちであろう。私にとって、魔女人形はそのたたかいの旗印でもある。

「想像力に力を」とは、一九六八年、パリ五月革命の合言葉だった。それから幾星霜、東欧民主化のうねりも、その五月革命から始まった。

ひよっこ幼児クラブを始めた時、「幼稚園に入れないで幼児教育をしてみよう」と考えました。それは、親子共々仲間と一緒に子どもの幼児期を楽しみたいという期待と同時に、あまりに学校化・形骸化した幼稚園の教育内容に対する失望もあり、行くのが当然であるかのような風潮に対する抵抗でもありました。そんな私達の思いに対し、「幼稚園にも入れずに落ちこぼれにならないの?」「大勢の子ども達と遊ばせなくていいの。集団に入れないと社会性が育たないよ」「専門家が教育するわけではないでしょ。母親達の自己満足ね」等々、同年代の母親達から数多くの心配やら批判・非難を受けてきました。そんな声の中でも「集団」や「社会性」という言葉は、ひよっこに集まる母親達の不安でもありました。ひよっこの活動に精力を使い、子どもの成長を確かめ、自主的に会を運営する楽しみに浸る仲間にも幼稚園に対する信奉はゆるぎ難く、拭いきれない意識となっていたのです。

友達となかなか遊ぼうとしない子の母親は、子どもが大きくなるにつれ、幼稚園への魅力にひかれ始めました。ひよっこ幼児クラブは少人数で、自分の子どもと同年齢の子どもが

幼児クラブを始めてみたら

⑤「大きな集団・小さな集団」



●佐多和子

いないから友達ができないのではないかしら。幼稚園のように同年齢の大集団に入ったら、友達と遊べるようになるのではないかと悩みはじめたのです。そして、「集団」という言葉の虜となって幼稚園に入れたものの、その点では子どもは少しも変わらず、一人遊びを続けました。そう、その子に友達ができないのは、まわりの子ども達の数の問題でも、年齢の問題でも性別の問題でもなく、人とのかわりが少ない子だったからであり、その主な原因は他のことにあったのです。もとより、ひよっこだって小さいながら集団であり、小さな集団ゆえに子ども達は互いの能力も限界もよく知りつくし、助けあうてかわりを深めているのです。そういうかわりこそを、私達は「社会性」と考えています。

「何ができるか」という表面的な力ではなく、子ども自身が試し、失敗する過程や私達の活動も幼稚園という大きな存在を越えることはなかなかできません。そして、こんなささいな常識に抵抗することがこんなに難しいのかとさえ思います。それでもまあ、ちょっとずつ頑張ろうか!

(カット・加藤友子)

出る釘は打たれる

湯沢 静江

KNOW
HOW
共学
家庭科

一九九四年の教育課程改訂を機に、全国の高校で「家庭一般」が共学になれば、家庭科の先生を大幅に増加しないといけないことは、私の大ざっぱな頭で考えてもわかる。そのような試算を一九七〇年ごろ、県内の高校生の数や学級数から出してみた。よしんば二単位ですべての生徒に「家庭一般」を課しても、先生は不足する勘定になった。「共学を主張すれば、自分たちの首をしめることになる」と共学批判をした人々は、何を根拠にそのような発言をしたのか、いまだにわからない。

しかしその時にも私は、望ましい教育課程を作るために、当該教科の先生方の過不足が生じたとしても、人間の都合で、教育課程の内容がダウンするようなことはあってはならないと思っていた。教職員の身分保障は別の場で（例えば組合など）行われるものであって、教育論議のなかで、人事をいっしょくたにするべきものではないと考えていた。

また、「家庭一般」を共学にしたら、選択科目の選択者が減るだろうという反対派の説も、実際には選択者増という結果になった。これは高遠高校だけでなく、実際に共学を実施した学校はみな同じ結果であった。手をこまねいて頭の中だけで考えていることの愚かしさのようなものを、この時感じとった。

一部のマスコミや、共学に意欲のある人たちには話題にされたり、歓迎されることがあったが、「はねっ返り」「組合運動のお先棒かつぎ」「煮ても焼いても食えない人物」とさんざん悪口をたたかれて、共学推進にエネルギーを燃やしているとは言いながら、時には批判勢力の抵抗にくたびれることもあった。だが、その抵抗をはね返す力を与えてくれたのは、共学で学んでいる生徒たちであった。学んでいる生徒たちは生き生きとやっているではないか。それで十分であった。

人につきあうとき、人の噂で人間を評価することをやめたと思うたのもこの頃のことであった。まして教職にある者が生徒を見る時に、不確かな噂で「あの子は〇〇なのよ」ときめこむことは絶対にしてはならないということを、自らの体験で知った。これは共学にしたことによって、授業以外で学んだことの大きな収穫であった。

サン タ チョン
山 茶 丁

はじめて丁茶山の存在を知ったとき、私は少し興奮した。高校時代「社研」で「空想的社会主義」のサンシモン、フーリエ、オーウェンらの名を教わったときの熱い思いが甦った。理想社会を構想した社会主義の先駆者である。これらの名は今、世界史を学ぶ者には殆ど常識となっている。だがその世界史を教えていた私は、お隣の朝鮮にもこれらの人びとと同じような、いやそれを超えるともいえる思想家がいたことを教えることはなかったのだった。それは、実

学者とよばれる一群の人びとである。その最高峰に丁茶山がいた。実学者とは、もはや現実から遊離した儒学にあきたらず、実際に役立つ学問をと追究した人びとのことである。

丁茶山は十八世紀後半、秀才の誉高い四人兄弟の末子に生まれた。二十代で科擧に合格、学問好きな王、正祖に目をかけられ、新進気鋭の若手官僚として世に出る。

彼は学問や政策立案にすぐれていただけでなく、当時中国を通じて朝鮮に入りはじめていた洋学にもくわしかった。西洋人の描いた図をもとに滑車、起重機をつくり、水原の修築工事に役立てたことは有名である。しかし一八〇一年正祖が死ぬと、政争がらみのキリ

私の朝鮮史

岡百合子

スト教大弾圧が起る。信者だった茶山の三兄は杖殺、次兄は流刑、茶山も全羅道に流された。彼はそこで十八年の流罪生活を送ることになる。だがこの暮しの中で、彼ははじめて農民の苦しさを体験、実感したのだった。もともと民衆へのまなざしをもっていた茶山ではあったが、自らがどん底の境遇に落ちたとき、民衆を救う政治をこそ、という思いはとぎすまされていったのだ。彼は分析した。なぜ不平等が存在するのか。統治者とは何か。その結果、農本主義の彼が得た一つの結論は「閭田制」という土地制度の構想であった。閭田制とは、三十戸程の村である閭を単位として土地を共同所有し共同耕作する。そして労働量を規準に収穫物を分配する。という制度だ。働く者だけが土地を

所有する権利がある、と確信したのだった。

彼が流刑をとかれたのは五十七歳のときであった。故郷に帰り研究をつづけ、七十七歳で死ぬまで彼は、五百巻に及ぶ膨大な著作をなしとげる。政治経済から軍事、医学から地歴にも及ぶその該博な知識にも驚かされるが、より感動的なのは、丁茶山が終生民衆へのまなざしをもちつづけたことである。

食べもの文化史

酒

石川 尚子

酒は、百薬の長と持ちあげられたり、気がい水と恐れられたり、効罪さまざまであるが、人が居れば酒があると云われるほど、その時代、その土地独特なものが創り出されて、くらしの文化に大きな影響を与え続けてきている。

わが国の食文化をみても、「めし・みそ汁・つけもの・さかな」そして「酒」という構成が、一般的なパターンとなっており、とくにハレの日の献立に酒は欠かせない。

酒にまつわる物語りのなかでも、小さい頃に聞いたヤマタノオロチのお話は、子ども心に印象が深かった。近藤弘氏によると「日本人の味覚」中公新書、古事記に記されたこの話は、アルコールを持たなかったヤマタノオロチ一族が、天孫族のアルコール文化に懐柔されて滅んだのだという。この時代すでに酒があったということと同時に、当時の人びとが酒の持つふしぎな力をどれほど恐れ、また、高く評価していたかがうかがえる。

猿酒さるざけのいいつたえのように、穀物や果実の貯蔵中、自然発酵してできた酒類は、かなり古い時代から存在したであろう

が、日本酒のもととなった麴を用いた酒の技術は、奈良時代の頃、大陸から来た人びとによってもたらされたといわれている。万葉歌人の大伴旅人は数多くの酒を讃える歌を詠み、山上憶良は、堅塩かたしほをなめつつ糟湯酒糟湯酒を飲むくらしの貧しさを歌っているが、古今東西いろいろな酒の飲み方があったのだろう。第二次世界大戦中に工業用のメチルアルコールを飲んで多数の人が亡くなった出来事など、最も悲惨な例である。

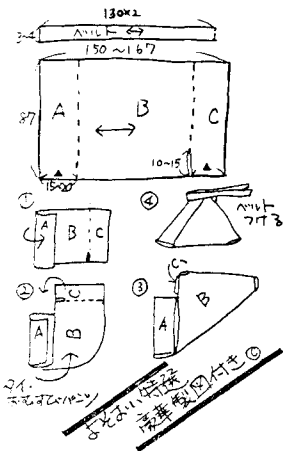
また酒には、飲みものとしてだけではなく、調味料としての役割りもあった。平安貴族の饗応献立には、塩・醬・酢とともに酒も調味料として登場している。これらは、味をよくする効果だけではなく、薬効・栄養・消毒・殺菌などの効果をも期待して用いられたのであろう。さらに、酒熬よほり・酒浸まぶせのように、酒を用いた調理法も各種料理書にみられ、酒の利用法が、ますます多様になっていることが示されている。

ともあれ、日本料理の発達には、日本酒ぬきには考えられない。この酒を、ただの憂さ晴らしに用いるのではなく、何千年もかけて醸し出してきた文化としてとらえたいものである。

文と絵
内山裕子
よいおい

出会いはいつも突然で必然、トンカラ機織りの経糸と横糸の様です。ある日「ねえ面白いエスニックパンツがあるよ」と地上から、お客様がいらした。(お店は地下にあります) 紐で結ぶモンペパンツを愛用して下さってる方です。どれどれドレミと見てみると、なる程面白い。どこが面白いかって、一見パンツだかシャツだか不明の、たっぷりした布のフォルム、どう着るのだろうと考えると、頭がハイになりそんな訳の分らない所も、妙にいい。ウーン、すぐれもののパンツに違いなないノ。さてこのエスニックパンツ、タイとインドからはるばる来しました。でも日本の紐型モンペと、同じアジアの仲の良い姉妹の様に似ています。ボタンもフアスナーも使わず、巻いて、結んで、着るのです。たっぷりした薄手の布は、暑い時もサラサラ気持ち良く、坐ったり立ったり動きもスムーズ。そして布の作り出すドレープは、平面から想像もできないシルエットの大変身になります。これが「一枚の布」の魅力です。日本の反物の幅も広幅だったから、ドレープを使ったりとかまた違った造形の服が生まれ、着物やモンペの歴史も変っていたかもしれないですね。「家庭科展開事例集」の世界の衣服のページを見てみると、タイのパーライとかよく似たエスニックパンツが紹介されて

います。インドのサンジェさんにお聞きしたら、インドのパンツの名前はサルワァール、今は主にインドシルクで作って、パーティーの時着るそうです。インドでも若い人達は、やはりジーンズやコップンが多いとの事です。パンジャビ・スタイルやサルワァールも人気があるそうです。インドシルクで作ったこれらの服は、薄く軽くオブラートみたい、くるくる巻くと小さなリングをするつと通るそうで、この羽衣的皮膚感覚とパンパス方式の着かたはユニークです。同じ絹でもタイシルクは、ざっくりと紬の味わいです。タイのパンツの展開図みて下さい。すぐれものです。無駄になる布がほとんどない。一枚の布をくるつと巻きこみながら、おむすび型に折っていきます。そしてB面はバイヤスになるので、同じ身頃でAとBと違った質感が楽しめるという、単純かつ複雑なパンツです。縫う所も少なく、手縫いでもいける。おこたに暖まりながらちくちく縫えます。冬はぬくもりのある綿布で、ほうじ茶の似あいそうな、アジアのパンツとの出会いが作りだせます。



コンピューターと暮らし

「コンピューター」という箱の中身をなんとかして覗きたいと必死なのに、結局は周辺のゴミを拾ったり外側の模様を云々することで終わった一年だった。

素人ではあっても間違った表現をしないようにと自戒したが失敗はあった。鶴沢昌和著『コンピューターの知識』（日経新聞社刊）の中に「コンピューターのデータ表記が二進であるというのは本来的な誤りであってむしろ二元的とか二値つまりデジタルであるというべき」と書いてあったが、十月号の二進法に関する文章の一部は表現を改める必要があると反省している。

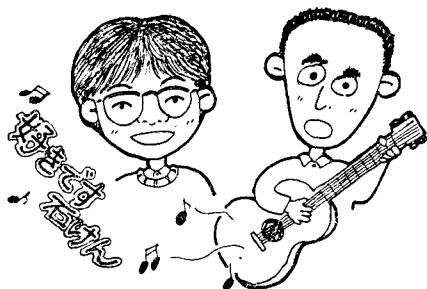
人間が何人もかかって長時間費やさなければできない計算をより効率的に短時間に済ませたいというニーズから生まれた電子計算機。その時点では量的な差はあれ一般人と機械の能力とは質的には対等であった。しかしコンピューターの仕事が単なる演算であることに満足できない人類は次の段階として「エキスパートシステム」を開発する。機械にインプットされるデータは単なる数値ではなく、それぞれの分野のエキスパート即ち専門家の知識がKE (knowledge engineer) と呼ばれる技術者の手によって機械に打ちこまれる。人々はコンピューターを通じて間接的に専門家の知識を利用した相談や診断を受けることになるが、もはやコ

ンピューターと対等の能力は持っていない。現在私達が暮らしのさまざまな分野で恩恵を受けているのは機械的に作られたAIつまり人工知能や、論理的な手法を用いたプログラムを内蔵する後者のコンピューターである。消費者対応の理念や技術で先行する企業は「エキスパートシステム」を有効に機能させている場合が多い。90年代の注目の的は人間の脳のニューロン（神経細胞）の働きに近づこうとするニューロコンピューターとシリコンやセラミックスなどの無機質ではなく蛋白質などの有機物を使用するバイオコンピューターだそうだ。蚤ほどの大きさしかないいわば人工の細胞が人間と同じように「見たり、聞いたり、感じたり」した多元的な情報をとりこみ自ら学び判断して答えを出すことも可能になるという。生命科学の進歩が人間の生理機能を限りなく解きあかすのと平行してコンピューターの研究もまた驚く程の高みに達するのである。アイラ・レヴィンは小説「ブラジルから来た少年」でバイオ技術で育つヒットラーのコピーをフィクションとして描いたが、死を免れることの出来ない人類が、修理可能なロボットに征服される物語が夢でなくなるのは怖ろしい。善き魂のコンピューターをこれから大切にしていこう。

(完)

その10

碧海西葵 (あおみ ゆき)



これからも
「好きです石けん」と
口ずさみながら。
心ときめかせて。

よしだあきひろ

(イラスト 十倉ゆかり)

連絡先：〒665 兵庫県宝塚市亀井町5-8

石けんコンサート通信 <10>

家庭科室の戸をあけると

子どもたちがしゃべっていて

子どもたちはにぎやかに

そんな中から暮らしははじまり

そんな中で季節はめぐっていくんだね

家庭科室に春はおとずれ

家庭科室に夏はめぐり

家庭科室に秋はふきぬけ

家庭科室に冬はしんと

(詩 吉田明弘 曲 山本謙吉)

Weの会の河上さんの中学校に(なんと

女子校なのです)、家庭科の教育実習

に行ってきました。男性の家庭科の先生

なると、子どもたちは驚いていたけれ

ど、そのうちに慣れてきて「男の人だっ

ておかしくないよ」とみんな口々に言っ

てくれるのでうれしくなってしまうて

「いろんな生きかたがあるし自由にやり

たいね」とメッセージしておいたのでし

た。でもみんなかわいくて「ねえ石けん

の歌うたってよ」とリクエストがあつた

りして「僕はもともとと愛をこめて」

と思わず口ずさんでしまいました。

米国ワシントン州にレーベンワースと

いう美しい小さな町があります。かつて

この町は不況により、人々はやる気さえ

も失っていたのですが、シアトルから移

住してきた若者二人がはじめたレストラ

ンがきっかけとなって、町は息を吹き返

すのです。町の人々はこの若者たちから

やればできるという勇気を与えられたの

です。そして皆が連帯し、知恵を出し合

い、自分たちの手で町づくりをすすめま

した。今では年間何十万人もの人が訪れ

る観光の町となったと言います。

こんな内容のビデオを観ました。そし

て僕はそこに、家庭科の可能性をだぶら

せたいと思うのです。いまの学校、受験

のための勉強が中心となっていたり、校

則が厳しくて子どもたちの権利が認めら

れなかったり。そんな中であって家庭科

は、シアトルからの二人の移住者のよう

に、子どもたちに勇気と希望を与え、子

どもたち自身が未来を切り開いてける

ような、そんな科目としてあることがで

きるのではないかと。そんな家庭科の可

能性に心ときめかせて、この原稿を終わ

りにしたいと思います。ほんとうに一年

間ありがとうございます。これからも、

「好きです石けん」と口ずさみながら。

波

学校の中の性差別

半田たつ子

十二月十二日の朝日新聞、テレビ欄の「はがき通信」に次の意見を見付けた（要旨）。

「モーニングワイド（1日、NHK）で、男女必修になる家庭科の問題が取上げられていた。『二十世紀には男子にも衣食住をになえるように』と検討委員会を発足させた学校も紹介されたが、ある男子の進学校の教頭は、『家庭科を学んで受験にどんな効果があるか』と発言。受験は一時的なものだが、生活を営むことは毎日のことであり一生の問題だ。現在の家庭崩壊や地球汚染の問題が、こうした狭い視野の教育から起きているのではないだろうか。私も男子校に勤めているが、日々の授業で家庭科の重要性を話している」。

筆者は所沢市の高校教師、牧野敦夫氏。「ヤツタネ！」思わず顔がほころぶ。牧野氏は中嶋里美氏のパートナーだ。さすが！一般論として言えば、男子校の先生がこういう

声を挙げる所まで、やっと来たのだ。

この番組は、私も見た。実業高校の校長が、これからは男女共に家庭科を学ばなければ、時代に対応していけないと話したのに対し、有名進学校では、高校教育を受験学力をつけるためと信じていた。同校の校長が、教育課程審議会の委員だった時「家庭科の男女共修をすすめる会」のメンバーとして、訪ねたことがある。一時間ほど、代わる代わる「何故男子にも家庭科が必要か」を話した。校長は「ヨシ、分かった。あんたたちが一時間しやべった内容を、私は全校生徒に十五分で分らせることができる。家庭科をやらせる必要はない」と言った。この校長は、耳で聞いて、頭で分かれば、教育できたと思っている。学校が積極的に性差別の教育をしているとは、チラとも思わないのだろう。

「家庭科の男女共修をすすめる会」では、こ

の秋、全国の男子校が家庭科の必修にどう対応しようとしているかを知るために、アンケートを行い、四割もの回答があった。

賛成意見は * 家庭責任の重要性が再認識され、大変結構 * これからの時代に対応したすばらしい改革 * 男女平等の大きな一歩 * 知識の伝達にとどめないで、日常生活の意識改革に結実の努力を……などであった。

反対意見は少ないが、* 現在の時間の減少を来たす * 大学受験のため、実施しないでしょう * 家庭科は学校でやるべき科目ではない * 必修にして学ばせる内容は何も無い * である。「どちらとも言えない」の意見と合わせると、大学受験のための教育に役立たない、のほか、家庭科への無理解、施設設備や教員の確保等への困惑が目立つ。東京都議会厚生文教委員会で、都教委が教師の人員も、施設設備も整えると答弁したのは耳よりのニュースだ（62頁参照）。有名進学校といえども、新しい時代の息吹きを取入れない限り、時代後れになることは目に見えている。

九年目のWeのテーマを決め、テーマに即した家庭科の実践で書いてみたいものは？とお尋ねしたところ、最も多くの方が挙げられたのが「性役割の固定化は揺らいだか」であ

った。ここにも新しい動きがある。学校の中の性差別の一角、男女の性役割や、男らしさ・女らしさの神話を、教育を通して教え込もうとした歴史は、砕かれようとしている。

しかし、性役割を強制する教育が力を失っても、学校の中の性差別は消えない。一九八九年の流行語となったセクシユアル・ハラスメントを学校の中から払拭しないかぎり。

宮淑子氏は、西船橋駅転落致死事件、D印刷会社損害賠償請求事件、山形交通解雇無効確認事件、福岡損害賠償請求事件と、私たちの記憶に新しい事件を精力的に取材し『セクシユアル・ハラスメント』（教育史料出版会）を書いた。

『性的なからかい、ボディタッチ、女ゆえに受ける中傷と差別、力関係をタテにした性の強要のかずかず。『言われるうちが花だよ』『ほんの冗談さ、ヒステリックだね』と居直られ、怒りも悔しさも胸にしまいこんできた女たち。けれど、もう泣き寝入りはしない——嫌なものはいや！ NO！ と声を上げよう』とのメッセージを託した本だ。

『女』なんていや！ 思春期やせ症を追う『ドキュメント性暴力』など一貫して、女の生き辛い問題に迫って来た宮さんのエネルギー

ーは、何に由来しているのだろうか？ この答えの一つを『セクシユアル・ハラスメント』の中に見付けた。宮さんが、M新聞社で働いていた時、男ばかりの編集委員室を通ったら、編集委員の一人に、性交を意味する隠語を大声で投げつけられ、真赤になって足早に立ち去る背に、編集委員のオジさんたちのゲラゲラ笑いあう声がこだました、という。

ひとかどの知識人であろう大新聞の編集委員ですら、この貧しさだ。日本の津津浦浦の職場は、今どんな環境にあるのだろうか？

私も思い出す。初めて教師になった時、校門に入るなり、ヒューヒューヒューと男子生徒があびせかける声に仰天した。以来、廊下で校庭で続けられるのに困惑し、年長の女教師に相談すると「それは、あなたが若くてかわいから。私のようにになったら、もう誰もそんな声かけないわ。羨ましいくらいよ」と事もなげに言われた。

教育委員会の指導主事となった三十そこそこの頃、頭脳明晰の聞こえ高い数学の指導主事が、よく私をからかった。「校長さんは面接の時、若い女の人だと、先ずさあっと腹を見るそうだ」など。初めはムキになっていたけれど、あまりの次元の低さに、無視するこ

とに決めた。頭の良さと人品は決して正比例するものでないことを痛感したのであった。

日本の職場で、男たちがこんなに恥知らずのまま、のうのうとのさばっていることを、女たちは唇を噛みながら、歯ぎしりしながら、今日まで来てしまった。今、やつと白日の下にさらされるようになったけれど、これに食らいついたマス・メディアが、性差別の怒りを抜いた流行の風俗にしてしまいかねない。

中・高生の性意識を調査した時、氾濫する情報の申し子のような彼ら・彼女らに、ある種の痛ましさを感じた。週刊誌が競って載せるセクハラなる情報を、彼ら・彼女らはどんなふうに読んでいるのだろうか。

学校に通っている間に、考えを深め、世の動きを捕える目を育てることなく、自分の思いを口に出して、他の人の意見を聞くチャンスを豊かに持つことなく、職場に入っていく彼ら・彼女ら……。いや、女教師自らも、職員室でセクシユアル・ハラスメントにあっちはいいんだらうか？ 男教師の性の被害に遭う女生徒が、日本のあちこちにいる。学校の中の性差別に腰を据えて取り組まなくては。断じて一過性の熱病にしてはならないのだ。

Weに なんでも言おう なんでも聞こう

◆東京の佐藤哲生さんの主張については、特に私から申し上げるべきことはありません。佐藤さんと私の立場が、敵対的であるとは思えませんので、私は私で、意味のあると思う議論を続けていきたいと思ひますし、佐藤さんは、佐藤さんのような議論を続けて下さればありがたいと思ひます。

ただ、私としては、将来起こるであろう原発の大事故、地球環境の破壊、資源の枯渇などよりも、現に今存在している搾取・抑圧のほうに、はるかに大切な問題だと思ひます。Weを拝見し、取り組まねばならない課題の多さに、今さらながら驚くとともに、自分がそのうちのほんの、ごくごく一部にしかかわれないもどかしさのようなものを感じます。しかし、所詮一人ひとりの個人とは、そ

のようなものでしょうから、いかにすれば、皆さんと連帯が可能なのか、そのことを忘れないようにしながら、やはり私は私の道を行こうと思ひます。
(京都・小出裕章)

◆「コミュニケーション」の特集の「波」を読んで、やはり「性」について、しっかりした考えを持たなければいけないと痛感しました。今、私の勤務校では、ここ三年間継続して性教育の研究をしています。授業そのものは、各学年年間二〜三時間にすぎませんが、市内の養護教諭部会も、性を取り上げ研究していますし、他の小学校でも、両親学級の折に、村瀬幸浩先生の講演会を催したりしています。少しずつですが、小学校から「生き方としての性教育」ということでやっています。

私のクラスでも、三時間にわたって授業をしました。それをまとめたものを親に配布し、親からも感想を書いてもらいました。今学校全体が、比較的落ち着いているので、このような授業も行えるのだらうという話もありますが、中学生という多感な時期に、素直な目で見つめてくれるのがうれしいです。

三年生は、二か月間だけでしたが、男女共修で「保育」の授業がありました。私のクラ

スの最後の幼稚園訪問に、私もビデオカメラマンとして行ったのですが、生命の誕生から乳幼児期、少年期、青年期と学んだあと、五歳児と交流をもち、それはそれは楽しい時を過ごせました。折り紙を教えてあげたり、肩ぐるまや鬼ごっこで、どちらが園児かわからないほどでしたが、男子の保兄（？）ぶりのすばらしさに、また感動です。このままだと、いい父親になるだろうな、と思いました。保育の授業に意欲的だったのも、圧倒的に男子でした。頼もしく好ましく、です。女子もがんばってほしいです。

(敦賀・高嶋みどり)

◆十二月号の「波」、幼女連続誘拐殺人事件のこと、読みました。生徒に夏休み中の新聞記事のスクラップを課題としていたのですが、このことを多く取り上げている人が多く、授業の資料として考え、書かせていました。

しかし、この後どうすすめるたいのか、難しく、そのままになっています。「波」が参考になりそうです。こういう視点で書いている人が少なく、彼の母が悪い、彼本人が悪い、というのが多かったのです。

(神戸・西本和代)

◆「波」を読ませていただきながら、性暴力

に關して、いろいろに考えさせられました。

実は、最近知り合いになった大学の先生から、障害者の女性、重度障害者の多くは、性暴力の被害を受けていると聞かされました。

また私自身、老人病院や専門療養所の中で

水情報 2 *

また新しい難問、高校新
教育課程の移行措置

一九九四年度から高校の学習指導要領が実施されるが、文部省は十一月三十日、移行措置を告示。新聞は「日の丸・君が代の義務化、高校も来春から」の見出しで報じた。告示内容は、いずれも、先取りして実施することが「できる」という表現なのに、特別活動だけが、学習指導要領の「規定によるものとする」と強制している。入学式・卒業式などの日の丸・君が代を事実上義務化した規定も、この特別活動の一つであるところから、新聞は、これを見出しとしたのであろう。

「1 総則の特例」で、新設の「その他の教科・科目」や、家庭・農業・商業・水産の新科目「課題研究」、更に普通科でも、情報、職業、技術などの教科・科目をいち早く設けることができる。いわゆる高校の弾力化策や、情報・技術教育に力を入れていることが

言葉による性暴力を経験してきました。それは、私はいわゆるワイ談なるものに付き合わないために、看護婦さんや助手さんから、ずいぶんと嫌味を言われてきました。

老人病院など、痴呆症の方に対するワイ談

分かる。

私達の関心、家庭科については、「家庭一般」をすべての男子に履修させる場合、全ての男子・女子の「体育」の指導は、学習指導要領によるものとして、全日制・普通科のすべての男女が「9単位を下らないようにするものとする」と記している。文部省は、積極的に男子の家庭科履修を進めようとしている、と受け止めた方もいたかもしれない。

「2 各教科等の特例」の「保健体育の特例」で、その全部または一部を「新高等学校学習指導要領の規定によることができる」とある。男女共学校で、来春から家庭一般をすべての男子に履修させることができるが、その際、体育は男女とも9単位を下つてはならないのだ。現在は、女子7単位、男子11単位で、その差4単位が女子必修の家庭一般になっていることは、御承知の通り。

だから男女とも体育9単位を下らずに、男

は、聞いていて実にイヤになります。性暴力は、男女を問わず、弱者に対する暴力です。もちろん、力によるものは、もっと悲惨に思われます。そんなことを考え、読ませていただきました。

(岩国・森 章二)

女とも家庭一般4単位を履修させるためには、他教科の時間を2単位回さなければならぬ。なぜって、4(家庭一般)+7(体育)=11+9=13 従つて2単位オーバー。他どの教科が2単位放出するだろうか？

いち早く準備を整え、職員会議で奮闘し、来春から共修OKとなった学校でも、今度の移行措置の告示は、男女共に家庭一般を学ばせるなら、女子の体育を2単位ふやせ、というものだ。他教科から2単位ひねり出さないうもの。家庭一般は2単位しかできなくなる。限り、家庭一般は2単位しかできなくなる。九四年、移行措置の間、2単位の家庭一般を実施したら、いよいよ一九九四年を迎えたと、家庭一般4単位の時間割を組めるだろうか？ 非常に積極的で、力のある先生は、はたと悩むことになる。また、完全実施の時のことは、別に考えとしても、今、女子の家庭一般が2単位に減ることには、納得できない方がほとんどだと思う。



Weの 読者会だより



〈兵庫Weの会〉

◆十一月三日(金) 神戸市勤労会館で「高齢化社会を考える」というテーマで例会を持ちました。参加者十二名。

前回お話しいただいた村岡さんのご紹介で広島ボケ老人をかかえる家族の会の村上敬子さんに来ていただき、お話をうかがいました。村上さんは、おつれあいの父・母のボケにつきあい、ひとり、そして現在、おばさんの介護をされています。そしてその体験をもとに、ぼけ老人をかかえる家族の会をつくり、社会的なケアを行政の方にも呼びかけておられます。

三人目で要領がよくなり、また嫁という立場を離れての介護のため、楽しくおばあさん

のボケにつきあっておられる様子、参考にありました。公的施設を利用し、週一〜二回面会という形でかわっておられます。三人のボケ老人介護ができる背景には、知恵おくれのご長男を育ててこられた体験や、そのご長男から励まされたことも多いという。

子どもとかわかることで大人の生も豊かになるように、老人とつきあうことでまた人生も豊かになるのでは、そのためには嫁とか、家族だけが背負うのではなく、社会の受け皿がまだまだ必要だと痛感。困難をのりこえな

〈We 関西春のつどい〉

「好きです『新男類』」
— 90年代は女男共生の時代 —

◆兵庫・大阪・京都のWeの会会員が、力を合せて、春のつどいを開きます。夏のフォーラムを充実したものにするために、その前段階として、論議を深めることも目的の一つです。春休みに入ったばかりの日曜日、ぜひ、大勢の方が参加して下さいますように、遠方からご参加の方のために、素泊り二千円で前夜・当夜、会場に宿泊できます。

がら、明るく話される村上さんのお話のあと、老いが、ボケが、マイナスとならない社会、それは障害をもった人にとっても、その人なりに自立できる社会などと金森さんと話して帰りました。障害者の問題ともどこかでつながってきます。

次回は、一月七日(日)、神戸市勤労会館。最近メンバーが固定してきて、兵庫の家庭科の先生が少ない。もっと輪をひろげるにはと、今後のすすめ方、内容を検討中です。

(西本和代)

- 日時 三月二十五日(日) 午後一時〜五時
- 会場 神戸学生青年センター(阪急六甲口下車) ☎078・851・2760
- パネラー 関西育時連、結婚改姓を考える会、男の家庭科教師に交渉中。
- 参加費 七百元(飲物つき)。保育室あり。
- 問い合わせ先 西本和代 ☎078・781・9427(小山方) or ウイ書房

！ Weの会通信 ！

連絡先 石川由紀
東京都世田谷区上野毛4-19-12
☎03-701-8578
FAX 03-704-2254
本欄編集担当 平井雷太
東京都文京区本駒込6-15-1
河西ビル5F すべーすらくだ
☎03-941-4659
FAX 03-941-5427

◆ Weの会総会報告

十二月二日(土) 東京・渋谷にて、Weの会総会が開かれました。前年の総会で、Weの会の活動の自立と活性化を図って、ウイ書房から「独立」した形をとり、会計、渉外、Weの会だよりの編集、行事の担当者等を決めて一年間やってきましたが、それらを点検し、その反省の上に立って、今年の活動計画等について話し合われました。総会に先がけて、「Weの会の活動について」というアンケートを会員に依頼しましたので、回答を寄せて下さった方々のご意見も紹介され、また関西から岩瀬さん、吉田さんが出席下さって、関西Weの会で出た意見・問題も伝えていただき、例年とちがって、より多くの方々の意見が反映された会となりました。

昨年の活動では、初めてWeの会独自の取り組みとなった春のゼミナールが、諸々の原因により失敗に終わったことから様々な反省が出、行事を企画する場合は、各自がこれを取りたいという内発性を持ち寄ること、春にゼミをやるならもっと以前から準備を始めること、また今までずっと東京で開いて来たが、他の地域で行ってはどうかなどの意見が出されました。熊本で開かれた夏のフォーラムは、「We」冬の増刊号にまとめられたように、熊本実行委のメンバーの地味な、そしてパワフルな活躍で、大成功の内に終わり、首都圏にバトンタッチされて、'90フォーラムに向けての準備が始まっています。

十一月にもたれた秋のつどいは、ウイ書房が主催。初参加の人が半数近くで、家庭科におけるコンピュータの問題について活発に討論が交わされました。今後、家庭科教師向けの勉強会を継続的のもっていくことを検討していくとのことでした。

次に、関西と関東で隔月に発行して来たWeの会だよりについては、内容が濃く大変おもしろかった。お便りの交換があったのいいなどの感想が多数寄せられていました。今年は、東北・熊本・関東・関西の各ブロック

で、持ち回りで発行していくことになります。また昨年初めての試みだった合評会は、We誌について語り合い、編集部と意見の交換が出来るということで、貴重な場であるのですが、皆が忙しい生活の中で、なかなか時間が取りにくく、東京では当分の間お休みということになりました。

最後に、会計からの提起として、これまでのWeの会の残金の使い方について話し合われ、「90フォーラム実行委から要請のあったフォーラム用準備金として30万円を貸し出すこと、総会への地方よりの参加者に、いくらかでも交通費の援助を今後検討していくことが決まりました。以下は、今年の世話人です。

(山形) 大場広子、(福島) 西内みなみ、(埼玉) 磯部幸江、川崎絢子、錦真理、(千葉) 山本栄子、(神奈川) 稲邑恭子、(東京) 芦谷薫、石川由紀、金子博、蔡和美、鈴木昭彦、武田秀夫、東田洋子、平井雷太、藤武礼子、間瀬中子、若竹キミイ、若竹稜子、(静岡) 梶原公子、(長野) 宮崎春美、(大阪) 浅井由利子、岩瀬志津子、(京都) 村岡洋子、(兵庫) 入江一恵、河上紀子、西本和代、(岡山) 丹原恒則、(熊本) 桑畑美沙子、立山ちづ子、(鹿児島) 横山雅子

「マーシャルの中の 男女役割を問い直す会」

〈吉田 清彦〉

会の発足は一九八四年十月。「楽しみながら息長く」をモットーに、年二回のCMコンテストと、同じく年二回の会報発行という態勢でスタート。腰をすえて、じっくり長期戦。とりあえず十年、二十冊の会報を積み上げることに、CMの中の男女役割を問い直す声の一つにまとめて大きな流れを作りだしてゆきたいという、「壮大」な計画で臨んだ。

以来五年と少し。コンテストはすでに十回を数えたが、会報は昨年十月やっと第五号を発行。予定の二分の一だが、反響の広がりとともに頁数は増える一方で、創刊号はわずか十四頁だったのが五号は何と百十二頁。会報を通じてすでに延べ二千五百人近くの人達の手に私達のメッセージは届いている。CMコンテストでは、「そろそろやめてCM」とともに、「なかなか好感CM」も選定。また、「やめてCM」には、「こういう風に変えてみたら」という提案も行っている。「提案型」の運動を展開するなかで、CMの作り手や送り手との対話・交流の場づくりをも意図したわけだが、会報の申し込みなどから見るかぎり、その手応えは想像以上のものがある。

会員制はとらず、四～五人の世話人で運営。会報の読者すべてが「会員」である。会報第五号は送料共で一部千十円。連絡先 〒657 神戸市灘区上野通7-1-4 ☎078-801-4652

↑振替／神戸2897 CMの中の男女役割を問い直す会

自己紹介—ぶるイキイキ

都立高校の男女同数定員を 実現する会（準備会）

〈盛生 高子〉

都立高校の男女定員に格差があるという事は永く言われ続けてきましたが、いまだに解決されていません。

旧男子系ナンバースクールの定員差も、改善しつつあると言いつつも来年度でもやっと40%を越えたばかりだし、その他にもまだまだ問題は多い。

にもかかわらず、都教委は「男女枠の早期撤廃」の意見をまとめ、実施を目ざして動いています。

一見合理的に見える枠撤廃がどのように作用するかは、枠を定めていない府県の状態を見れば、差別拡大の方向に働くことは目に見えています。

例えば静岡県立韭山高校のように、出願段階での指導などによって女子の入学制限が行われて、男女比はますます大きくなり歪んだ学校格差を生む結果となるでしょう。

将来的には徹底に向かうとしても、社会全体が男女平等にほど遠い現状での導入には、強く反対せざるを得ません。

従来からの同数枠要求に加えて、枠撤廃に対する反対運動が今後重要になると考えられます。

一月末には、規約、年会費も決めて活動を始めますので、御参加をお持ちしております。

連絡先 〒185 東京都国分寺市新町2-19-4 盛生方

☎0423-23-4430

泉

この頁は、あなたと私の情報交換の場。小さなスペースですが、ご利用ください

◆第二回読書フォーラム

「アガサ・クリステイの真実」

クリステイは、女性の内面的な自立を扱った「未完の肖像」等の小説も書いています。今回は、彼女の知られざる一面を取り上げ、翻訳家の中村妙子さんのお話を聞きます。

日時 一月二十三日(火) p.m.一時～三時半

場所 神奈川県立婦人総合センター会議室
参加費 無料

・託児―二歳～六歳 あわせてお申し込みを
・申込先 神奈川県立婦人総合センター生涯学習部 (〒251 藤沢市江の島1-11-1)

☎0466-27-2111 内線562)

◆やめさせようノセクシャル・ハラスメント

セクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ・脅かし)が、多くの女たちに共通する社会的な問題であることを明らかにするための「一万人アンケート」にご協力ください。

・問合先 働くことと性差別を考える三多摩の会 (東京都国分寺郵便局私書箱32号)

☎0423-22-8299) 葉書で)連絡を。こちらから郵送します。(カンパもお願いします。)

振込先―郵便振替 東京0-256128)

◆「誰にでもわかる女と政治」(改訂版)

・B5版 180頁 千円

送料二六〇円二冊以上無料

・申込先 安東尚美 (〒614 京都府八幡市八幡土井102-5 ☎075-882-9162)

郵便振替 大阪-10806

◆「素敵に生きる女の母親学」 森本邦子著

自宅の電話を「幼稚園一〇番」に開放した心理カウンセラーの著者が、相談の体験の中からきづいた現代・子育て論、母親論。

海竜社 千百円

◆「ミニコミ誌「おんなの叛逆」 35号・36号

・しんどかった「こうあるべき」の圧迫感(森川早苗) 不当解雇許しません(片岡陽子)

・特集「自信ないけれど」(久野綾子、北村しげ子) 以上35号

・性的いやがらせ一万人アンケート(長井チエ子) セクシャルハラスメント(段林和江)

・行動派・中嶋里美さんに聞く(久野綾子) 出生差別の法改正を求める(唐澤幸子)

・A5判 48頁 二五〇円送料二〇〇円

・問合先 久野綾子 (〒467 名古屋市瑞穂区桃園町堀田団地4-704 ☎052-822-2550)

◆ウィ書房からのお知らせ

①近刊 詩集「夢運び屋」(一五四五円)羽生槇子

②切り絵の絵葉書、ご利用ください。

昨年度の表紙うらの「四季のうた」でおなじみの金子静枝さんの切り絵です。

・五色五枚一組 三〇〇円 送料一組62円、二組72円、十組以上は無料。(お申込みはウィ書房まで)

★情報をお寄せください

集会・映画会・読書会・コンサート等の催しの案内から、本・資料・ミニコミ誌の紹介まで、いろいろなお知らせにこのページを活用してください。催しの案内は、二カ月くらい前に届くようにお願いします。

十路

〈北海道〉「アイヌ新法」求め東京集会(朝日11/18)

差別色の強い「北海道旧土人保護法」に代わって、民族の自立を基にした「アイヌ新法」の制定を求めている北海道ウタリ協会(会員約一万五千人)が、十一月十七日、東京・霞が関で「アイヌ民族の新法制定を考える集い」を開き、約五百人が参加した。「アイヌ新法」は昨年八月、同協会などが国に制定を要請した。しかし、立法に取り組むための関係省庁の窓口すらまだ決まっていない。国連人権委員会の下部組織である「差別防止・少数者保護小委員会」の日本政府代表委員、波多野里望学習院大学教授が「アイヌ差別」とも受け取られる論文を「社会科教育三月号」(明治図書)に発表し、人権擁護団体の反発を招いている問題で、同会の野村義一理事長は、この席上「今後誤解を招くような発言を続けるなら波多野さんの推薦を取り消すよう政府に要求せざるを得ない」と語った。

(高橋芳恵)

〈長野〉「日の丸」「君が代」指導 小・中学校では(信濃毎日12/4)

松本市で十一月に開かれた県教育研究集会の分科会のうち「平和と民族の教育」では「日の丸」「君が代」が論議の柱となった。県下の小学校の今春の入学式で「日の丸」を掲げたのは99・5%、中学校は98・0%。ともに全国平均を5・7ポイント上回った。「君が代」の斉唱率はそれぞれ52%、73%で、50・60%台の全国平均と大きな差がある。この傾向は四年前の調査と同様だが、高校の「日の丸」17・8%、「君が代」0%と比べるとだいぶ違う。先の分科会にも、小中学校からの参加者は少なく、ある教師は「実際、職場で『日の丸』『君が代』の論議をあまり深めてこなかった」と語った。また、小中学校では、式典に地域の「有力者」が出席し、「日の丸」を掲げないとストリートな形で苦言が寄せられるなどの事情もある。

(宮崎春美)

〈石川〉「私の主張」発表会に「原発」は取り上げないで(11/16、19)

原発建設計画で市民の賛否が分かれる珠洲市で、十一月二十五日に開かれる予定の第五回中学校「私の主張」発表会をめぐり、「原発問題を取り上げないでほしい」と主催者側が参加校の校長に要請。これに対して県教組珠洲支部が「自由な表現の場を奪うのはおかしい」とこの指示を撤回するように申し入れていることが十五日、分かった。発表会は、同市明るい社会づくり推進協議会など三団体が主催。市立中央公民館が主管。また十八日まで主催者の同会大屋雄幸会長と主管の同市立中央公民館の亀田良一館長の連名で各中学校に発表会中止の通達があったことが分かった。過去三回までは、学生生活、部活動、家庭生活などがテーマだったが、昨年の大会に出場した二人が原発の危険性を訴えた。ところが、原発反対の主張を記録集に残すのはどうかという意見が出て、例年出している記録集発行が中止になっている。(荒井紀子)

27
〈埼玉〉「高階の年中行事」を刊行(毎日11/

川越市高階地区の主婦らで作っている「高階歳時記編集委員会」がこのほど地区のお年寄りなどの話をもとにまとめた「高階年中行

事」を刊行した。本は「正月の章」「春」「夏」

とは」と話す。

(渋谷裕子)

「秋」「冬」「まつり」の六章で構成されている。八日節供や丸日(まるび)など珍しい行事も掘り起こしている。伝統行事は、75年の町村合併を機に途切れているなど新しい発見もあった。価八〇〇円 問合せ先 高階公民館

〈大阪〉一人で電車に乗れないわ 身にしみる障害者の壁(朝日11/26)

(0492・42・0064) (協美智子)

障害者やお年寄りに利用しやすい交通機関の実現を目指して運動している市民グループ

「駅ホームにエレベーターを! JR環状線利用者の会」が十一月二十五日、JR大阪環状線の全駅と関西線東部市場前駅の計十九駅で、券売機や改札口、階段、ホームなどが車いすで利用できるかどうか総合チェックした。障害者やボランティアら約二百五十人が参加。参議院議員の紀平梯子さんらも車いすで切符を買って電車に乗り込み「こんなに大変だったとは……」と実感していた。

(大江美香子)

〈神奈川〉トマホーク艦配備発表! 怒り募らす市民団体(朝日11/11)

在日米海軍が横須賀基地に、核・非核両用の巡航ミサイル・トマホークを搭載できるイージス艦を配備する、と発表したことに、市民団体は怒りを募らせている。駆逐艦もトマホークを積むための垂直発射装置(VLS)を装備中というところもあり、これでは横須賀に来る時は、両方ともトマホーク配備対象艦である可能性が高いことになる。横須賀基地を母港とする米海軍の十隻のうち、四隻までが核兵器搭載可能艦であることに「米国は日本の非核政策の転換を望んでいる」という指摘さえ市民団体から出始めた。「反トマホーク署名運動」の代表世話人、品川哲朗さんは「世界のさう勢が、軍備縮小へ向かっているのに、横須賀が大型基地化していく

〈京都〉「恋人リサーチ」発祥の地・京大で集会(朝日11/24)

趣味や身長、体重などでランクづけした若い女性の個人情報有料、または無料で男性に紹介する「恋人リサーチ」は京大が発祥とされ、ここ五、六年で全国の大学の学園祭に広がり、性の商品化、性差別との批判が出て、トラブルも起きている。これに反対する

学生らのグループ「恋人リサーチなんか千年灸で燃やしたれ」の会」の主催する集会が二十三日「十一月祭」でにぎわう京大キャンパスで開かれ約八十人が参加し、「男女の良い出会いとは」「性差別の現状」などを話し合った。「千年灸の会」の池田荘司さんは「女らしいとか男らしいとか、性を規格化する思想が恋人リサーチの背景にある。性差別全般に視点を広げた取り組みを続けたい」と話している。

(塚崎美和子)

〈奈良〉学外の専門家が小学校で授業(朝日11/17)

五条市中之町の市立牧野小学校(横田宗校長)は十月から実社会の各分野で活躍する専門家を「ボランティア講師」として招き、子どもたちに「生きた授業」を進めている。これまで、スウェーデン人牧師が「国際親善」(四年生の道徳)、林業家が「森林を育てる」(五年生の社会)、パイロットが「将来の夢」(三年生の道徳)等の授業を終えている。横田校長は「その道の専門家の話は、子どもも興味を持ち、学習意欲を高める。専門家を招くことで先生たちにもふだんの授業の参考になっている」と話している。

(乾庸子)

700人近い婦人自衛官の採用増加を決めた。最近では、きつい、汚い、危険で「3K産業」などと男性に不人気だけに、女性パワーに期待しようと隊舎の整備などを急ぐことにしている。

陸上自衛隊は、昨年より500人増やして800人近くにすると、すでに駐屯地の受け付けやラップ手、訓練に使う大型トラックの運転手、電柱に有刺鉄線を張る通信隊員など、戦闘職種を助ける職場に配置している。給与や昇進が男女平等なことが人気の理由でこれまで応募は6、7倍の狭き門だった。(12.4日付朝日)

★「死刑存続」3人に2人

総理府が3日発表した「犯罪と処罰に関する世論調査」(20歳以上の男女2293人回答)によると、9割以上の人が「凶悪犯罪が増えている」と感じ、3人に2人が死刑存続の意見を持っていることが分かった。ともに前回('80年)の調査に比べて両方とも増加しており、凶悪犯罪への危機感が死刑存続論に結びついているようだ。死刑存続の根拠(複数回答)は「凶悪犯罪は命をもって償うべきだ」(56%)、「死刑を廃止すれば悪質な犯罪が増える」(53.1%)などが多く、逆に死刑廃止の理由では、「裁判に誤りがあると取り返しがつかない」(45.8%)、「人道に反し、野蛮」(43.3%)、「更生の可能性がある」(34.2%)などだった。(12.4日付朝日)

★陪審制の是非検討

最高裁(矢口洪一長官)は、国民が司法に参加する「陪審制」の研究に着手しているが、昨年暮れ、諸外国の実情調査の第一陣として、米国に派遣された竹崎博允・東京地裁判事の調査報告によると、米国の陪審制の長所・短所を指摘したうえで、今後、海外調査と並行して、国民の批判も少ない日本の司法の現状について徹底調査を行なうよう求めている。この報告をうけ、矢口長官は、「国民の司法参加のあらゆる道を、今後十年計画で探りたい」と明らかに

にする一方、第2、3陣の海外派遣を決めており、この問題をめぐる最高裁の前向きな姿勢が、論議を呼ぼう。(11.29日付読売)

★交通死亡事故に「非常事態宣言」

'89年の交通事故による死者は、11月27日までに9,934人を数え、13年ぶりに1万人をこえた'88年を7%も上回り、政府は28日、初の「非常事態宣言」を出した。背景には、「夜型生活」の一般化に伴う夜間の事故、社会の高齢化に従ってのお年寄りの死亡の増加などがあり、警察庁は「取り締りの強化だけではもはや対策は限界。車メーカーの利益を道路や安全施設づくりの資金に還元してもらうことなども働きかけていきたい」としている。(11.28日付朝日)

★脳死容認前向き

日弁連人権擁護委員会の「脳死と臓器移植に関する人権擁護委員会第4部会」は、22日までに、最近の脳死をめぐる問題について「脳死を人の死と認めるのに、大きな障害はないと思われる」と消極的な言い回しながら、脳死容認に前向きな姿勢を示す同部会の意見書案をまとめた。日弁連はこれまで、脳死を個体死と認めてよいとする見解に対して、「人権上問題があり、安易に臓器移植をすべきではない」との姿勢を示していたが、今回の意見書はこれまでの消極姿勢から踏み込んでおり、波紋を呼びそうだ。(11.22日付読売・朝日)

★女性議員の倍増訴え

ジュネーブに本部を置く列国議会同盟(IPU)はこのほど、「女性の政治参加」をテーマに、当地でシンポジウムを開き、世界の女性国会議員を2000年までに倍増、全体の4分の1に——と訴える最終文書を採用した。'79年に国連で採択された女子差別撤廃条約を、まだ99か国しか批准せず、批准した国でも条約に反した法律、規制がある事実が示された。(12.9日付朝日)

★「冷戦の終結」を宣言

ソ連、東欧の急激な改革の進行に対応するため、地中海のマルタで開かれた米ソ緊急首脳会談は3日、欧州新時代に向けての新米ソ協調時代入りを宣言して終了した。終了後の共同記者会見で、「米ソ関係は全く新しい時代に入った」（大統領）、「冷戦は過去のものになった」（議長）と語り、両首脳は、戦略核削減交渉合意を目指す米ソ首脳会談を'90年6月に開催することを確認するなど、広範囲にわたって米ソ協調を強化、拡大することで一致した。

しかし、東ドイツではこの日開いた社会主義統一党（共産党）中央委員会総会でクレンツ党書記長はじめ党中央委員会の総退陣が決定。またチェコスロバキアでは新政府が初閣議で同国駐留のソ連軍撤退を要求する交渉開始を決議した。こうした動きは東欧の激動が米ソの対応をはるかに超える速度で進んでいることを劇的に示すもので、米ソ協調体制の多難さを象徴している。（12.4日付読売）

★政府開発援助（ODA）で無駄の指摘

会計検査院がアジア、アフリカなどの援助国の内、三か国、七件（援助総額398億円）を調査したところ、相手国との連携不足などで援助金のムダ遣いがあることが8日報告された。外務省の無償援助で、15億円余りをかけて市下水処理施設を作ったものの、相手国側の市の予算がなく、末端の下水道建設が遅れたため、施設が十分活用されていない例や、海外経済協力基金（OECF）が'82年、道路建設に使う建設機材の購入資金62億円を貸付けたが、相手国の建設費が計画通りつかず、十分使われなかったケースなど。検査院では「内貨予算不足に対する措置の検討や国内の援助実施機関の連携を強化すべきだ」と指摘しているが、援助の窓口になっている外務省では、「見通しが甘いといわれれば、それまでだが、途上国では日本的なペースでは事が運ばないことも多い」と話している。（12.9日付読売）

★「日の丸」「君が代」高校も義務化

文部省は30日、'94年から段階実施される高等学校の新学習指導要領の一部内容を来年度から先取りすることを決め、そのための移行措置を告示した。告示内容はいずれも「（先取り）できる」との表現で現場の判断に任されているが、唯一の例外が特別活動で「（新指導要領の）規定によるものとする」と強制する形。入学式や卒業式などでの日の丸、君が代を事実上義務化した規定もこの特別活動の1つで、来春からの先取り実施が義務付けられた。

このほか、家庭科の「男子必修」が新要領に盛り込まれたのに伴って、移行期間中に男子全員が家庭科を履修する場合には、体育の単位数を減らしてもよいこと。特に必要がある時は、必修科目の単位数を少なくすることができる——などの特別措置がとられる。（12.1日付読売・朝日）

★1学級2教員の構想も検討中

文部省は、小・中の40人学級実現に向けて教職員定数の増加を図った第5次定数改善計画が'91年度に終了するのを受け、'92年度以降の次期計画の策定に向け検討を始める方針を固めた。それによると、'92年度から小学校で新学習指導要領が全面实施されるのに合わせ、小学校の音楽、図工、体育などを担当する専科教員の充実、小、中学校の1クラス2人の教師による授業——例えば中学校の英語の授業などで、日本人の先生と外国人講師が2人1組となって授業を効果的に進めようという構想——や、教科に応じて学級の枠を超えた弾力的編成を組むことなどが検討課題にのぼっている。

しかし、父母らから要望の出ている35人学級については、①集団教育のメリットが損なわれる ②教師の大量増員は財政上困難などの理由で極めて消極的だ。（11.26日付読売）

★自衛隊、女性で“補強”

若い男性自衛官のなり手不足に悩む自衛隊は、来春の高卒者だけで陸海空合わせて

●学校・教育・教師

- 83/10 今教科書問題を問う (¥500)
 83/冬 学校はよみがえり得るか (¥700)
 85/1 “学び・教える”とは (¥530)
 86/6 いじめーその根っこには何が (¥530)
 87/4 先生は悩んでいる (¥530)
 87/6 学校給食で論争しよう (¥530)
 87/7 「制服」着る、着せられる (¥530)
 88/5 学校ー絶望? 希望? (¥550)
 87/夏 女たちの教育改革提言 (¥700)
 88/夏 教育はどこへ (¥700)
 ●くらし・環境
 85/12 人間と土を生かす (¥530)
 86/1 くらしの文化を探る (¥530)

- 86/2.3 水はいのちの泉 (¥530)
 87/8.9 「原発」知らなくていいのか (¥530)
 87/12 国際居住年って何だった? (¥530)
 88/10 食と環境といのち (¥550)
 89/1 くらしの論理を創る (¥550)

◆単行本

- 「教室のミニ舞台からーこぼれ話20」 児玉澄子
 (1350円 千260)
 「らくだが翔んだ」 井平雷太
 ー教育の常識の非常識ー (1236円 千260)
 「若いいのちの像」 児玉澄子
 ー私のカウンセリング入門ー (1339円 千260)

★バックナンバーのご案内★
 ご注文は、最寄りの書店(地方小振
 い)または、料金をおそえの上、振
 替で直接ウイ書房へ。

WE EDITOR'S NOTE

◆編集室では、今の時期、年間購読の更新時には、郵便局の振替通知が、特に待ちどおしい毎日です。

Weを出し続ける意義がますます大きくなるのに、購読者数は、反比例。現実実にきびしいのです。

編集室でも毎日のようにWeを拉めるためのアイデアあれこれを出し合っています。誌面に対する、ご批判はもとより、拡販のアイデアもお寄せ下さい。(青木)

◆前月号で、原稿募集のお願いをしたばかりなのに恐縮ですが、夏増刊号は、急きょ「家庭科が変わるー情報化のうねりの中でー」の特集に変更となりました。

We秋のつどい「コンピューターは家庭科をかえるか?」の貴重な記録を前に、こちらのほうの緊急性を採り

ました。予定していた「諸外国での家庭科の実践」は、例月号でも生かしますので原稿お寄せ下さい。(稲邑)

◆この欄に書き始めた頃、「ただ今私助走中」と書きました。その後本走とも言えない走り方でしたが、この号が私のゴールです。通

巻92号、どの号にも関わられてきたことは私の誇です。トラックが着いて荷を降ろす、封を切る、新しい表紙が飛び出すー何度やってもいい瞬間でした。編集長、スタッフ、Weに集って下さった方々、みんなに心からお礼申し上げます。(中野)

♥一昨年の冬、「お手伝いの仕事は私には無理だからお断りしよう」と思い編集部

の皆さんに会いました。それなのに、ここに居座

ってしまい、四月で一年になります。でも週二回しか来ていませんから、ウイ書房のこと、まだよくわかっていません。

三番目の子が幼稚園に行く今年からは、もう少し深くかわれると思うとうれしいです。(柳田)

★Weが九年目に入ると言うとき、もうそんなに!と驚く方が多いです。八年の実績を大事にしながら、新しい局面を開くべく挑戦していきます。あなたのご支援を心からお願いします。

★We誌上に薫る個性の花、連載をご執筆下さった方々が交代されます。Weの方向を幅広く豊かなものにしていただいたことに感謝します。次号のテーマは「90年代、学校を変えよう」です。ご期待下さい。(半田)

新しい家庭科

Vol.8 No12 1990年1月20日発行
 定価567円(本体550円+税17円)送料共
 年間購読料・定価7107円(本体6900円+税207円)
 編集兼発行人/半田たつ子

発行所/(有)ウイ書房

〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14
 ☎03(326)1380 郵便振替 東京6-59867
 第一勧業銀行 調布仙川支店 普預1075292
 印刷所/(有)岩佐印刷所 〒112文京区春日1-6-7

管理・校則・体罰 問題点と改革の方法

『月刊高校生』89年11月増刊号

定価1100円(税込) 761円

「子どもの人権」条約を 批准する取り組みに役立つ

親の手記「明日がこわい」と残した日記
生徒の取り組み 体罰をテーマに文化祭
報告 シゴキ・体罰に殺された生徒 藤井四郎
論文 高校生活における生徒の人権 牧 証名
インタビュ― 懲戒処分とバイク 中野真一
論文 校則改正の基本的視点 城丸章夫
論文 校則改正のすすめ方 家本芳郎
実践 頭髪・服装検査の廃止 野田勝彦
提起 校則を生徒の権利章典に 坂本秀夫
分析 慣例的「特別指導」への疑問 柿沼昌芳

○これからの仕事ガイド

89年7月特別編集号 1600円(税込)(761円)

○行事・イベントalacarte

89年4月増刊号 1200円(税別)(761円)

○ハイティーン・セブシユアリティ

88年10月増刊号 980円(税別)(761円)

高校出版

〒100 東京都豊島区南大塚2-2-10
〇三一九四三三八六八

原発いらない！ 熱い想いをこめて

三輪妙子編著

女たちの 反原発

四六判並製
240頁、1339円(税込)

現地からの報告に加え、さまざまな女たちが想いを述べて語り合う。伊藤ルイ／千葉仁子／小木曾美和子／松浦雅代／落合誓子／伊藤至頼／堤愛子／三輪妙子／石塚友子／添野ふみ子／村田まり子／水沢靖子

女子教育もんだい

No.41 特集Ⅱ性と政治Ⅱ女性と政治・金井淑子／女性の性的人権侵害・ゆのまえ知子／変わる政治・室田康子／吉武輝子・清水澄子・堂本暁子

子どもと健康

No.19 特集Ⅱやってよいのか心のテストⅡ心理テストブームを考える・山下恒男／小沢牧子／竹内久美子／篠原睦治／石川憲彦・毛利子来 他

労働教育センター

東京都千代田区神田駿河台2-1-1
〒100 〇三〇二二五二二

最新刊 ●910円(本体882円)